

佐久市埋蔵文化財報告書 第93集

周防畑遺跡群
いり たか やま
入高山遺跡

長野県佐久市長土呂字周防畑遺跡群入高山遺跡発掘調査報告書
(古墳～平安時代集落)

2001. 3

藤田エンジニアリング株式会社
佐久市教育委員会

佐久市埋蔵文化財報告書 第93集

周防畑遺跡群
いり たか やま
入高山遺跡

長野県佐久市長土呂字周防畑遺跡群入高山遺跡発掘調査報告書
(古墳～平安時代集落)

2001. 3

藤田エンジニアリング株式会社
佐久市教育委員会



入高山遺跡航空写真(南より)(浅間を望む。青い屋根が藤田エンジニアリング株式会社)



入高山遺跡 航空写真(南より)



入高山遺跡 航空写真



H2号住居址 完掘(西より)



H2号住居址 カマド(南より)



H2号住居址 カマド(北より)



H2号住居址 カマド土器出土状況(北より)



H2号住居址 カマド土器出土状況(南より)



H2号住居址 カマド土器出土状況(東より)



H2号住居址 カマド堀方(東より)



H2号住居址 堀方(西より)



H7号住居址 遺物出土状況(北より)



H7号住居址 完掘(北より)



H7号住居址



H 7 号住居址

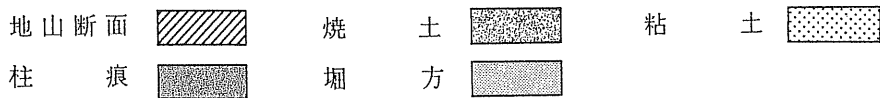
例 言

- 1、本書は平成11年度の藤田エンジニアリング株式会社による工場造築工事に伴う発掘調査の報告書である。
- 2、発掘調査は藤田エンジニアリング株式会社の委託を受け、佐久市教育委員会文化財課が担当した。
- 3、本書に掲載した地図は建設省国土地理院発行の地形図（1：25,000）、佐久市発行の基本図（1：2,500）を使用した。
- 4、発掘調査は林幸彦・佐々木宗昭・小林真寿・森泉かよ子が主に担当し、本書の編集は堺益子・森泉、執筆は森泉が行った。
- 5、航空写真はUR測量社に委託し、それを使用している。
- 6、本遺跡の遺物等の資料は佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

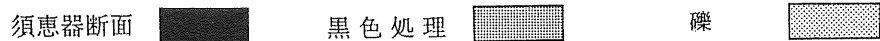
凡 例

- 1、遺構の略号は次の通りである。
H—竪穴住居址、D—土坑、P—単独ピット、M—溝址
- 2、遺構番号は発掘調査時の番号を変更しないでそのまま使用しているため欠番がある。
- 3、挿図中の遺構の縮尺は原則として1/80である。異なる場合は図中に明記してある。
- 4、挿図中の遺物の縮尺は1/4である。異なる場合は図中に明記してある。
- 5、挿図中のスクリーン・トーンは以下のことを示す。

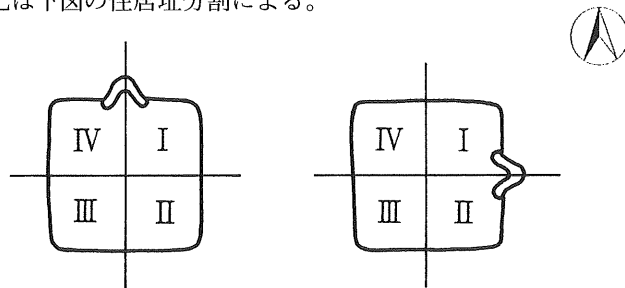
遺構



遺物



- 6、遺物の出土位置の表記は下図の住居址分割による。



目 次

巻頭図版

例言

凡例

目次

第Ⅰ章 発掘調査の概要	1
第1節 調査の経緯	1
第2節 調査体制	2
第3節 調査日誌	2
第4節 検出遺構・遺物の概要	3
第Ⅱ章 遺跡の立地と環境	4
第Ⅲ章 基本層序	6
第Ⅳ章 遺構と遺物	7
第1節 竪穴住居址	8
第2節 掘立柱建物址	30
第3節 単独ピット	33
第4節 溝址	34
第5節 円形周溝	35
第6節 陥穴	36
第Ⅴ章 総括	36
引用参考文献	39
写真図版	

挿図目次

第1図 入高山遺跡位置図 (1:50,000)	1	第17図 H6号住居址	21
第2図 入高山遺跡遺構配置図 (1:1,000)	3	第18図 H7号住居址	23
第3図 入高山遺跡発掘区設定図	4	第19図 H7号住居址	24
第4図 周辺遺跡分布図 (1:25,000)	5	第20図 H7号住居址	25
第5図 基本層序模式図	6	第21図 H8号住居址	28
第6図 入高山遺跡全体図	7	第22図 H8号住居址	29
第7図 H1号住居址・F5号掘立柱建物址	8	第23図 F1・F6号掘立柱建物址	31
第8図 H2号住居址	10	第24図 F2・F4・F7号掘立柱建物址	32
第9図 H2号住居址	11	第25図 F3・F8号掘立柱建物址	33
第10図 H2号住居址	12	第26図 単独ピット	33
第11図 H3号住居址	13	第27図 M1・M2・M3号溝址	34
第12図 H3号住居址	14	第28図 EM1号円形周溝・D1号土坑・試掘・グリット	35
第13図 H3号住居址	15	第29図 入高山遺跡集落変遷図	37
第14図 H4号住居址	17	第30図 入高山遺跡土器編年図(1)	38
第15図 H5号住居址	19	第31図 入高山遺跡土器編年図(2)	39
第16図 H6号住居址	20		

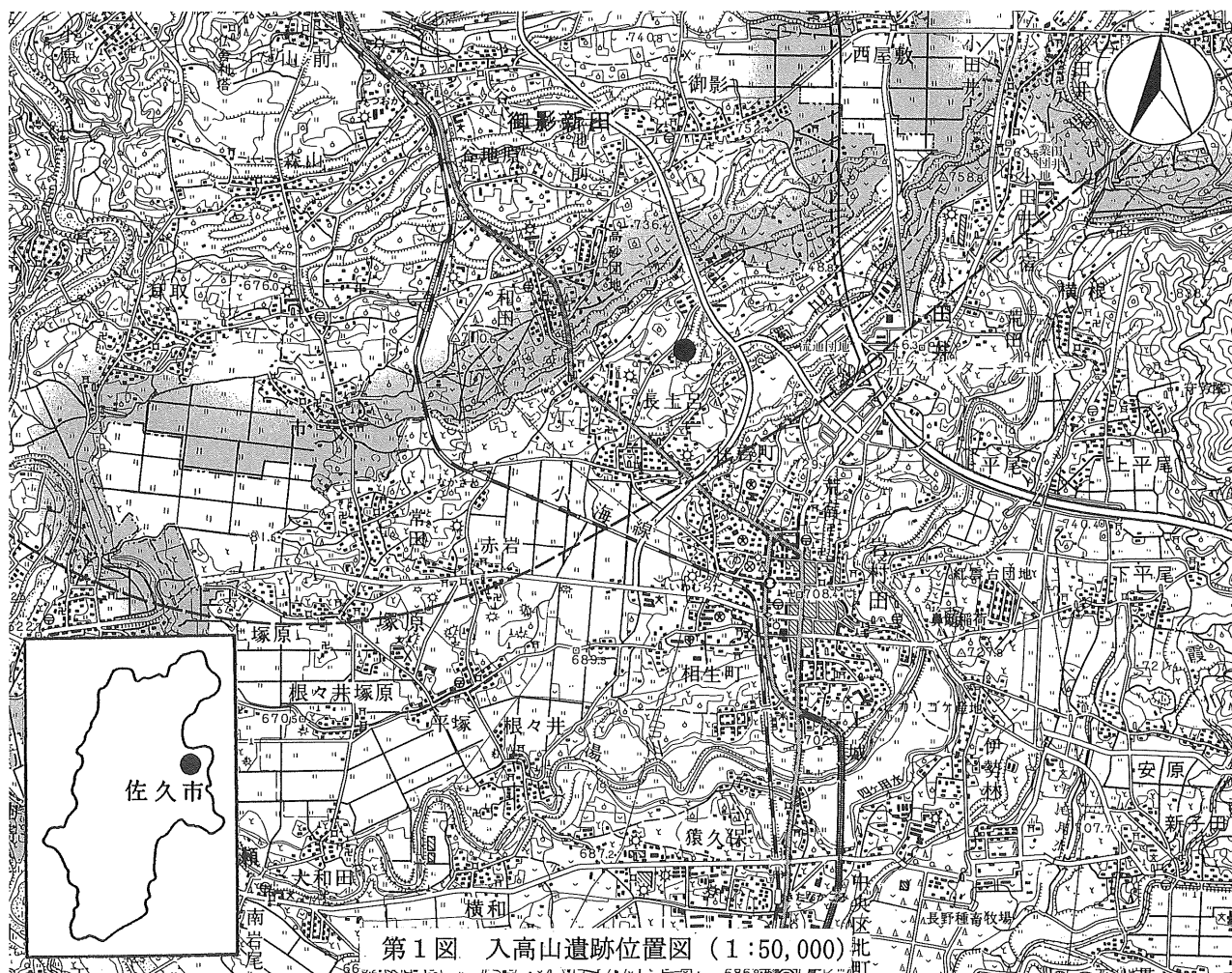
第I章 発掘調査の概要

第1節 調査の経緯

入高山遺跡がある周防畑遺跡群は佐久市の北部、佐久市長土呂地区に所在する。浅間山をみなもとの第1軽石流の堆積地域で河川の浸食により、田切り地形が発達している。標高721～724mを測る台地に位置する。この台地周辺には、北方から近津遺跡群、入高山遺跡のある周防畑遺跡群、その南に芝宮遺跡群・枇杷坂遺跡群などの遺跡群が展開している。またこの地域は上信越自動車道関係の発掘調査をはじめ、佐久流通業務団地造成事業、道路整備事業、区画整理事業、民間開発等に伴う大規模な発掘調査が相次いで行われている地域である。

今回藤田エンジニアリング株式会社により工場造築工事が行われる事になり、試掘調査をしたところ、遺構・遺物が検出された。開発により、これらの遺構・遺物の破壊が余儀なく、記録保存を目的とする発掘調査をすることになった。調査は藤田エンジニアリング株式会社から委託を受け、佐久市教育委員会が調査を実施した。

遺跡名	周防畑遺跡群入高山(いりたかやま)遺跡(略号 NSI)
所在地	佐久市大字長土呂字入高山970-1、97-13
調査委託者	藤田エンジニアリング株式会社
開発事業	工場増築工事
発掘調査期間	平成11年11月4日～11月28日
整理調査期間	平成11年11月～平成13年3月
調査面積	2,724㎡



第2節 調査体制

(調査受託者)

教育長 依田 英夫

(事務局)

教育次長 小林 宏造

文化財課長 草間 芳行

文化財係長 荻原 一馬

文化財係 林 幸彦 須藤 隆司 小林 真寿 羽毛田卓也 富沢 一明 上原 学 山本 秀典 出澤 力

調査主任 佐々木宗昭 森泉かよ子

調査副主任 堺 益子

調査担当者 林 幸彦 小林 真寿 佐々木宗昭 森泉かよ子

調査員

岩崎 重子 江原 富子 小田川 栄 木内 明美 小金澤たけみ 小林よしみ 小林百合子 小林喜久子

小山 功 佐藤 愛子 澤井 五月 篠崎 清一 中島フクジ 中條 悦子 成澤 富子 花里四之助

花里三佐子 林 美智子 細谷 秀子 堀籠 滋子 堀籠みさと 真島 保子 増野 深志 水間 雅義

柳澤千賀子 山浦 豊子 和久井義男

第3節 調査日誌

(平成11年度)

平成11年11月4日

重機で遺構検出地点の表土削平。

11月8日

重機による表土削平。

遺構検出作業。遺構の掘り下げに入る。

基準杭設定。

11月9日

遺構検出・遺構の掘り下げ開始。

11月26日

本日で現場での作業終了。

11月28日

ラジコンヘリによる航空撮影。

11月28日～3月31日

土器洗浄、注記、図面修正、写真整理作業。

土器接合・石膏復元、土器・石器実測、

遺構・遺物図のトレース作業。

(平成12年度)

平成12年4月～平成13年3月

遺構・遺物図のトレース、土器・石器実測、

遺物の写真撮影、図版作成、原稿執筆、編集を行い、報告書を刊行する。



作業風景



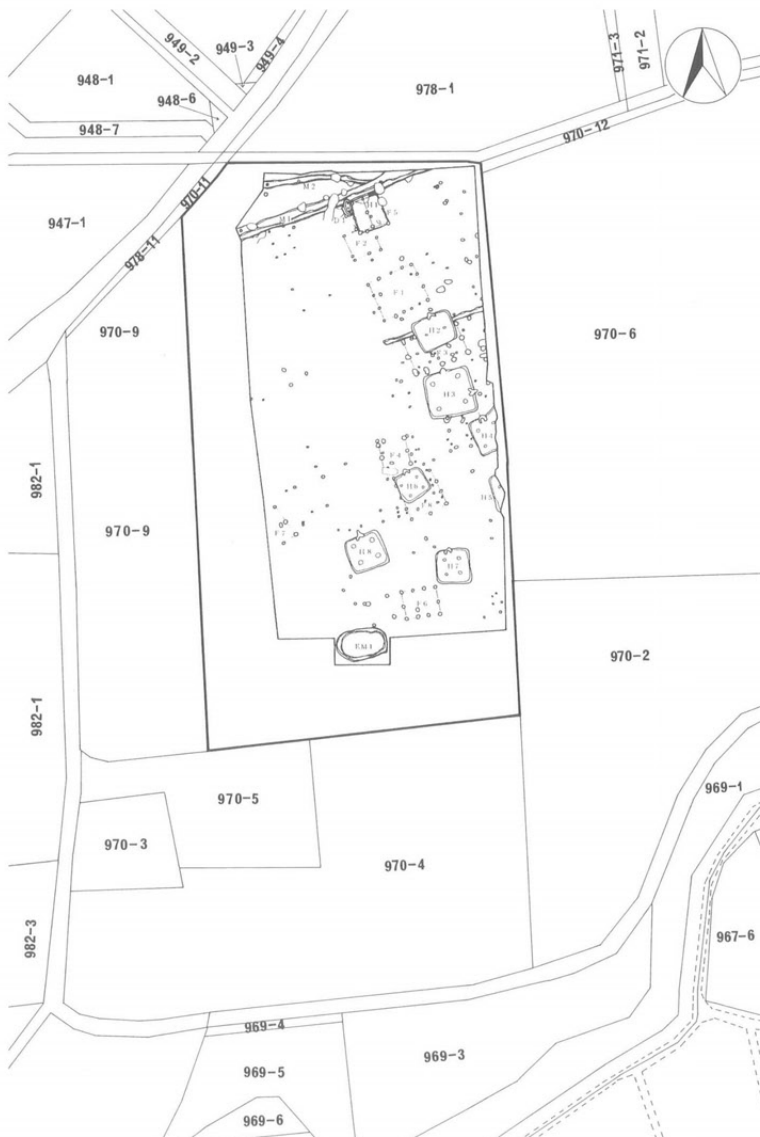
作業風景



H3号住居址

第4節 検出遺構・遺物の概要

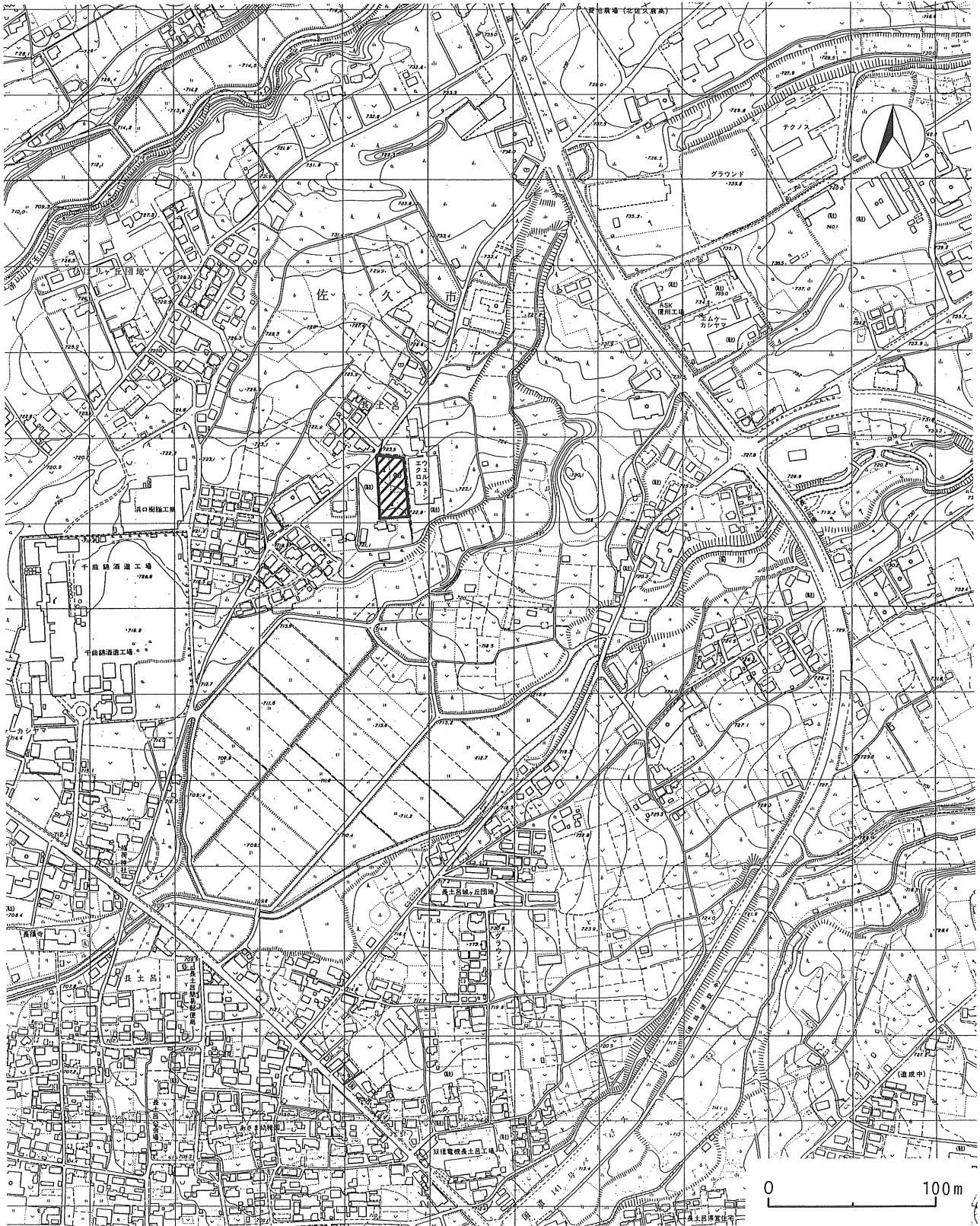
遺 構		遺 物		
竪穴住居址	8棟	土器	石器	鉄製品
古墳時代	5棟	土師器	編物石	刀子
奈良時代	2棟	須恵器	白玉	釘
平安時代	1棟		紡錘車	鉄鏃
掘立柱建物址	8棟		スリ石	飾太刀鞘尾金
単独ピット	160個		凹石	
陥穴	1基		砥石	
溝	3本			
円形周溝	1基			



第2図 入高山遺跡遺構配置図 (1 : 1,000)



第Ⅱ章 遺跡の立地と環境



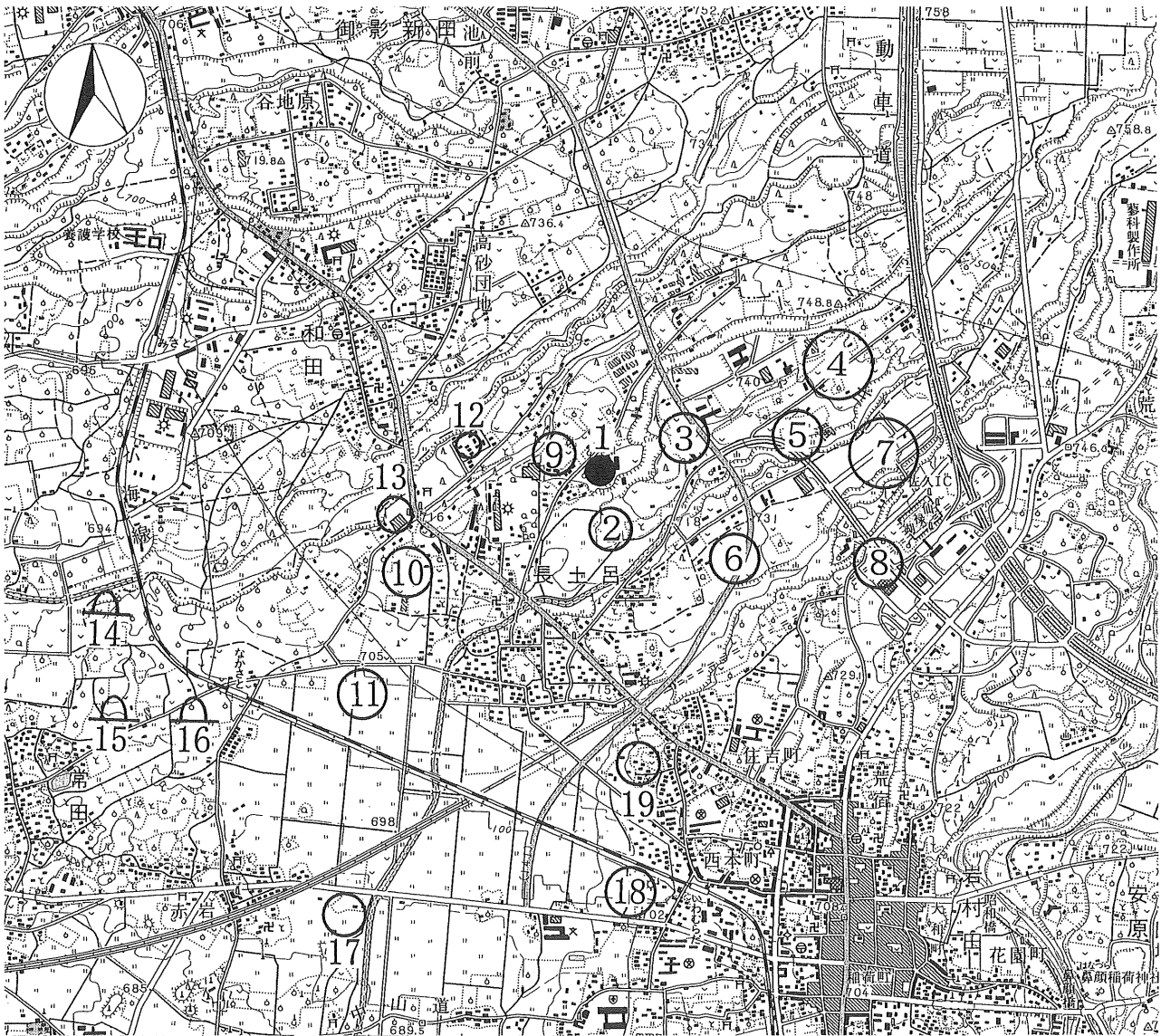
第3図 入高山遺跡発掘区設定図

入高山遺跡が所在する周防畑遺跡群は、佐久市の北部、浅間山南麓の末端部に位置する。この地域は、火山山麓特有な田切り地形が発達した地域である。これらの田切りは、御代田方面から南西方向に放射状に伸びている。入高山遺跡地点も浅間火山がもたらした浅間第一軽石流(P1)が厚く堆積している。この軽石流堆積物は固結凝集が不十分で水の浸食に極めて弱く、小さな川でも浸食されて田切り地形を形成しやすい。この田切りに挟まれた台地の一つが周防畑遺跡群で、入高山遺跡がある。南側がすぐ田切りに望む。

今回の調査を行った入高山遺跡は、南西方向に伸びる周防畑遺跡群の中央付近にあり、標高は724~721mと南に傾斜して低くなっている。50mほど南は田切りに接する地点である。佐久市北部の周防畑遺跡群、芝宮遺跡群、さらに南の長土呂遺跡群は田切り上に遺跡群が密集している地域である。この台地の遺跡群先端地点では弥生時代後期の集落が検出されている。

田切りが消滅した南方の低地には濁り遺跡があり、弥生から現在の水田まで各時代の水田層が確認されている。低地の北西に当たる地点には鷺林・東池下・下大豆塚古墳群がみられる。そしてさらに南下して湯川沿いには弥生中期~古墳時代、平安時代にわたる集落が展開している。

表にみるように入高山遺跡の周辺は古墳時代からの集落が多く、古代になって開発された地域であることがわかる。またこの台地には古墳群などはなく、この集落の首長はどこに葬られたのか興味もたれるところである。



第4図 周辺遺跡分布図 (1 : 25,000)

第1表 周辺遺跡一覧表

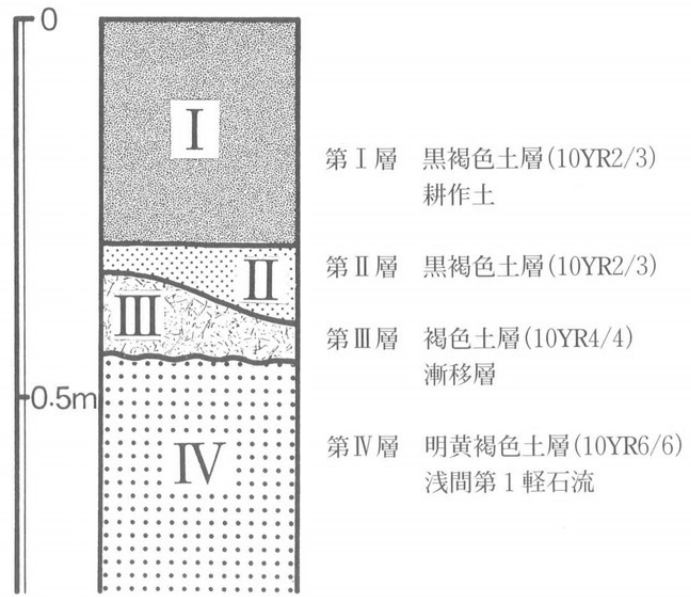
No.	遺跡名	所在地	立地	時代	備考
1	入高山遺跡	長土呂字入高山	台地	古～平	本報告書
2	高山遺跡	長土呂字下高山	台地	平	平成5・7年度発掘調査
3	上高山遺跡	長土呂字上高山	台地	古	平成元年・3年度発掘調査
4	芝宮遺跡群	長土呂字上芝宮	台地	古～平	平成5～7年度発掘調査
5	南上中原・南下中原	長土呂字南上中原	台地	古～平	昭和63・平成5年度発掘調査
6	下聖端遺跡Ⅰ～Ⅳ	長土呂字下聖端	台地	弥～平	昭和63・平成4・11年度発掘調査
7	聖原遺跡Ⅰ～Ⅸ	長土呂字聖原	台地	古～平	平成元～9年度発掘調査
8	上久保田遺跡Ⅰ～Ⅶ	岩村田字上久保田向	台地	古～平	平成元～4年度発掘調査
9	周防畑A遺跡	長土呂字南下北原	台地	奈・平	昭和54年度発掘調査
10	若宮遺跡Ⅰ・Ⅱ	長土呂字若宮	台地	古～平	昭和58・平成3年度調査
11	周防畑B遺跡	長土呂字下仲田	台地	弥～平	昭和54年度発掘調査
12	北近津遺跡	長土呂字北近津	台地	弥・平	昭和46年度発掘調査
13	西近津遺跡	長土呂字西近津	台地	弥・古	昭和46年度発掘調査
14	鷺林古墳群	長土呂字鷺林	微高地	古	
15	東池下古墳群	常田字東池下	微高地	古	昭和49年度発掘調査
16	下大豆塚古墳群	塚原字下大豆塚	微高地	古	昭和56年度発掘調査
17	濁り遺跡	塚原字濁り・丸山	低地	弥～平	平成4年度発掘調査
18	清水田遺跡	岩村田字清水田	台地	弥・古	昭和53年度発掘調査

第Ⅲ章 基本層序

周防畑遺跡群入高山遺跡は浅間第一軽石流の堆積地点であり、地盤の低い地点に黒褐色土が堆積し、漸移層下は第一軽石流である。

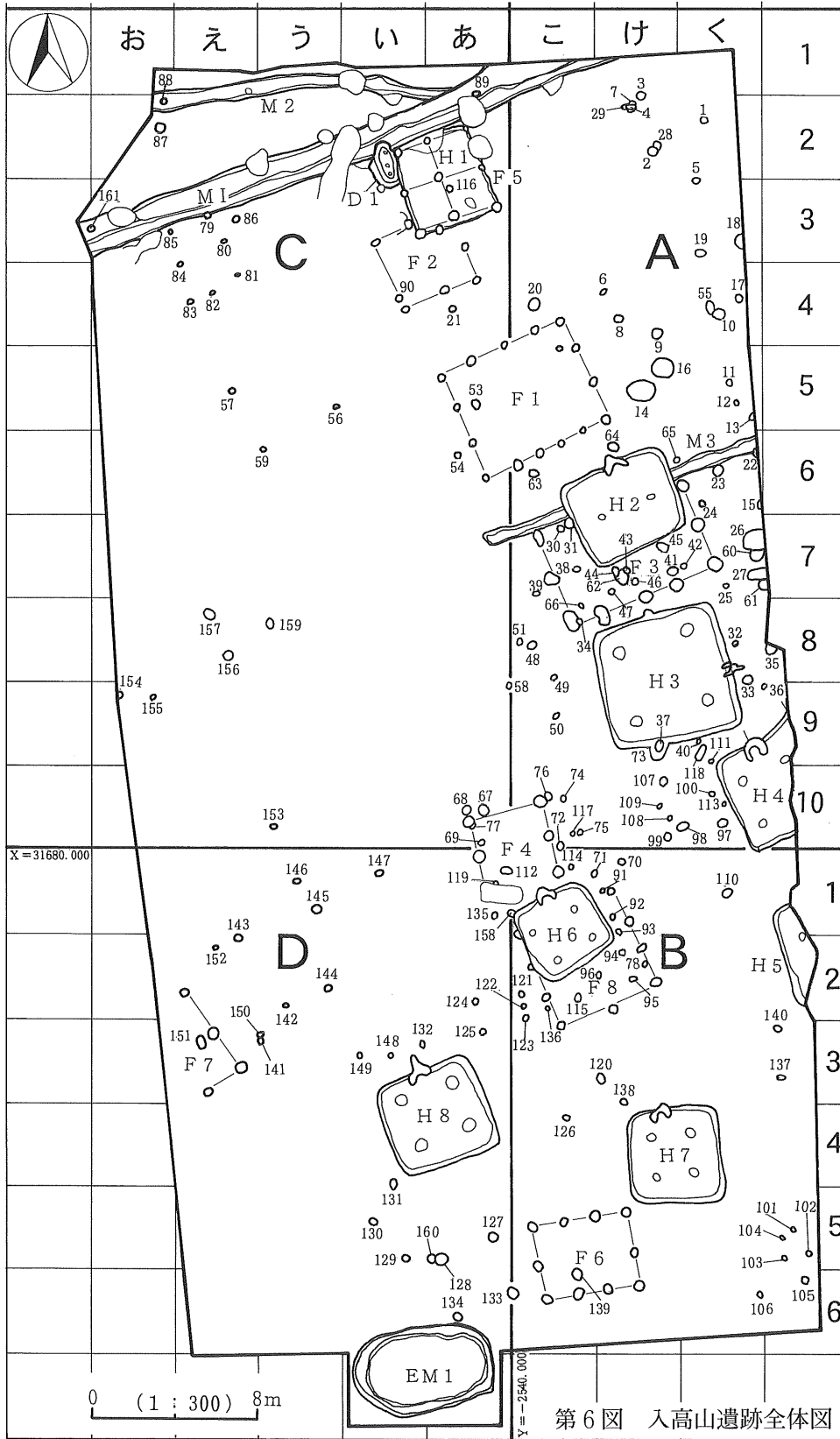


H3号住居址カマドセクション(西より)



第5図 基本層序模式図

第Ⅳ章 遺構と遺物



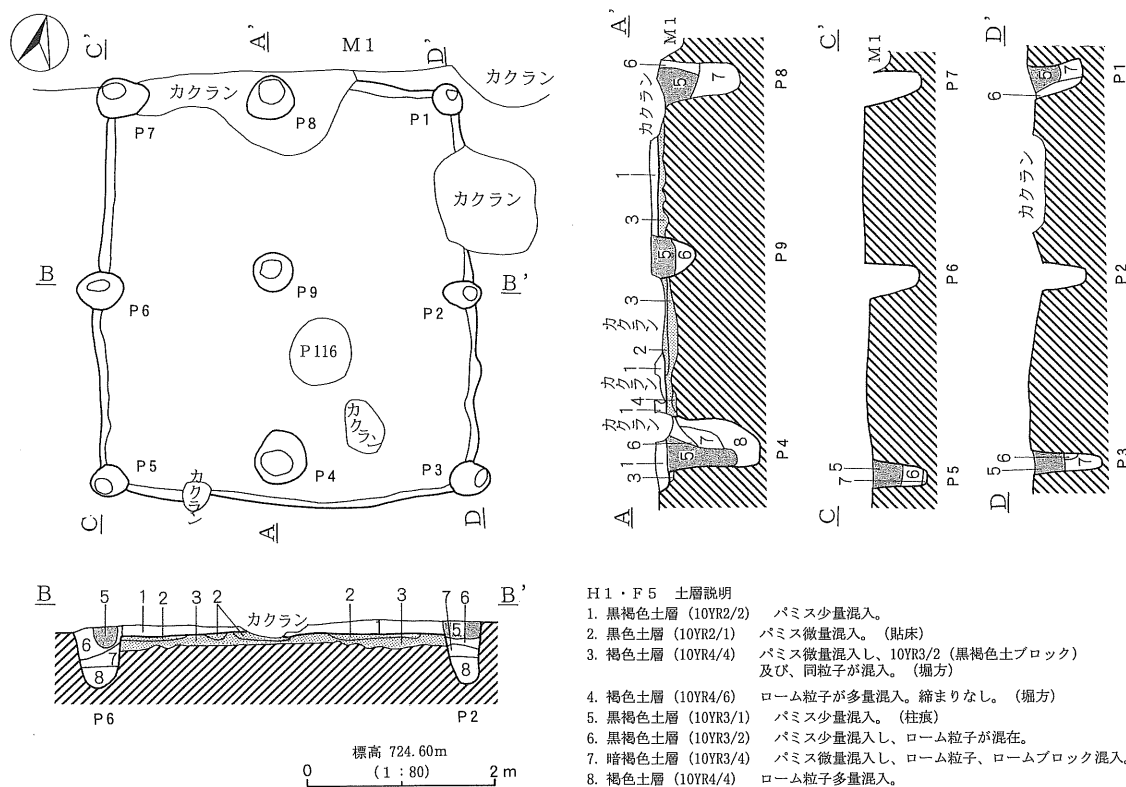
第6図 入高山遺跡全体図

1、堅穴住居址

1) H1号住居址・F5号掘立柱建物址 (第7図、図版1)

調査区北側のCあ2グリットに位置し、F5・M1に切れ、D1を切る。南北424cm、東西380cmの長方形を呈し、長軸方位はN-24°-Wを指す。壁残高は8cmと浅く、北側中央には攪乱があり、遺構が壊されている。またF5と規模・形態を同じくしており、同一の遺構と考えられる。カマド等の火所は検出されていない。F5は2間×2間の総柱式で、南北420cm、東西370cm、南北の柱間が2.0~2.1m、東西の柱間が1.3~1.7m、柱穴の径は34~54cm、深さ58~108cmを測る。

出土遺物は古墳時代後期土師器甕・丸胴甕・甕・武蔵甕・丸底の内面ミガキ黒色処理杯片など41片の中に須恵器杯の糸切り底2、口縁端部の折れた蓋片1、タタキ目の甕片2がある。多い破片からいえば古墳時代後期であり、最終遺物からいえば平安時代初頭となる。



第7図 H1号住居址・F5号掘立柱建物址

2) H2号住居址 (第8・9・10図、第2表、巻頭図版3・図版9・10)

Aけ6グリットにあり、F3・M3を切る。南北400cm、東西480cmの隅丸長方形でカマドを北壁中央に持つ。主軸方位はN-20°-Wである。壁残高は48cmを測り、カマドの残存状況もよかった。カマドは使用状態のまま検出された。かまどは焚き口の内幅40cm、内高20cmを測る。先端に袖石を置き、そこに長胴甕を2個重ねて袖石の上に置き框石の代用をし、上に粘土を貼っている。カマドには2個の長胴甕がセットされていた。床面は、ロームを入れ、貼床としている。住居址中央列に東西2個支柱穴が見つかった。短径40cmを測る不整形の堀方に短径20cmの楕円の柱痕が残っていた。カマドの東脇に長径40cm、深さ52cmのピットがある。周溝は北壁下西側にある。

出土遺物には土師器杯(1~3)、小型丸底か小椀(4)、長胴甕(5~11)、丸胴甕(13)、小型甕(12)がある。また混入品として須恵器の高台付き杯がある。

その他に、鉄製品では鎌、鞘尾金、木質部のついた刀子の柄がある。

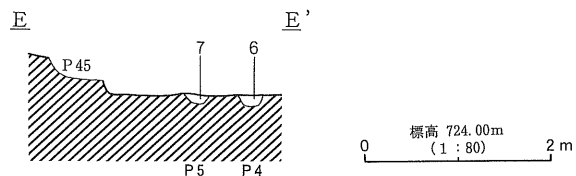
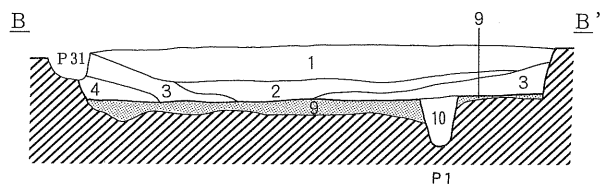
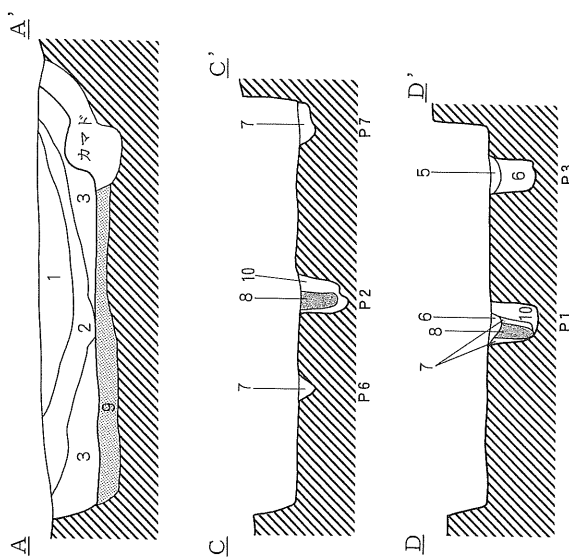
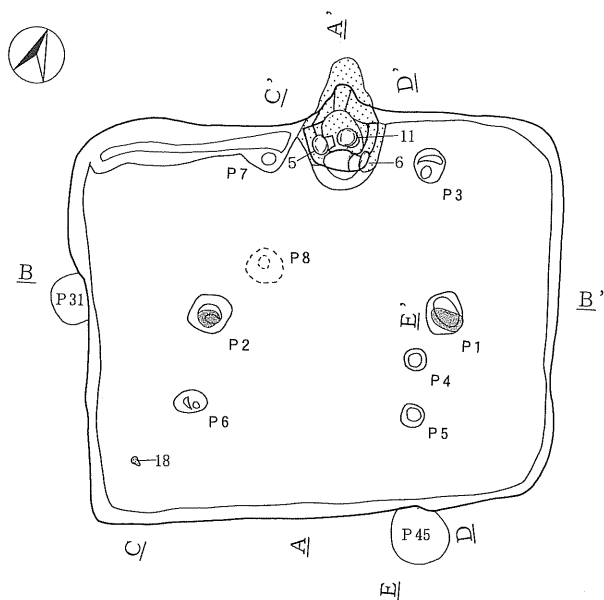
土師器杯1は橙色を呈す薄手小振りな須恵器杯蓋の模倣杯で、内面はナデ調整である。3はやはり橙色で薄手の作りであるが内面はミガキが施されている。外面はヘラケズリ後、口縁1.2cmほどが横ナデされる。白色の1mm大粒子

が目立ち、1より胎土は粗い。2は小破片で器形は明らかでないが、小さな丸底から沈線上の稜をなして口縁が外傾する。内面ミガキ調整される。4は端部欠損しているため器形が明らかではない。球形を呈し、内面ナデ、外面ヘラケズリ後ミガキ調整がしてある。長胴甕は7個体あり、6・7がカマドの構築材として、5・11がカマドにセットされていた甕である。6・7の長胴甕口縁部の外反がきつい。9は5と同じ0.5~1.2cm大の小石を含み、粗い粒子が目立つ甕である。粗い粒子が入っているためか胴部外面のヘラケズリは弱くナデ状で、下部はヘラケズリされる。8は口縁部の外反が強く、胎土が緻密で厚手である。胴部外面の調整もヘラナデである。5・9・11の新しい甕は口縁部が長く、口縁の外反度が弱いようである。長胴甕の胎土は1~3mmの甕としては一般的なものと、5・9のように1.2cmや5mmの粗い小石を含むもの、8のように緻密なものがある。13の丸胴甕は胴部が球形を呈し外面は口縁部横ナデ、胴部ハケナデ後ミガキ調整、内面は口縁部ミガキ胴部ハケ調整のままである。

16の鉄製太刀鞘尾金が出土しており、1984 滝瀬「円頭・圭頭・方頭太刀について」を参照すると、飾り太刀の鞘尾金である。16の鞘尾金は東大寺大仏殿須弥壇下出土例と類似し、Ⅲ期に分類され、7c中葉以降と編年されている。

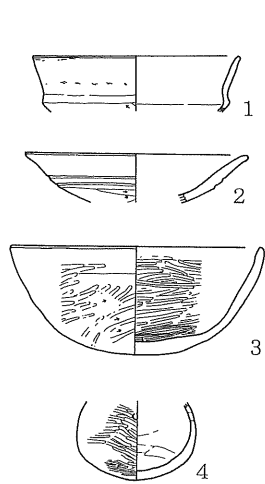
第2表 H2号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	土師器 杯	(11.2) (10.0) <3.0>	内 横ナデ 外 底部ケズリ→口縁部横ナデ	口縁部1/2残存 内 5YR7/4(にぶい橙) 外 5YR8/4(淡橙)	きめ細かい。 赤色粒子含む。	Ⅲ区 Ⅳ区1層 Ⅳ区2層
2	土師器 杯	(12.0) — <2.6>	内 剥離のため判らない 外 体部ケズリ→口縁部横ナデ 2条の沈線あり	口縁部1/6残存 内 2.5YR8/2(灰白) 外 2.5YR8/2(灰白)	きめ細かい。 白色粒子少量含む。	I区3層
3	土師器 杯	13.5 — 5.8	内 ミガキ 外 口縁部横ナデ→体部(ケズリ→)粗いミ ガキ	口縁部2/3残存 内 7.5YR7/4(にぶい橙) 外 5YR7/4(にぶい橙)	砂粒、白色粒子含む。	I区トレ、I区3 層、Ⅳ区2層、Ⅳ 区3層、カマド
4	土師器 埴	— — <4.3>	内 ナデ 外 ヘラケズリ→ミガキ 口縁部近くに焼成前の穿孔あり。	内 7.5YR7/4(にぶい橙) 外 7.5YR7/4(にぶい橙)	きめ細かい。 小石含む。	I区3層
5	土師器 甕	20.4 5.4 37.2	内 口縁部横ナデ→胴部横位ナデ→斜位ナデ 外 口縁部横ナデ→胴部・縦位ヘラナデ→ 胴下半部ケズリ	口縁部7/8残存(ほぼ完形) 内 5YR6/4(にぶい橙) 5YR5/1(褐灰) 外 5YR7/3(にぶい橙) 7.5YR7/3(にぶい橙)	1~1.5mmの小石、1mmの白色 粒子、5mmの小石多く含む。 底部に木葉痕あり。	カマド
6	土師器 甕	21.7 5.1 35.6	内 口縁部横ナデ・胴部横位(ヘラ)ナデ 外 口縁部横ナデ→胴部上~中縦位ヘラナ デ→胴下半部斜位ケズリ	口縁部ほぼ完形・底部3/4残存 内 2.5YR6/4(にぶい橙) 外 2.5YR6/4(にぶい橙)	3mm以下の白色粒子含む。	カマド I区3層
7	土師器 甕	21.6 5.6 37.2	内 口縁部横ナデ→ハケナデ 外 口縁部横ナデ→胴部ナデ→胴部~底部 ヘラケズリ	ほぼ完形 内 7.5YR7/4(にぶい橙) 外 7.5YR8/4(浅黄橙) 2.5YR7/4(淡赤橙)	3mm以下の赤色粒子、1mm以 下の白色粒子、黒色粒子含 む。	カマド
8	土師器 甕	19.5 — <18.7>	内 口縁部横ナデ→胴部斜位ナデ→胴部上 半部横位ナデ 外 口縁部横ナデ→胴部縦位ケズリ→ナデ	口縁部7/8残存 内 10YR7/3(にぶい黄橙) 外 10YR7/3(にぶい黄橙)	きめ細かい。緻密な胎土。 1mm以下の赤色粒子、白色 粒子含む。	カマド Ⅳ区1層
9	土師器 甕	21.7 — <28.7>	内 口縁部横ナデ→胴部横位ヘラナデ 外 口縁部横ナデ→胴部縦位ヘラナデ	口縁部5/8残存 内 7.5YR6/4(にぶい橙) 外 7.5YR6/4(にぶい橙)	1~1.5cmの小石、2mm大砂粒 多く含む。	カマド、I区3 層、I区トレ、 Ⅳ区2層
10	土師器 甕	(23.0) — <28.6>	内 口縁部横ナデ→胴部横位ヘラによる横 位ナデ 外 口縁部横ナデ→胴部縦位ケズリ	口縁1/3残存 内 2.5YR7/6(橙) 5YR7/4(にぶい橙) 外 5YR7/4(にぶい橙)	2mm以下の白色粒子、3mm以 下の赤色粒子を含む。	カマド Ⅱ区2層 Ⅳ区2層
11	土師器 甕	19.3 6.8 27.6	内 口縁部横ナデ→胴部横位のヘラによる 横位ナデ 外 口縁部横ナデ→胴部上半部縦位ナデ→ 下半部斜位ケズリ	完形 内 5YR7/4(にぶい橙) 外 5YR7/4(にぶい橙)	2mm以下の白色粒子含む。 底部に木葉痕あり。	カマド
12	土師器 甕	— 7.5 <8.2>	内 ナデ 外 ケズリ	底部完形 内 5YR7/3(にぶい橙) 外 7.5YR6/3(にぶい褐)	4mm以下の赤色粒子・1mm の黒色粒子を含む。	Ⅳ区2層
13	土師器 甕	21.9 — <30.0>	内 口縁部横ナデ→横位ミガキ 胴部横位ハケナデ 外 口縁部横ナデ→胴上半部斜位ハケナデ 胴下半部斜位ケズリ→胴部縦位ミガキ	口縁部3/5残存 内 7.5YR7/4(にぶい橙) 外 5YR7/4(にぶい橙)	3mm以下の赤色粒子含む。 きめ細かい。 極小の白色粒子含む。	I区2層、I区3層、 Ⅱ区1層、Ⅱ区3層、 Ⅳ区1層、Ⅳ区2層、 Ⅲ区2層、Ⅲ区サブ トレ、カマド

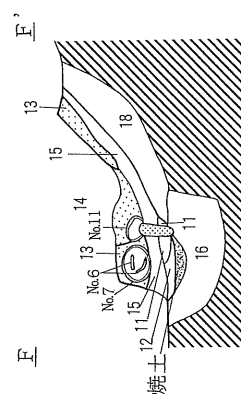
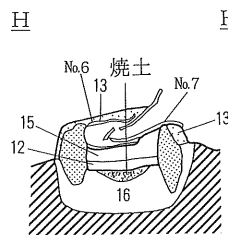
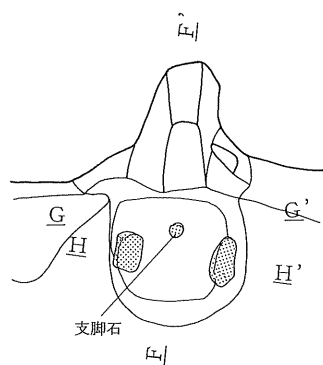
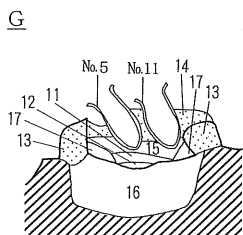
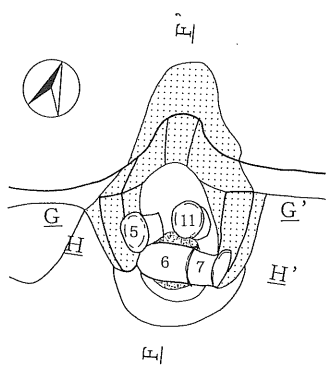


H 2 土層説明

1. 黒色土層 (10YR1.7/1) ~2cmのバミスを含む。
2. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10cm大のバミス、小バミスを多量に含み、ローム粒子を含む。
3. 黒褐色土層 (10YR2/2) ~3cmのバミスを多く含む。
4. 黒褐色土層 (10YR3/2) 3層よりローム粒子を多く含む。
5. 明黄褐色土層 (10YR6/6) ローム2次堆積。(P3)
6. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR4/3の粒子を含む。(P1)
7. 明黄褐色土層 (10YR6/6) ローム、10YR3/2・10YR5/3の混在土層。(P3)
8. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 柱痕。
9. にぶい黄褐色土層 (10YR7/4) ローム2次堆積。10YR5/3、10YR4/2を含む。(堀方埋土)
10. にぶい黄褐色土 (10YR5/3)・黒褐色土 (10YR3/2) 混在土層
10YR7/4のロームを多く含む。(ピット堀方埋土)
11. 灰と焼土の混在
12. 灰
13. にぶい黄褐色土層 (10YR7/3) カマド構築粘土。
14. にぶい黄褐色土層 (10YR5/4) カマド構築粘土。(崩壊土)
15. 焼土、灰、炭化物、10YR5/4、10YR7/3の粘土の混在土層。(煙道)
16. 黒褐色土層 (10YR3/1) 10YR7/3の粘土を少し含む。(カマド堀方)
17. 褐灰色土層 (10YR4/1) にぶい黄褐色土層 (10YR7/3) 粘土の混在層。
18. 褐灰色土層 (10YR4/1) 10YR7/3の粘土を多く含む。(カマド構築土)

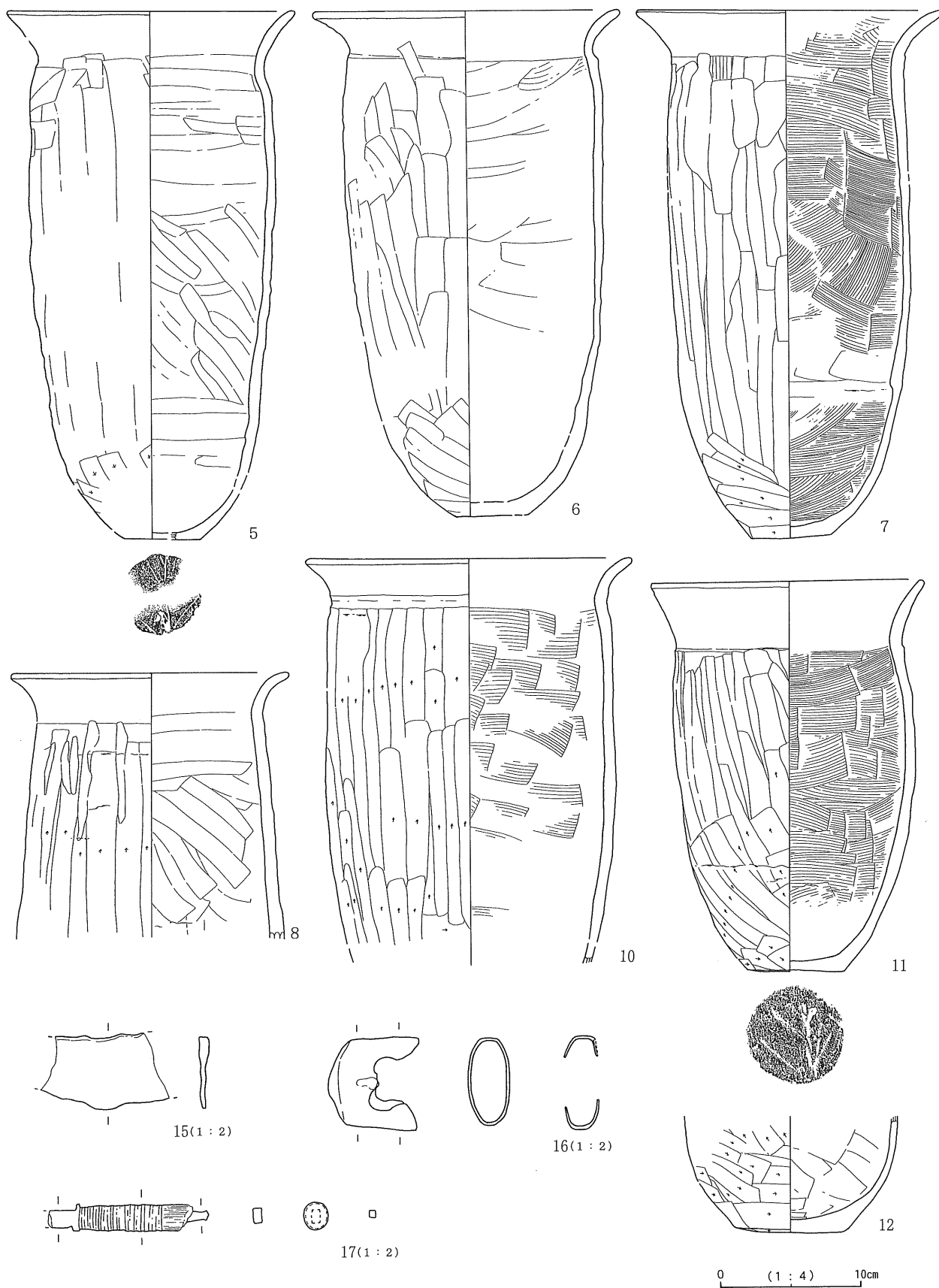


0 (1:4) 10cm

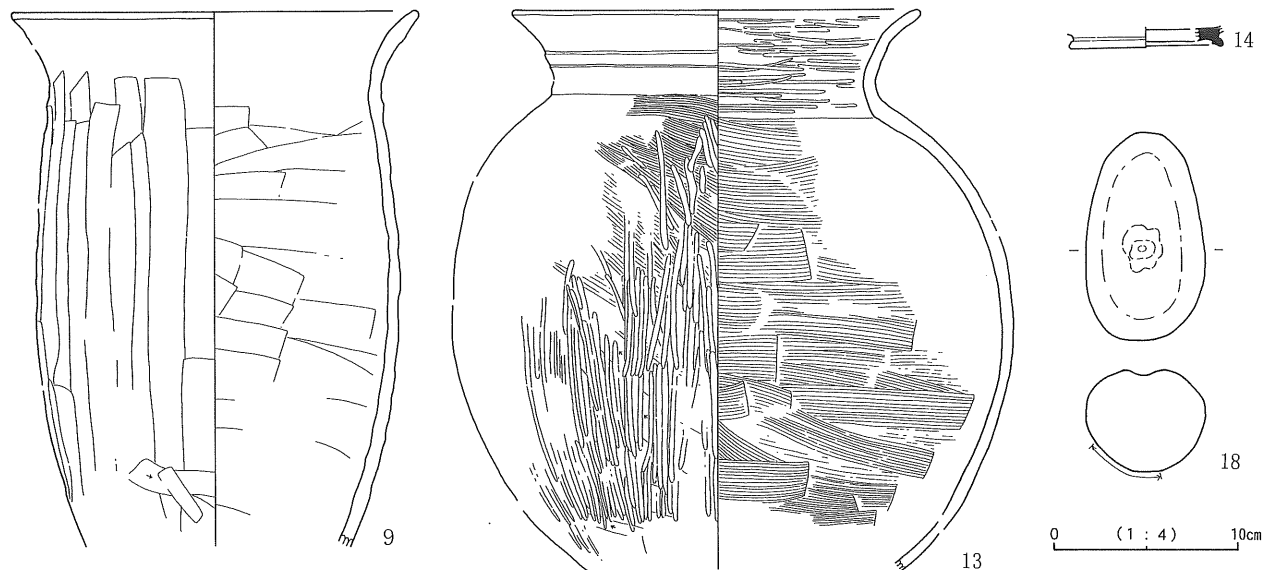


0 標高 724.00m (1:80) 1m

第8図 H 2 号住居址



第9图 H2号住居址



第10図 H2号住居址

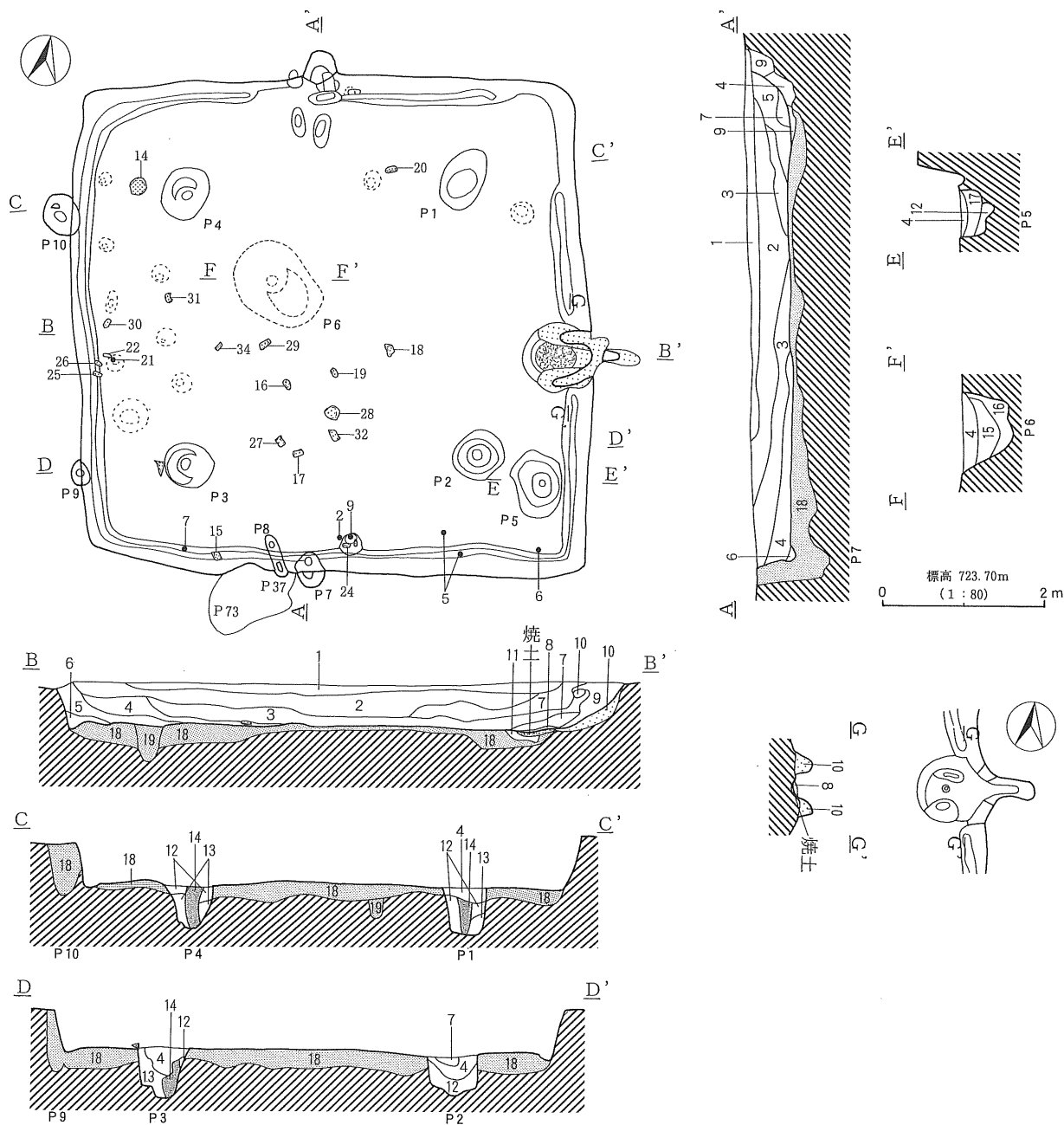
14	須恵器杯 (高台付)	— (8.4) <1.1>	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→回転糸切り→高台貼付			底部1/4残存 内 5Y6/1(灰) 外 10Y5/1(灰)	白色粒子、黒色粒子含む。 黒色粒子溶出。混入品。	Ⅲ区サブトレ
番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備 考		出土位置
15	鎌	<4.3>	2.4	0.3	6			Ⅱ区1層
16	鞘尾金	<2.4>	3.0	0.1	12			Ⅲ区1層
17	柄	<5.6>	0.9	0.8	4	何かが巻いてある。		Ⅱ区3層
18	凹石	11.1	6.5	5.4	580	擦面あり。安山岩		

3) H3号住居址 (第11・12・13図、第3表、図版2・11・12)

Aく8グリットにあり、南北560cm、東西580cmの方形の住居址である。壁残高は53cmを測る。カマドは東壁中央にあり、主軸方位はN-77°-Eを測る。北壁中央にも旧カマドが検出された。カマドは粘土で構築され、両袖と煙道が残っていた。内幅32cmを測る。カマドの火床面には灰が多量に残り、焼土がみられた。床面はロームを入れ込み締まっていた。支柱穴はP1~P4で、短径52~56cmの楕円形、深さ48~60cmを測るピットに、径20cmの柱痕がみられた。南東には80cm×64cmの楕円形、深さ32cmのP5がある。中央の床下からは短径88cm、深さ64cmの落ち込みがあった。風倒木跡の可能性もあるが明確でない。またP7~P10は壁に掘り込まれたピットで、ローム主体で、パミスを多量に含んでいた。

出土遺物には土師器杯(1~3)、鉢(4~6)、高杯(7)、長胴甕(8)、丸胴甕(9・10)、手捏(11)、壺(12)、編物石(15・16~27・29~34)、凹石・台石(14・28)と混入品である縄文土器(13)がある。

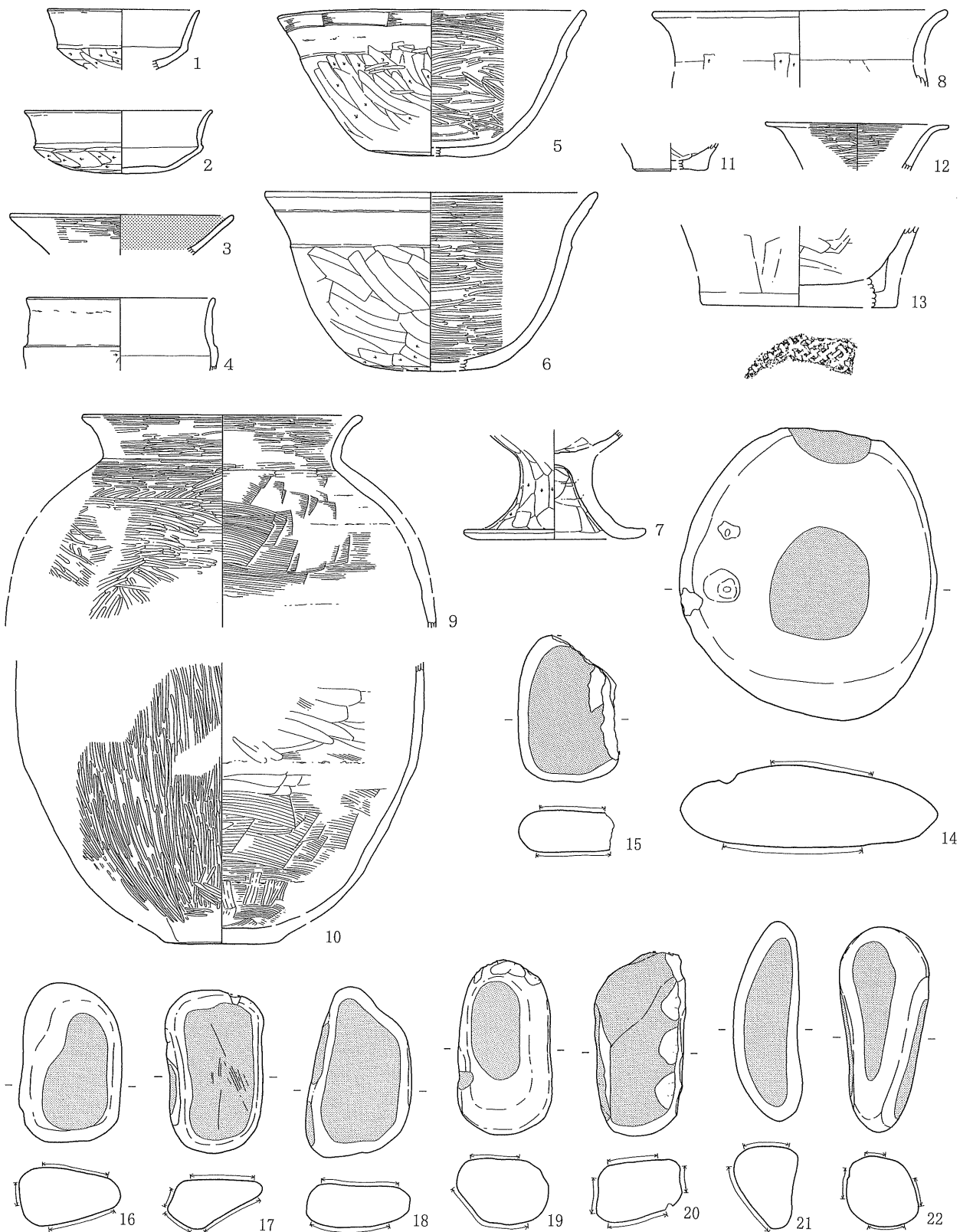
土師器杯1・2は橙色の薄手のもので、内面はナデ、外面口縁は横ナデ、底部はヘラケズリされる。3は内面ミガキ黒色処理、外面ミガキ調整される杯で、底部は欠損する。4は底部がないのでわからないが、鉢形を呈すものでろう。内外面口縁部横ナデされ、外面胴部がヘラケズリされる。5・6は鉢で同器形である。口縁部は有段口縁状にヘラ状具を押しつけて、口縁部に段がつけられている。外面口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ、5はわずかにミガキ調整、内面は両者ともミガキ調整される。7は高杯の脚部で、裾部が外反するもので、外面はヘラケズリ調整される。8は長胴甕の口縁で、短く外反する。11は手捏であろうか。9・10は接合できなかったが、同一個体の丸胴甕である。底部はわずかに台状の平底を呈す。外面ミガキ調整、内面はハケ目残してナデ調整され、口縁部は丁寧にミガキ調整がなされる。12は壺口縁部が高杯脚部かであろうが、両面丁寧にミガキ調整される。これらの土器は古墳時代後期の土器群である。



H3 土層説明

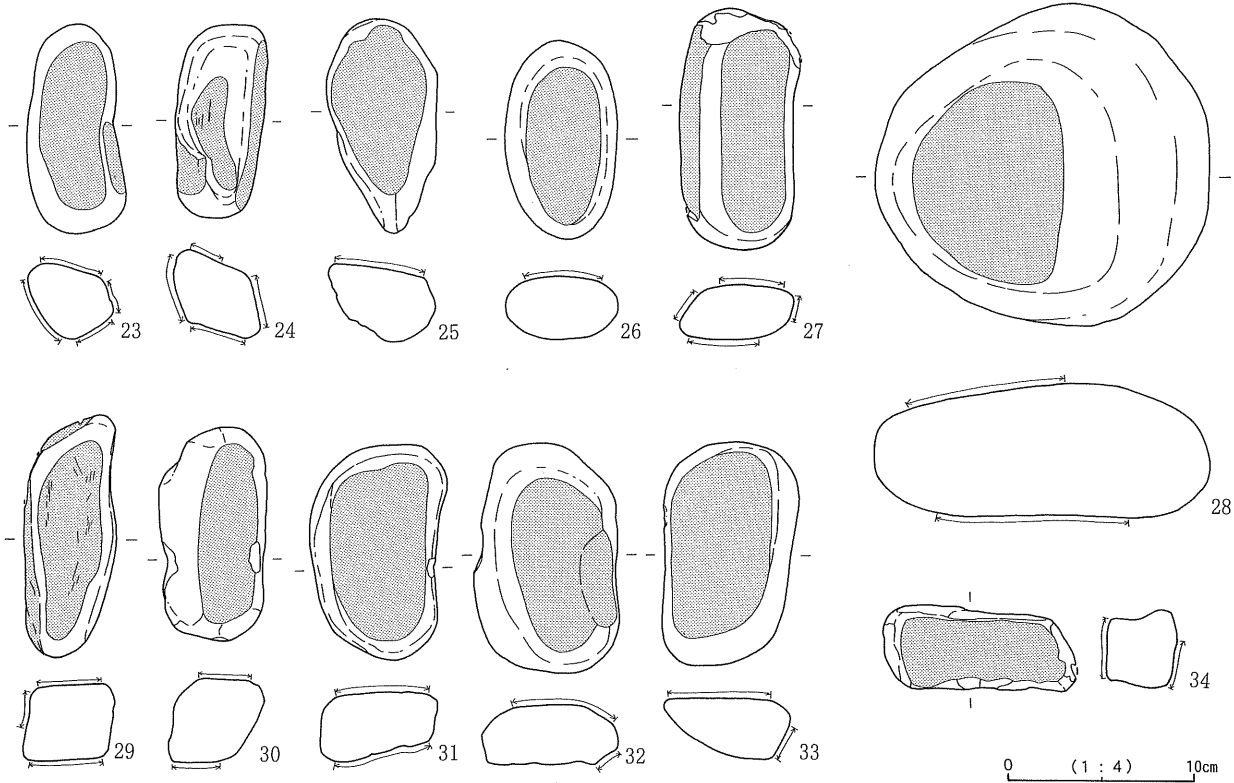
- | | |
|---|---|
| 1. 黒褐色土層 (10YR2/2) ~2 cm大のパミス、ローム粒子を含む。 | 11. カマド堀方 |
| 2. 黒褐色土層 (10YR2/3) 1層よりパミス、ローム粒子を多く含む。 | 12. にぶい黄褐色土層 (10YR5/4) ローム主体。パミスを多く含む。(ピット堀方) |
| 3. 暗褐色土層 (10YR3/3) 3 cm大パミス、小パミス、ローム粒子を多量に含む。 | 13. 黒褐色土層 (10YR2/2) ローム粒子、細パミスを含む。(ピット堀方) |
| 4. 黒褐色土層 (10YR2/3) パミスを多く含む、ローム粒子を含む。 | 14. 黒褐色土層 (10YR2/1) 柱痕。 |
| 5. 暗褐色土層 (10YR3/3) パミスを含み、ローム粒子を多量に含む。 | 15. 黒褐色土層 (10YR3/2) ローム粒子、~3 cmのパミスを多く含む。 |
| 6. 黒色土層 (10YR1.7/1) 5 mmのパミス、ローム粒子を少し含む。(周溝) | 16. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) ローム主体。 |
| 7. にぶい赤褐色土層 (5YR5/4) カマド天井崩壊粘土。 | 17. 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム粒子を多く含む、パミス~1 cmを含む。 |
| 8. 灰白色土層 (7.5YR8/2) 灰層。 | 18. にぶい黄褐色土層 (10YR7/4) ローム主体。10YR4/2、10YR5/3土を含む。(堀方埋土) |
| 9. 黒褐色土層 (7.5YR3/2) 5YR5/4の粘土粒子を含む。 | 19. にぶい黄褐色土層 (10YR6/3) (堀方ピット) |
| 10. にぶい橙 (5YR6/4) 粘土層。(カマド構築土) | |

第11図 H3号住居址



第12图 H3号住居址

0 (1:4) 10cm



第13図 H3号住居址

第3表 H3号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	土師器 杯	10.6 9.0 <4.1>	内 横ナデ 外 口縁部横ナデ→底部ケズリ	口縁部2/3残存 内 7.5YR7/6(橙) 外 7.5YR7/6(橙)	きめ細かい。 1mmの赤色粒子含む。 歪みあり。	Ⅱ区4層
2	土師器 杯	(12.9) (11.7) 4.4	内 みこみ部ナデ→口縁部横ナデ 外 口縁部横ナデ→底部ケズリ	口縁部1/3残存 内 2.5YR7/6(橙) 外 5YR7/4(にぶい橙)	きめ細かい。 0.5mm以下の赤色粒子少量 ・小石含む。	
3	土師器 杯	(15.6) — <2.8>	内 ミガキ→黒色処理 外 横位ミガキ	口縁部1/4残存 内 黒 外 5YR6/4(にぶい橙)	0.5mm以下の赤色粒子、白色 粒子、石英、長石含む。	Ⅱ区4層
4	土師器 鉢	(13.0) — <5.0>	内 胴部ナデ→口縁部横ナデ 外 胴部横位ケズリ→口縁部横ナデ	口縁部1/4残存 内 10YR7/2(にぶい黄橙) 外 5YR6/3(にぶい橙)	1mm以下の赤色粒子少量含 む。	Ⅲ区3層 Ⅲ区4層
5	土師器 鉢	21.4 8.5 10.2	内 ミガキ 外 口縁部横ナデ→胴・底部縦位ケズリ→ 胴部一部ミガキ	ほぼ完形 内 5YR7/3(にぶい橙) 外 5YR7/3(にぶい橙)	1mmの赤色粒子、白色粒子、 黒色粒子含む。	
6	土師器 鉢	(23.2) (9.0) <12.3>	内 ミガキ 外 口縁部横ナデ→胴部ナデ→底部・底部 周縁ケズリ	口縁部1/3残存 内 7.5YR7/3(にぶい橙) 外 7.5YR7/3(にぶい橙)	きめ細かい。 2mmの赤色粒子少量含む。	カマド
7	土師器 高杯	— 12.6 <7.5>	内 杯部 ナデ 外 脚注部 縦位ケズリ・裾部横ナデ→杯 部・裾部ヘラナデ	底部3/4残存 内 2.5YR6/4(にぶい橙) 外 5YR6/3(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子、黒色 粒子含む。	
8	土師器 甕	(20.6) — <5.3>	内 胴部ナデ→口縁部横ナデ 外 口縁部横ナデ→胴部縦位ケズリ	口縁部1/8残存 内 10YR7/3(にぶい黄橙) 外 10YR7/3(にぶい黄橙)	1mm以下の赤色粒子含む。	Ⅲ区3層 Ⅲ区4層
9	土師器 甕	(19.4) — <14.6>	内 胴部横位ハケナデ→一部横位ナデ→口 外 縁部横位ミガキ 横位ミガキ	口縁部1/6残存 内 7.5YR7/4(にぶい橙) 外 5YR5/4(にぶい赤褐)	1mmの赤色粒子、黒色粒子、 白色粒子含む。 10と同一個体	Ⅱ区4層 Ⅲ区4層 Ⅲ区サブトレ
10	土師器 甕	— 7.8 <19.4>	内 横位ハケナデ→胴上半部横位ナデ 外 ナデ→縦位ミガキ	底部ほぼ完形 内 7.5YR7/4(にぶい橙) 外 5YR7/6(橙)	1mm以下の白色粒子、赤色 粒子含む。 9と同一個体	Ⅰ・Ⅱ区サブトレ Ⅰ区2・3層 Ⅰ区3層 Ⅲ区4層

11	土師器? 手捏	— (5.2) <1.9>	内 ナデ 外 ナデ	底部1/4残存 内 7.5YR7/2(明褐灰) 外 7.5YR7/2(明褐灰)	1mm以下の赤色粒子、白色 粒子含む。	I区3層	
12	土師器 壺?	12.8 — <3.2>	内 横位ミガキ 外 横位ミガキ	口縁部1/8残存 内 5YR7/4(にぶい橙) 外 7.5YR7/2(橙)	1mm以下の白色粒子、赤色 粒子少量含む。	IV区2層	
13	縄文土器 深鉢	— (13.6) <5.6>	内 ヘラナデ(横位) 外 (ヘラ)ナデ(縦位)底部網代底	底部1/5残存 内 5YR7/4(にぶい橙) 外 5YR7/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子、赤色 粒子・1mmの小石多く含む。	IV区2層	
番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備考	出土位置
14	凹石	20.0	17.8	5.7	2,720	擦面あり。安山岩。	
15	編物石	10.1	<6.8>	2.9	350	擦面あり。安山岩。	
16	編物石	10.9	7.1	4.1	560	擦面あり。安山岩。	
17	編物石	11.2	6.8	3.4	380	擦面あり。硬質砂岩。	
18	編物石	11.8	7.3	3.0	386	擦面あり。安山岩。	
19	編物石	12.0	6.4	4.6	600	花崗岩。赤色顔料が鉄分かわからないが、赤いものが付着している。敲打痕あり。	
20	編物石	12.6	6.3	4.4	550	擦面あり。チャート。	
21	編物石	13.7	4.8	5.7	482	擦面あり。安山岩。	
22	編物石	14.1	6.2	4.9	554	擦面あり。安山岩。	
23	編物石	11.1	5.2	3.9	344	硬質砂岩。安山岩。	
24	編物石	10.2	4.8	4.6	312	チャート。安山岩。	
25	編物石	11.3	5.8	4.1	354	チャート。安山岩。	
26	編物石	10.5	6.0	3.3	318	擦面あり。安山岩。	
27	編物石	12.8	6.4	2.9	422	擦面あり。花崗岩。	
28	擦石	16.9	17.7	7.0	3,110	擦面あり。花崗岩。	
29	編物石	12.8	4.9	4.0	484	擦面あり。硬砂岩。	
30	編物石	11.3	5.7	4.5	432	チャート。擦面に赤色顔料らしきものが付着している。擦面あり。	
31	編物石	11.3	7.3	3.7	400	擦面あり。安山岩。	
32	編物石	12.1	7.8	3.2	452	擦面あり。安山岩。	
33	編物石	11.8	7.2	3.2	440	擦面あり。安山岩。	I区3層
34	編物石	10.2	4.6	3.8	280	擦面あり。安山岩。	

4) H4号住居址(第14図、第4表、図版3・10)

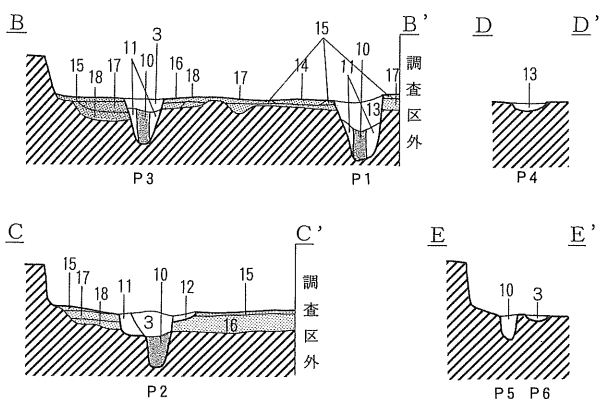
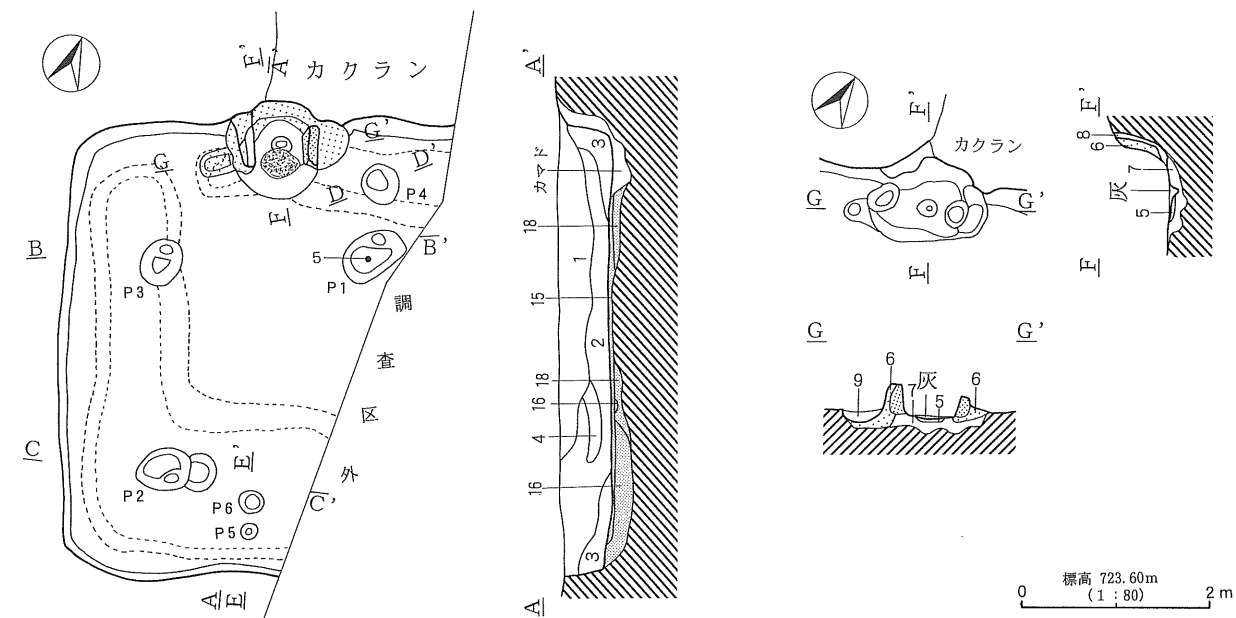
Aき9グリットにあり、西側は調査区域外であるため住居址全体は調査できなかった。南北464cmを測り、(東西は400cmを調査し、東壁は近い所にあろう。)南北にやや長い隅丸長方形を呈すものと思われる。壁残高は52cmを測る。カマドは北壁中央にあり、主軸方位はN-27°-Wを測る。覆土はロームブロックを多く含む土で、人為的に埋められていた。カマドは袖先に軽石を四角に加工して置き、黒色の粘土を貼って構築している。内幅56cmを測る。カマドに接して西には長径40cm、深さ12cmの落ち込みがある。またP4はカマドの東脇にあり、径40cm、深さ8cmの浅い落ち込みである。支柱穴はP1~P3で、短径42~50cm、深さ48~64cmを測る楕円形ピットの中に、径14~24cmの柱痕がみられた。床面はカマドからP1にかけて粘土を、他はロームブロックを入れた土を固め北側は締まっていた。堀方は周辺部を深く掘り込み、中央部を高くしていた。

出土遺物には須恵器杯(1)、土師器甕(2~6)、砥石(7)がある。砥石は凝灰岩製で、一側面は規則正しくカットされている。須恵器杯は平底で、口縁部は横ナデ、底部は回転ヘラ切り後手持ちヘラケズリされている。甕はいずれも武蔵甕であり、口縁部形態は「く」の字形態である。

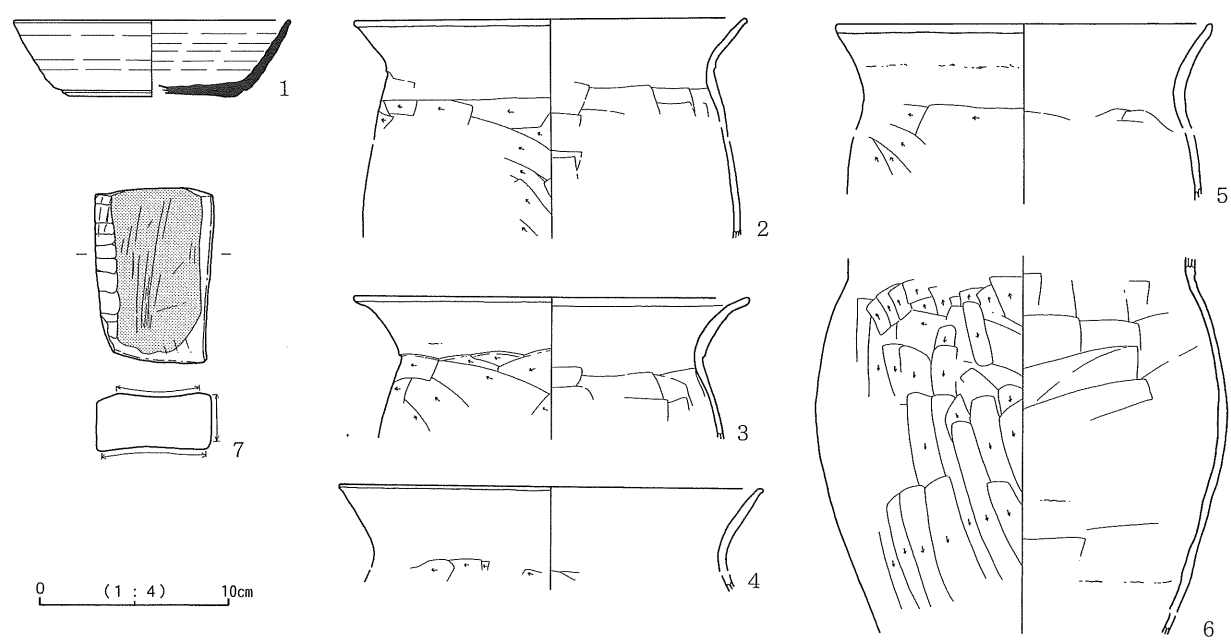
これらは奈良時代に位置付けられる土器群である。

第4表 H4号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	須恵器 杯	(14.6) (8.7) 4.0	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→底部回転ヘラ切り→手持ちヘラケズリ	口縁部1/4、底部1/3残存 内 10Y8/1(灰白) 外 10Y8/1(灰白)	1mm以下の白色粒子・3mm以下の黒色粒子含む。 火だすき有。	床
2	土師器 甕	(20.8) — <11.6>	内 口縁部横ナデ・胴部横位ヘラナデ 外 胴部横~斜位ヘラケズリ→口縁部横ナデ	口縁部1/3残存 内 5Y6/4(にぶい橙) 外 5Y6/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子・黒色粒子少量含む。	東半2層 東半3層
3	土師器 甕	(21.0) — <7.5>	内 口縁部横ナデ→胴部横位ナデ 外 口縁部横ナデ→胴部横位ケズリ	口縁部1/4残存 内 5YR6/4(にぶい橙) 外 5YR6/4(にぶい橙)	1mm以下の黒色粒子・白色粒子少量含む。	東半1層 カマド
4	土師器 甕	(22.5) — <5.2>	内 口縁部横ナデ→胴部ナデ 外 胴部横位ケズリ→口縁部横ナデ	口縁部1/4残存 内 2.5YR6/6(橙) 外 2.5YR6/6(橙)	1mm以下の白色粒子・黒色粒子少量含む。	西半2層



- H4 土層説明
1. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR3/1の不定大ブロック、10YR7/6のロームを含む。
 2. 明黄褐色土層 (10YR7/6) ・にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 混在土層 10YR3/1土を少し含む。
 3. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3)
 4. 黒褐色土層 (10YR3/1) ロームブロック。
 5. 明赤褐色土層 (5YR5/8) 焼土。
 6. 黒褐色土層 (10YR2/3) 10YR2/1の粘土ブロック主体。(カマド構築土)
 7. 黒褐色土層 (10YR3/2) ローム粒子を多く含む。(カマド堀方埋土)
 8. 黒褐色土層 (10YR3/2) 焼土、粘土ブロックを含む。(煙道)
 9. 黒褐色土層 (7.5YR3/2) 焼土粒子含む。
 10. 暗褐色土層 (10YR3/3) 柱痕。
 11. 明黄褐色土層 (10YR6/6) ローム主体。(ピット堀方埋土)
 12. 暗褐色土層 (10YR3/4) ローム粒子を含む。バミス少ない。
 13. 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム、バミスを含む。
 14. 黒褐色土層 (10YR2/2) 10YR2/1粘土ブロック主体の貼床。
 15. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) ローム細ブロック、バミスを含む。締まる。(貼床)
 16. 褐色土層 (10YR4/4) バミス、ローム細ブロックを含む。(堀方埋土)
 17. にぶい黄褐色土層 (10YR5/4) ローム主体。(堀方埋土)
 18. にぶい橙 (7.5YR6/4) ローム主体。(堀方埋土)



第14図 H4号住居址

5	土師器 甕	(20.0) — <9.5>	内 口縁部横ナデ→胴部ナデ 外 口縁部横ナデ・胴部ケズリ	口縁部1/4残存 内 5YR5/4(にぶい赤褐) 外 5YR6/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子、赤色 粒子少量含む。	東半2層 東半3層 P2	
6	土師器 甕	— — <19.8>	内 口縁部横ナデ→胴部横位ヘラナデ 外 口縁部横ナデ・胴部縦位ケズリ	胴部のみ残存 内 7.5YR7/3(にぶい橙) 外 7.5YR7/3(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子、黒色 粒子少量含む。	カマド 東半2層	
番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備考	出土位置
7	砥石	9.2	6.3	3.1	322	凝灰岩	床下

5) H5号住居址(第15図、第5表、図版3・12)

Bき1グリットの調査区東端にあり、住居址の北西部のみを検出した。やや南端が欠けるが、南北ほぼ476cmを測る。カマドは調査区域外にあるものと推測され、軸方位はN-17°-Wを測る。覆土はロームを主体とした土である。支柱穴は北西のP1のみが検出され、径72cm、深さ60cmの円形ピットにさらに径36cmの円形の堀方をもち、径24cmの柱痕がみられた。壁下には周溝が巡っている。

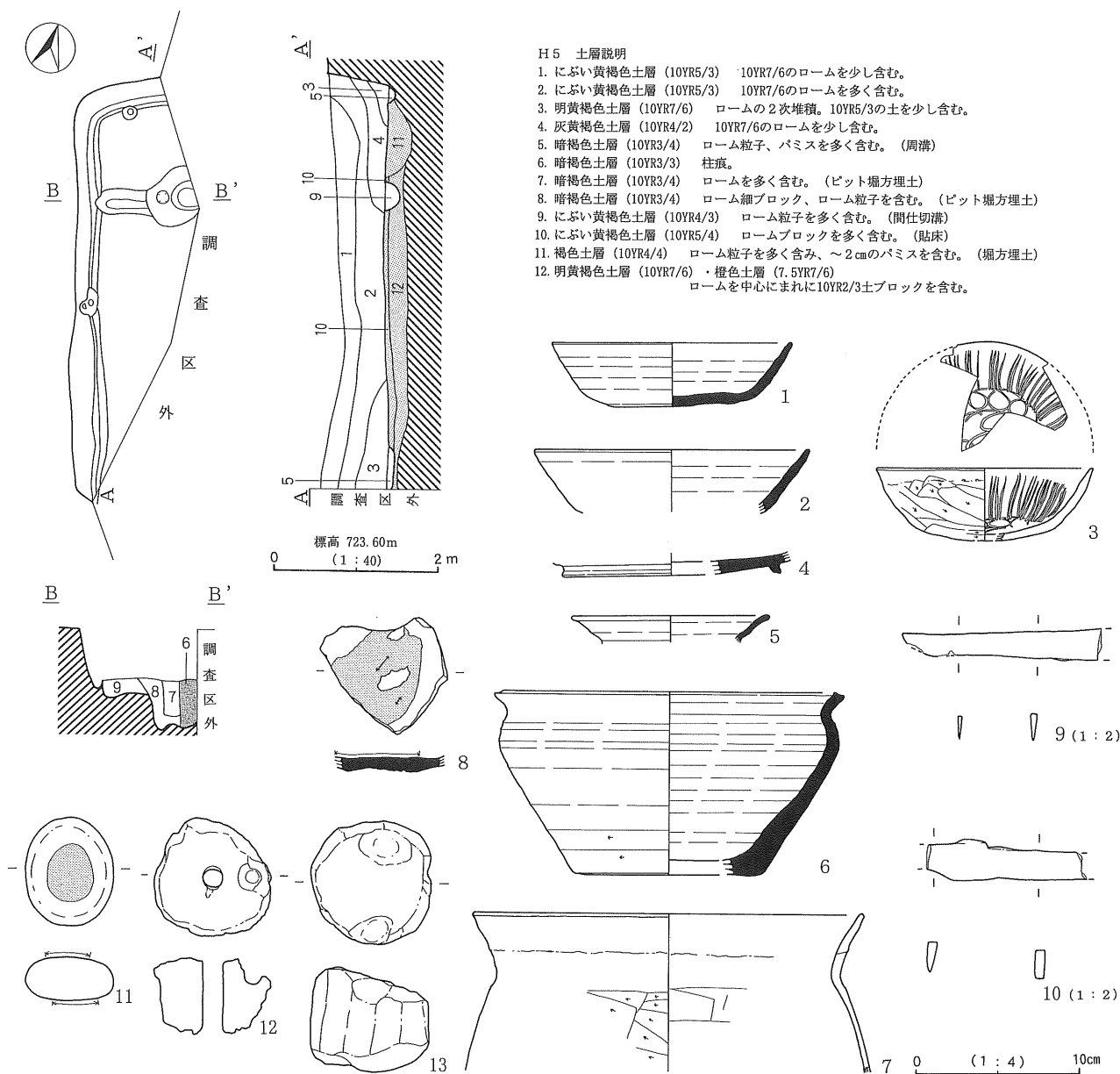
出土遺物には須恵器杯(1・2・8)・高台付杯(4)・瓶(5)・鉢(6)、土師器杯(3)・武蔵甕(7)、鉄製刀子(9・10)、スリ石(11)、軽石製浮子(12)、軽石製調整用支脚石(13)がある。

須恵器杯はロクロ調整され、底部は回転ヘラ切りされ、わずかにナデが加えられている。8の杯も底部は回転ヘラ切りである。4の須恵器高台付杯の高台は細く外傾し、高台底面は凹み、外側が接地する。5は瓶類の口縁部と推測される。6は鉢で、ロクロ調整され、底部は手持ちヘラケズリされる。3の土師器杯は平底に近い丸底で、外面口縁部横ナデ、体部ヘラケズリされる。内面はナデ調整後、畿内系暗文が施される。7の土師器甕は武蔵甕で口縁部形態は「く」の字形態である。鉄製刀子は同個体であるが直接つながらない。8は須恵器杯の転用硯であろうか内面が磨耗し、やや黒ずんでいる。

これらの土器は奈良時代のものであろう。

第5表 H5号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置	
1	須恵器 杯	14.5 7.6 3.9	内 ロクロナデ→ナデ 外 ロクロナデ→回転ヘラ切り→ナデ	口縁部・底部7/8残存 内 7.5YR7/3(にぶい橙) 外 7.5YR7/3(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子、赤色 粒子、1mmの黒色粒子含む。	北床、堀方	
2	須恵器 杯	(16.6) — <3.8>	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ	口縁部1/8残存 内 10YR7/3(にぶい黄橙) 外 5Y8/2(灰白)	1mm以下の赤色粒子含む。	西	
3	土師器 杯	(13.2) (8.4) 4.4	内 みこみ部ナデ→口縁部横ナデ 外 口縁部横ナデ→体～底部ヘラケズリ	口縁部1/8残存 内 5YR7/4(にぶい橙) 外 5YR7/4(にぶい橙)	1mm以下の赤色粒子含む。 内面に幾内型暗文あり。	東半2層、西	
4	須恵器 高台付杯	— (13.2) <1.3>	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→底部切り離し→回転ヘラ ケズリ→高台貼付	底部1/6残存 内 2.5Y6/1(黄灰) 外 N5/0(灰)	1mm以下の赤色粒子含む。 外面に自然釉付着。	西	
5	須恵器 瓶?	(12.0) — <1.7>	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ	口縁部1/4残存 内 N7/0(灰白) 外 N6/0(灰)	1mm以下の白色粒子、黒色 粒子含む。 外面に自然釉付着。	東半2層、西	
6	須恵器 鉢	(21.2) (11.3) 11.0	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→胴下半部回転ヘラケズリ ・底部→手持ちヘラケズリ	口縁部1/6残存 内 N6/0(灰) 外 N6/0(灰)	1mm以下の白色粒子少量含 む。	西	
7	土師器 甕	(23.8) — <9.6>	内 口縁部横ナデ・胴部横位ケズリ 外 口縁部横ナデ・胴部横位ケズリ	口縁部1/10残存 2.5YR6/6(橙)	1mm以下の白色粒子、赤色 粒子少量含む。	西	
8	須恵器 杯 (転用硯?)	— — <1.0>	内 摩耗する 外 底部回転ヘラ切り	破片 内 5Y8/1(灰白) 外 5Y8/1(灰白)	1mm以下の黒色粒子含む。	西	
番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備考	出土位置
9	鉄製刀子	<6.0>	0.9	0.2	2.5		1層
10	鉄製刀子	<4.8>	1.2	0.3	6		1層
11	擦石	6.5	5.4	2.6	128	砂岩	西
12	浮子	7.0	7.0	4.6	78	軽石製	西
13	支脚石	7.5	7.3	6.4	90	軽石製。面取りしてある。	西



H5 土層説明

1. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/6のロームを少し含む。
2. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/6のロームを多く含む。
3. 明黄褐色土層 (10YR7/6) ロームの2次堆積。10YR5/3の土を少し含む。
4. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR7/6のロームを少し含む。
5. 暗褐色土層 (10YR3/4) ローム粒子、パミスを多く含む。(周溝)
6. 暗褐色土層 (10YR3/3) 柱痕。
7. 暗褐色土層 (10YR3/4) ロームを多く含む。(ピット堀方埋土)
8. 暗褐色土層 (10YR3/4) ローム細ブロック、ローム粒子を含む。(ピット堀方埋土)
9. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) ローム粒子を多く含む。(間仕切溝)
10. にぶい黄褐色土層 (10YR5/4) ロームブロックを多く含む。(貼床)
11. 褐色土層 (10YR4/4) ローム粒子を多く含み、~2cmのパミスを含む。(堀方埋土)
12. 明黄褐色土層 (10YR7/6) 橙色土層 (7.5YR7/6) ロームを中心にまれに10YR2/3土ブロックを含む。

第15図 H5号住居址

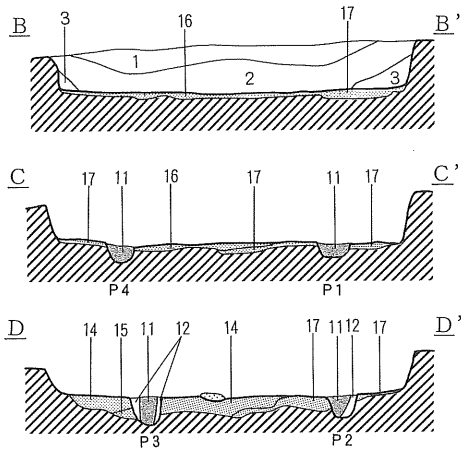
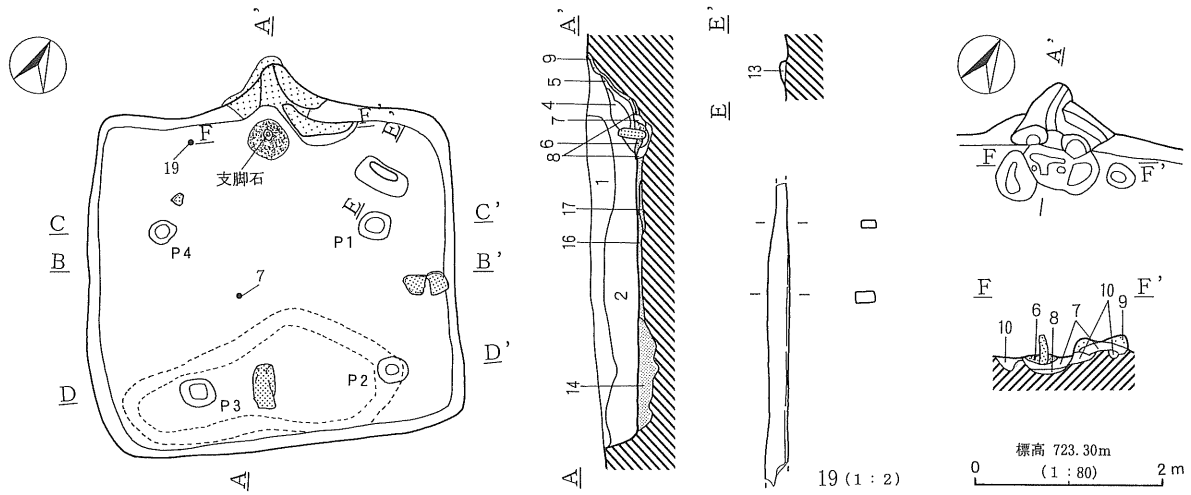
6) H6号住居址 (第16・17図、第6表、図版4・13)

Bこ1グリットにあり、F8を切る。南北348cm、東西364cmの方形を呈す。カマドは北壁中央にあり、主軸方位はN-28°-Wを測る。壁残高は45cmあり、残りの状態は良好である。カマドは天井・袖部ともに崩壊し、火床部と煙道下部が残存した。カマド堀方からカマドの内幅みると60cmを測る。支柱穴はP1~P4で、短径は26~28cm深さ14~30cmの楕円形のピットである。柱穴は浅いものである。北東には長さ56cm幅28cmを測带状の床面より6cmほど高くなった貼床がみられた。床面は中央部が締まっており、堀方は浅く南側だけ深くなっている。

出土遺物には須恵器蓋(1)・杯(2~8)、土師器杯(9)・小型甕(11・10)・甕(12~17)、縄文土器(18)、鉄製刀子(19)がある。

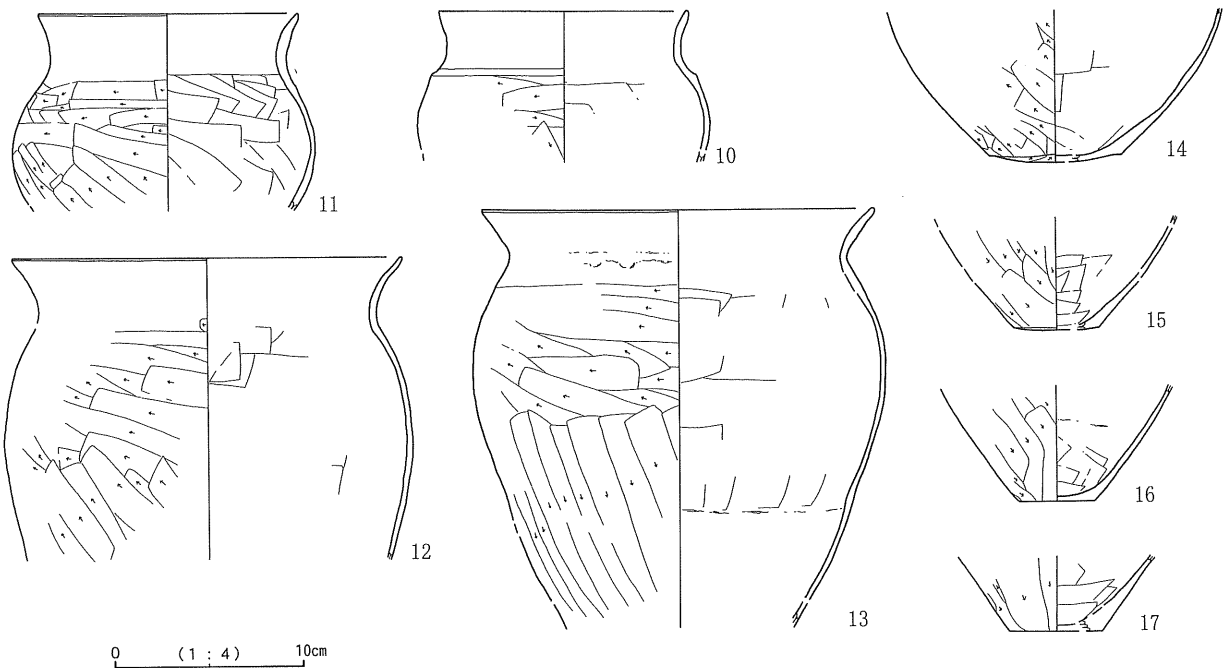
1の須恵器蓋は扁平な紐が付き、口縁端部が折れ曲がっている。ロクロ調整、天井部上面は2周ほど回転ヘラケズリされている。2~8の杯はロクロ調整され底部は回転糸切りによる切り離しのままである。2・8は灰白色を呈しているが他は黒色が強い。9の土師器杯は口縁部を欠損している。内面はミガキ調整、外面横ナデ、体下部と底部は

手持ちヘラケズリされている。土師器甕はいずれも武蔵甕であり、10・11の小型甕と12の甕は口縁部形態が「コ」の字、13は「く」字形態を呈している。これらは奈良時代末～平安時代の土器群であろう。

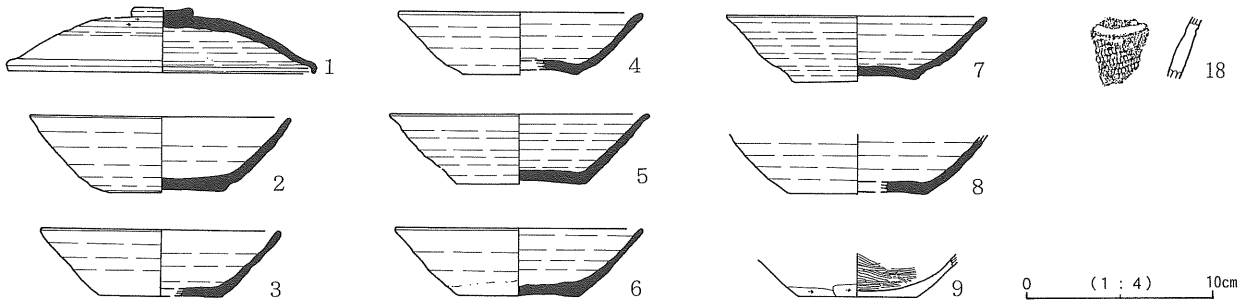


H 6 土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR2/3) ~2cmのパミス、ローム粒子を含む。
2. 暗褐色土層 (10YR3/4) ~5cmのパミスを多量に含み、ローム粒子を多く含む。
3. 黒褐色土層 (10YR2/3) ~10cmのパミス、ローム粒子を含む。
4. 黒褐色土層 (10YR2/3) 10YR2/1粘土ブロック (カマド崩壊層)
5. 褐色土層 (7.5YR4/6) 焼土粒子を含む。
6. 明赤褐色土層 (5YR5/8) 焼土。
7. 褐色土層 (10YR4/4) 焼土粒子を含む。
8. 黄褐色土層 (10YR5/6) ローム主体。(カマド堀方)
9. 黒褐色土層 (10YR2/2) 粘土主体。(カマド構築土)
10. 黒褐色土層 (10YR3/2) 粘土ブロック、焼土ブロックを含む。(カマド堀方)
11. にぶい黄褐色土層 (10YR6/4) ローム主体。(柱痕)
12. にぶい黄褐色土層 (10YR6/4) ロームに多量のパミスを含む。(ピット堀方)
13. 黒褐色土層 (10YR2/2)・黒色土層 (10YR2/1) 互層縮まる。(小堤)
14. にぶい黄褐色土層 (10YR6/3) ローム主体。パミスを多量に含み、褐色土を含む。(堀方埋土)
15. 明黄褐色土層 (10YR6/8) 砂を含む。(堀方埋土)
16. 黒色土層 (10YR2/1) 粘土ブロックを含む。(貼床)
17. 黄褐色土層 (10YR5/8) ローム主体。(堀方埋土)



第16図 H 6 号住居址



第17図 H6号住居址

第6表 H6号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整		残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	須恵器蓋	(16.5) 3.3 3.4	内外	ロクロナデ ロクロナデ→つまみ貼付・天井部回転 ヘラケズリ	つまみ完形、口縁部1/8残存 内 5YR5/3(にぶい赤褐)、 外 N5/0(灰)	1mmの赤色粒子を多量含む。	カマド
2	須恵器杯	13.9 6.3 4.1	内外	ロクロナデ ロクロナデ→底部回転糸切り	口縁部2/3、底部ほぼ完形 内 2.5GY7/1(明オリブ灰) 外 2.5GY7/1(明オリブ灰)	3mm以下の黒色粒子多く含む。 火だすき有。	I区2層
3	須恵器杯	(12.8) (6.6) 3.6	内外	ロクロナデ ロクロナデ→底部回転糸切り	口縁部・底部1/4残存 内 N5/0(灰) 外 N5/0(灰)	0.5mm以下の白色粒子多量含む。3~8mmの小石含む。 火だすき有。	IV区2層
4	須恵器杯	(13.0) (6.2) 3.3	内外	ロクロナデ ロクロナデ→底部回転糸切り	口縁部・底部1/4残存 内 N6/0(灰) 外 N6/0(灰)	0.5mm以下の白色粒子、黒色粒子少量含む。	I区トレ IV区2層
5	須恵器杯	13.8 (6.8) 3.7	内外	ロクロナデ ロクロナデ→底部回転糸切り	口縁部1/2、底部3/4残存 内 10GY6/1(緑灰) 外 10GY6/1(緑灰)	1mm以下の白色粒子、2mm以下の黒色粒子含む。 火だすき有。	I区2層、II区1層、II区2層、カマド、I区トレ
6	須恵器杯	(13.2) (6.4) 3.6	内外	ロクロナデ ロクロナデ→底部回転糸切り	口縁部・底部1/2残存 内 7.5Y6/1(灰) 外 7.5Y6/1(灰)	1mm以下の白色粒子多く含む。 火だすき有。	I区1層 I区2層
7	須恵器杯	13.9 6.6 3.5	内外	ロクロナデ ロクロナデ→底部回転糸切り	口縁部7/8残存、底部完形 10BG6/1(青灰)	2mm以下の黒色粒子多く含む。 火だすき有。	
8	須恵器杯	— (7.3) <3.1>	内外	ロクロナデ ロクロナデ→底部回転糸切り	底部1/2残存 内 5Y7/1(灰白) 外 5Y7/1(灰白)	1mmの黒色粒子、赤色粒子含む。 火だすき有。	I区2層
9	土師器杯	— (6.3) <2.3>	内外	ミガキ 横ナデ→底部および底部外周手持ちヘラケズリ	底部1/2残存 内 2.5YR6/6(橙) 外 2.5YR6/6(橙)	0.5mm以下の白色粒子、黒色粒子、赤色粒子少量含む。	カマド
10	土師器鉢	(13.2) — <7.9>	内外	口縁部横ナデ→胴部横位ヘラナデ 胴部ケズリ→口縁部横ナデ	口縁部1/5残存 内 2.5YR5/4(にぶい赤褐) 外 2.5YR5/4(にぶい赤褐)	1mm以下の白色粒子含む。	カマド
11	土師器鉢	(13.8) — <10.4>	内外	胴部横~斜位ヘラナデ→口縁部横ナデ 口縁部横ナデ・胴部横~斜位ケズリ	口縁部2/3残存 内 2.5YR6/6(橙) 外 2.5YR6/6(橙)	1mmの白色粒子、赤色粒子含む。	カマド
12	土師器甕	(20.6) — <16.0>	内外	口縁部横ナデ→胴部(ヘラ)ナデ 胴部ケズリ→口縁部横ナデ	口縁部1/4残存 内 5YR6/4(にぶい橙) 外 5YR7/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子、赤色粒子、黒色粒子含む。	カマド
13	土師器甕	(20.8) — <22.2>	内外	口縁部横ナデ・胴部横位ヘラナデ(剥離して、新旧判別できない) 胴部ケズリ→口縁部横ナデ	口縁部1/4残存 内 2.5YR5/4(にぶい赤褐) 外 5YR7/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子含む。	カマド、I区トレ、I区1層、IV区、IV区2層
14	土師器甕	— (7.0) <8.0>	内外	ヘラナデ ヘラケズリ	底部1/2残存 2.5YR6/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子含む。	カマド、II区1層、IV区1層、IV区2層
15	土師器甕	— (4.4) <6.0>	内外	ヘラナデ(横位) ヘラケズリ(斜位)	底部2/3残存 内 5YR5/4(にぶい赤褐) 外 7.5YR6/3(にぶい褐)	0.5mm以下の白色粒子少量含む。	カマド堀方 II区2層
16	土師器甕	— (4.0) <6.1>	内外	ヘラナデ ヘラケズリ(斜位)	底部1/4残存 内 2.5YR5/4(にぶい赤褐) 外 5YR6/3(にぶい橙)	0.5mm以下の白色粒子、赤色粒子、黒色粒子少量含む。	カマド堀方 III区堀方
17	土師器甕	— (4.8) <4.0>	内外	ヘラナデ ヘラケズリ	底部3/4残存 2.5YR6/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子少量含む。	カマド カマド堀方 II区2層
18	縄文土器鉢						II区2層
番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備考	出土位置
19	鉄製刀子				60		

6) H7号住居址(第18~20図、第7表、巻頭図版4・5・6図版4・5・13)

Bく4グリットにあり、南北428cm、東西436cmの方形を呈し、壁残高は50cmを測る。カマドは北壁中央よりやや西に寄っている。主軸方位はN-5°-Wを指す。床面には灰・焼土がみられ焼失家屋であるため土器が多く残されていた。カマドは崩壊していたが、煙道部は下に沈んではいるものの旧状を留めていた。カマドは地山を残して袖芯とし、先端には袖石を置いたようである。検出時西側の袖は袖石を残したまま土は少し西に動いていた。そのため袖石と粘土がずれている。框石はP4の東にある。北方向からの急激な堆積によりカマドが崩壊した様子がわかる。焚口の内幅は40cmを測る。火床面には灰が残っていた。主柱穴はP1~P4である。ピットの掘方が2重にあり、径44~56cm、深さ40~50cmを測る円形または楕円形の中に、径28~36cmのほぼ円形のピットが掘り込まれ、径16~22cmの柱痕がみられた。南壁下中央には径38cm深さ12cmの出入り口の落ち込みがある。壁下には周溝が巡っている。床面はロームを入れて貼っているが焼失家屋のためか締まっていなかった。

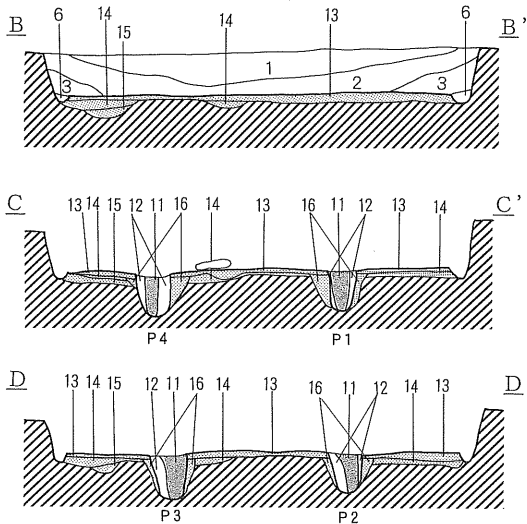
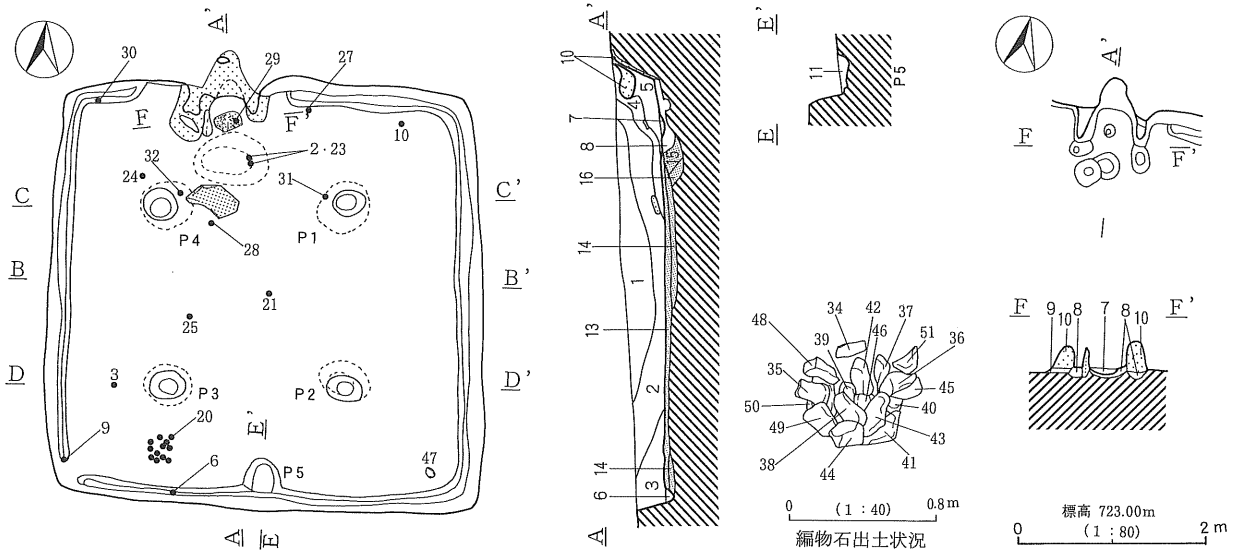
出土遺物には土師器杯(1~10)、小椀(12)、鉢(11・13~22)、長胴甕(23~29)、丸胴甕(30)、甌(31・32)凝灰岩製砥石(33)、編物石(34~51)がある。土師器杯は1~4が須恵器杯蓋模倣杯である。橙色の胎土が粉末質で小振りな杯である。内面はナデ、外面口縁部横ナデ底部ヘラケズリ調整される。3は底部と口縁の外稜は調整の差異による外稜となっている。焼成もいくらかあまい。5~8は須恵器杯蓋模倣杯であるが、内面ミガキ黒色処理されるもので、外面は口縁部横ナデ底部ヘラケズリされた後ミガキが施される。器肉は厚い。9は黒色土器で、内外面ミガキ黒色処理される。10は平底に近い杯で、外稜を持って口縁が立ちあがる。12は椀の小型品で横ナデされ、わずかにミガキがある。この中で完形に近いものだけを挙げると、杯では2・3・9・10・12である。5~8・10の杯は磨耗が著しく、6が1/2、10が4/5残存するが、1/3~1/4程度の残りである。後者は少々古い段階に位置づけられるのであろうか。鉢は13・17・20~22がほぼ完形の土器である。13は体部球形で端部だけつまんで直立させている。14~15は須恵器杯身の模倣であろうか口縁が内傾する。17は小形甕でもよいかもしれない。20は編物石の側から出土し、ミガキ調整される。21は大きい鉢で、内面半分は黒色を呈しミガキ黒色処理されたものであろうか。22の小型の鉢はミガキ調整は部分的でナデ調整黒色処理される。長胴甕は底部まである25・28・29が使用されていた甕であろう。25は口縁が外反し、胴部形が砲弾形である。最大径は口縁にある。長胴化が進み器高は40cmを測る。28・29は鉢型に近い甕で口径が大きい。口縁は短く外反し、黒色を呈す。23の甕は口縁が大きく強く外反し、胴部はヘラケズリされ胴下部は細い器形である。24は23より口縁が短く胴下部もすぼまらない。26・27の甕は中型の甕で平底を呈し、27は木葉痕が残る。甌は鉢形で、多孔(31)と単孔(32)がある。ミガキ調整はわずかにみられるがナデ調整に近いものである。28・29の甕にセットするには小さい甌である。23~26の甕と大きさが合っている。30の丸胴甕はケズリ・ハケ目を残しミガキ調整される。

南西床面からは18個(34~51)の編物石が図示したようにまとまって出土している。

これらは古墳時代後期の土器群であろう。

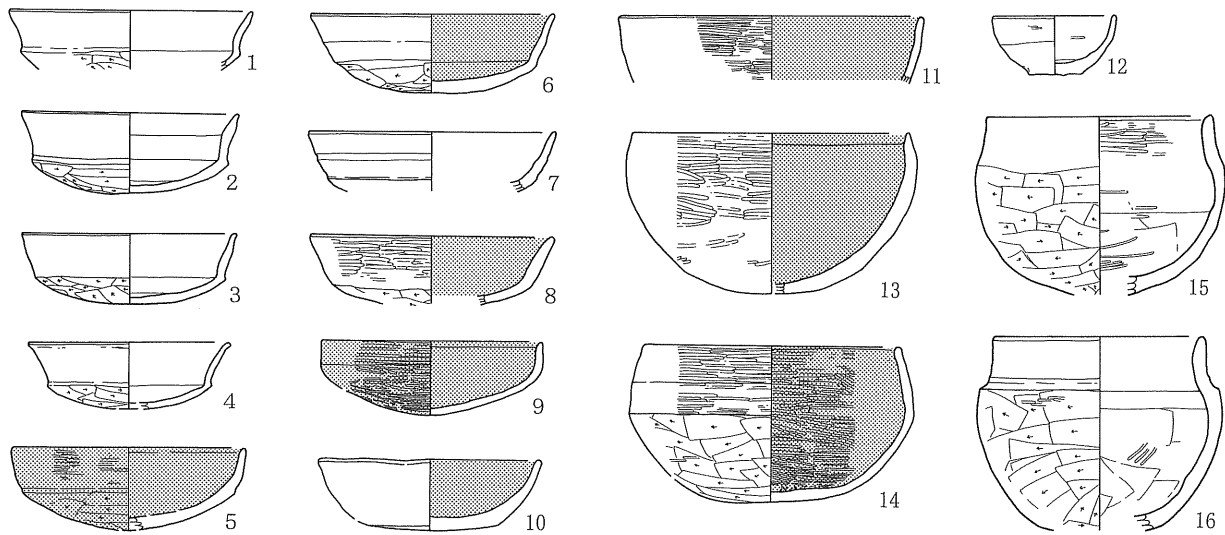
第7表 H7号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	土師器杯	(12.9) (11.6) <3.2>	内外 横ナデ 口縁部横ナデ→底部ケズリ	口縁部1/6残存 内 2.5YR6/6(橙) 外 2.5YR6/6(橙)	緻密。1mmの白色粒子、黒色粒子少量含む。	カマド
2	土師器杯	11.4 10.3 4.4	内外 みこみ部ナデ→口縁部横ナデ 口縁部横ナデ→底部強いケズリ	口縁部3/4残存、底部完形 内 2.5YR7/6(橙) 外 2.5YR7/6(橙)	緻密。1mm以下の赤色粒子、黒色粒子少量含む。	Ⅳ区1層 Ⅳ区2層 Ⅳ区3層
3	土師器杯	11.3 10.0 3.8	内外 みこみ部ナデ→口縁部横ナデ 口縁部横ナデ→底部ケズリ	完形 内 5YR7/6(橙) 外 5YR7/6(橙)	1mmの赤色粒子、黒色粒子、白色粒子少量含む。 緻密。	Ⅲ区2層 Ⅳ区3層
4	土師器杯	(10.6) (8.6) 3.5	内外 横ナデ 口縁部横ナデ→底部ナデ	口縁部1/6残存 内 5YR7/6(橙) 外 5YR7/6(橙)	緻密。 外面磨耗している。	カマド
5	土師器杯	(12.4) (11.1) <4.4>	内 剥離、磨耗著しく判別できない(黒色処理) 外 口縁部ミガキ・底部ケズリ(黒色処理)	口縁部1/4、底部1/3残存 内 10YR7/2(にぶい黄橙) 外 10YR7/1(灰白)	1mm以下の赤色粒子、白色粒子、黒色粒子少量含む。	I区1層
6	土師器杯	13.0 10.7 4.2	内外 ミガキ→黒色処理 口縁部横ナデ→底部ケズリ	口縁→底部1/2残存 外 10YR8/3(浅黄橙)	1mmの白色粒子、黒色粒子、赤色粒子含む。 段あり。	
7	土師器杯	(13.2) (11.0) <3.2>	内外 ミガキ(単位はわからない) 口縁部横ナデ・底部ナデ 内面剥離著しい。外面磨耗著しい。	口縁部1/6残存 10YR7/4(にぶい橙)	1mm以下の赤色粒子、白色粒子、黒色粒子含む。 沈線あり。	Ⅲ区トレ
8	土師器杯	(13.1) (10.7) <3.6>	内外 ミガキ→黒色処理 口縁部ミガキ・底部ケズリ	口縁部1/2残存 外 7.5YR7/3(にぶい橙)	1mmの黒色粒子、赤色粒子含む。3mm以下の白色粒子含む。	Ⅲ区



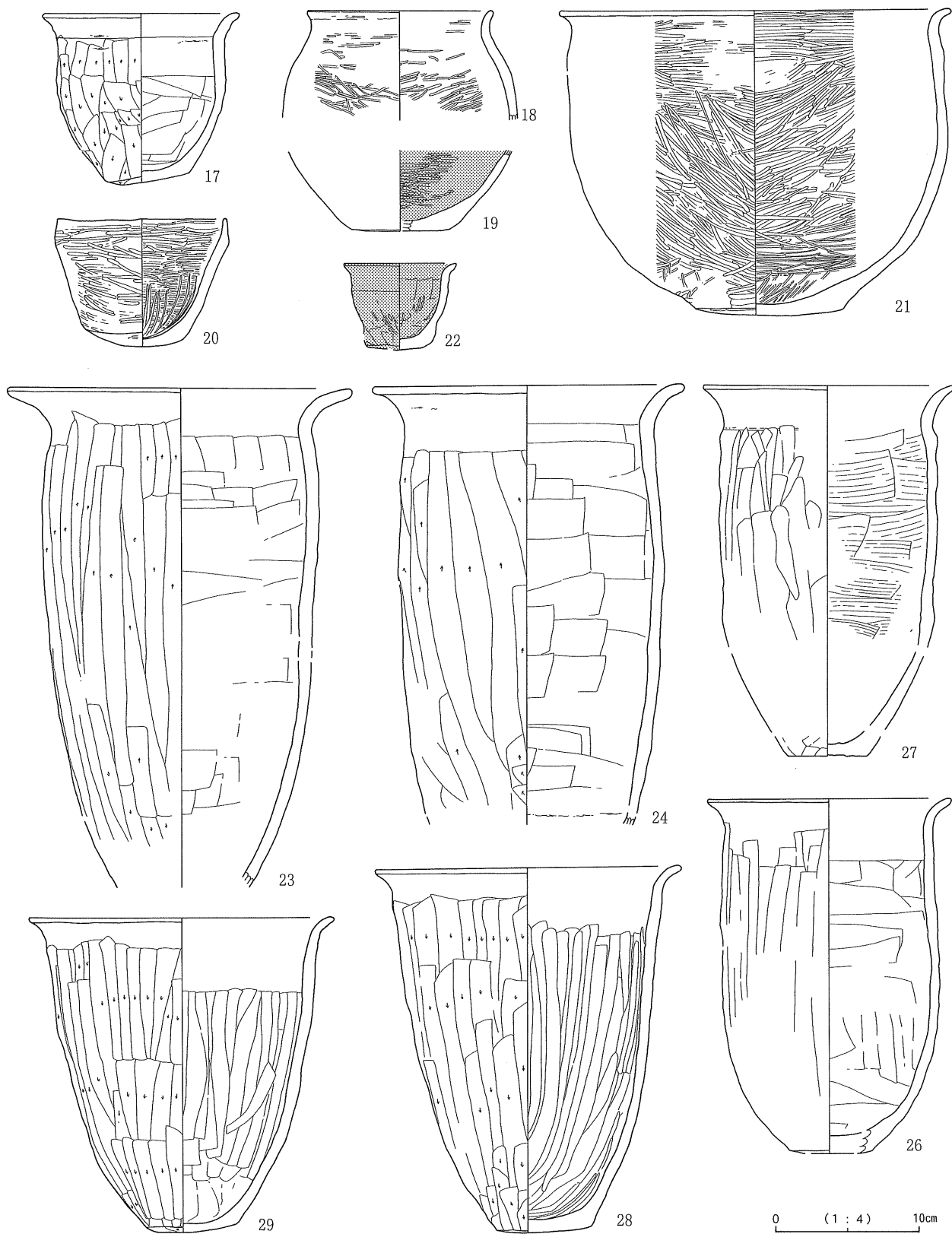
H7 土層説明

1. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR2/2不定大ブロックを含む。
2. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR2/2不定大ブロック、10YR7/4ロームを多く含む。
3. 黒褐色土層 (10YR2/2) ・にぶい黄褐色土層 (10YR7/4) ローム混在土層。
4. にぶい橙色土層 (7.5YR6/4) カマド粘土崩壊層。
5. 褐色土層 (10YR4/4) 灰、焼土粒子を含む。
6. 周溝
7. 褐灰色土層 (7.5YR6/1) 灰層。
8. 黒褐色土層 (7.5YR3/2) 灰、焼土、粘土ブロックを含む。(カマド堀方埋土)
9. 黒色土層 (7.5YR2/1) 粘土、炭化物粒子を含む。(カマド堀方)
10. にぶい赤褐色土層 (5YR5/4) 粘土層。(カマド構築土)
11. 褐色土層 (10YR4/4) 柱痕。
12. にぶい黄褐色土層 (10YR7/4) ローム主体、パミスを含む。(ピット堀方)
13. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) ・明黄褐色土層 (10YR7/6) ローム混在層。(貼床)
14. 明黄褐色土層 (10YR7/6) ローム主体。(堀方埋土)
15. にぶい黄褐色土層 (10YR7/4) ローム主体。(堀方埋土)
16. にぶい黄褐色土層 (10YR6/3) ピット堀方埋土。

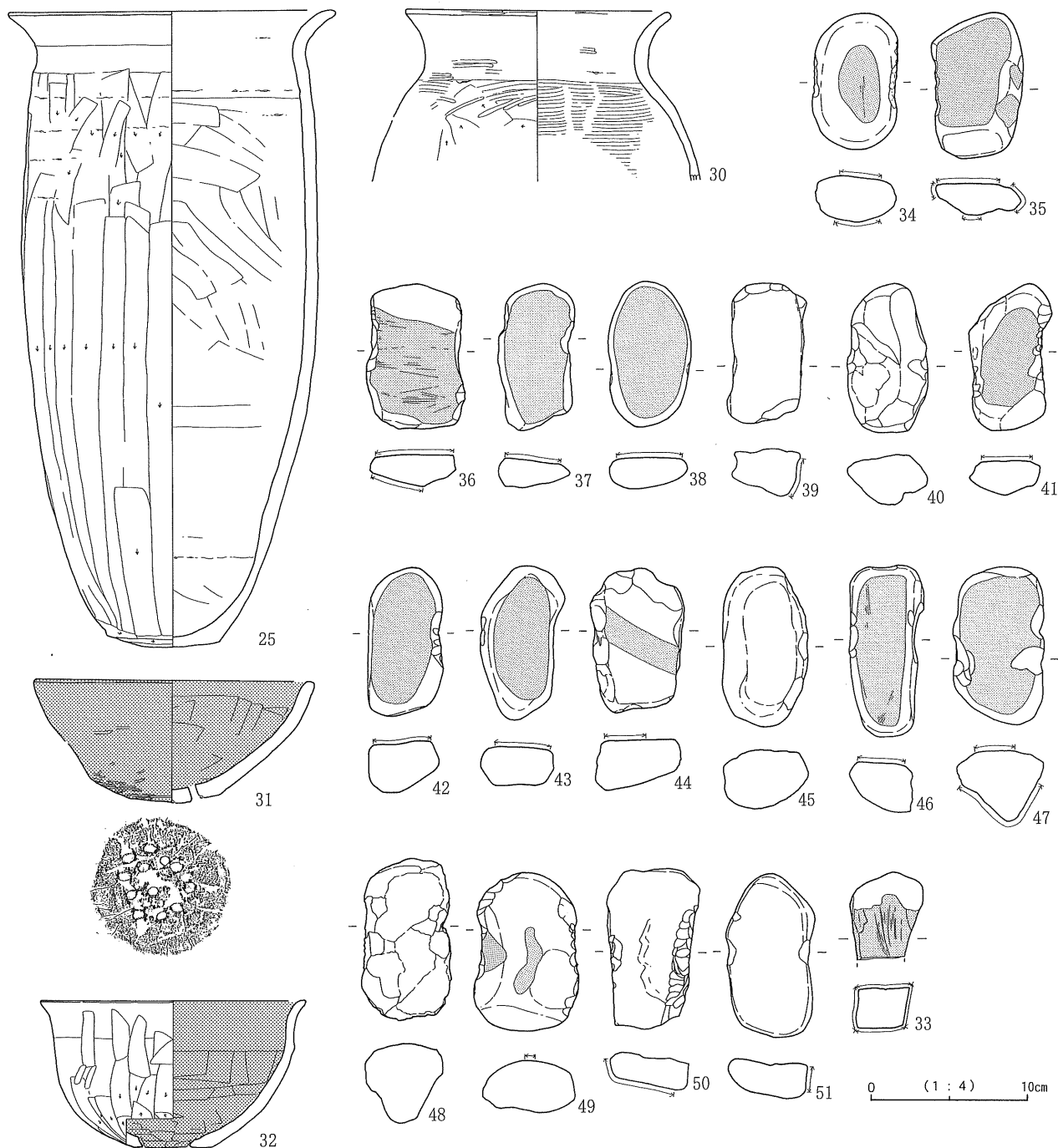


第18図 H7号住居址

0 (1:4) 10cm



第19图 H7 号住居址



第20図 H7号住居址

9	土師器 杯	(11.8) — 3.9	内外 ミガキ→黒色処理 ミガキ→黒色処理	口縁部3/4残存 黒色	1mm以下の白色粒子含む。Ⅲ区3層
10	土師器 杯	(11.9) 7.0 3.8	内外 ミガキ→黒色処理 ナデ	底部ほぼ完形 外 7.5YR7/2(明褐灰)	1mmの赤色粒子、1mm以下の 白色粒子、黒色粒子を含む。 外面磨耗。
11	土師器 鉢	(16.2) — <3.6>	内外 ミガキ→黒色処理 ミガキ	口縁部1/6残存 外 7.5YR7/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子含む。検出

12	土師器 小椀	6.6 2.8 3.2	内外 みこみ部ナデ→口縁部横ナデ→ミガキ ナデ→口縁部横ナデ→ミガキ	完形 内 10YR7/3(にぶい黄橙) 外 10YR7/3(にぶい黄橙)	1mmの白色粒子含む。2mm 以下の小石少量含む。	IV区1層
13	土師器 鉢	(14.8) — 8.5	内外 ミガキ→黒色処理 ミガキ	口縁部1/3残存 外 7.5YR7/3(にぶい橙)	1～2mmの赤色粒子、黒色 粒子含む。	II区2層 II区3層
14	土師器 鉢	(13.8) 5.1 8.3	内外 ミガキ→黒色処理 口縁部横位ミガキ・胴～底部ケズリ→ ミガキ	口縁部1/6残存 内 7.5YR6/3(にぶい褐) 外 10YR5/1(褐灰)	1～2mmの赤色粒子、白色 粒子、黒色粒子含む。	カマド I区1層
15	土師器 鉢	(12.0) — <9.4>	内外 胴部ヘラナデ→口縁部横ナデ→ミガキ 口縁部横ナデ→ケズリ 外面摩耗著しい	口縁部1/2残存 内 10YR7/2(にぶい黄橙) 外 10YR7/2(にぶい黄橙)	1～2mmの白色粒子、赤色 粒子、黒色粒子含む。 磨耗。	I区2層 I区トレ
16	土師器 鉢	(11.4) (6.3) <10.2>	内外 胴部横位～斜位ヘラナデ→口縁部横ナ デ→一部ミガキ 口縁部横ナデ・胴部ケズリ→雑なミガキ	口縁部1/3残存 内 7.5YR8/3(浅黄橙) 外 5YR8/3(淡橙)	1～2mmの白色・黒色粒子 含む。	II区2層 II区3層
17	土師器 鉢	(13.8) 5.7 11.9	内外 胴～底部ヘラナデ→口縁部～胴上半部 横ナデ→口縁部ミガキ 口縁部横ナデ→胴・底部ケズリ	口縁部3/4残存、底部完形 内 10YR7/3(にぶい黄橙) 外 7.5YR7/3(にぶい橙)	1mm以下の赤色粒子、白色 粒子含む。 1～2mmの小石含む。	I区2層 III区 IV区2層
18	土師器 鉢	(13.0) — <7.5>	内外 口縁部横ナデ→ミガキ 口縁部横ナデ→ミガキ	口縁部1/4残存 7.5YR8/4(浅黄橙)	緻密。 1mmの赤色粒子少量含む。 外面磨滅。	IV区2層
19	土師器 鉢	— (6.8) <5.6>	内外 ミガキ→黒色処理 ミガキ(ただし、磨滅著しく単位の判 別不能) 黒色処理か?	底部1/2残存 10YR4/1(褐灰)	1mm以下の白色粒子多く含 む。	III区3層
20	土師器 鉢	11.7 6.7 8.9	内外 ミガキ ミガキ	完形 内 2.5YR6/4(にぶい橙) 外 7.5YR7/3(にぶい橙)	1mmの白色粒子、黒色粒子、 赤色粒子含む。	
21	土師器 鉢	27.4 10.3 21.2	内外 ミガキ→黒色処理か ミガキ	口縁部7/8残存 7.5YR7/4(にぶい橙)	1～2mmの白色粒子含む。	I区2層
22	土師器 小鉢	(7.8) 4.7 6.0	内外 口縁部横ナデ→胴～底部ヘラナデ→部 分的にミガキ→黒色処理 胴・底部ナデ→口縁部横ナデ→部分的 にミガキ→黒色処理	口縁部1/4残存、底部完形 10YR6/6(明黄褐)	1mmの白色粒子多く含む。	I区1層
23	土師器 甕	24.0 — <34.9>	内外 口縁部横ナデ→胴部横位ヘラナデ 口縁部横ナデ→胴部縦位ケズリ	口縁部1/2残存 内 10YR7/3(にぶい黄橙) 外 10YR7/3(にぶい黄橙)	2mm以下の白色粒子多く含 む。 2～5mmの白い小石を多く 含む。	I区1層 検出
24	土師器 甕	21.7 — <30.7>	内外 口縁部横ナデ→胴部横位ヘラナデ 口縁部横ナデ→胴部縦位ケズリ	口縁部完形 5YR5/8(明赤褐)	3.5mm以下の白色粒子少量 含む。 小石少量含む。	III区3層 IV区2層
25	土師器 甕	20.8 7.1 40.2	内外 口縁部横ナデ→胴～底部ナデ 口縁部横ナデ→胴・底部ケズリ	ほぼ完形 7.5YR7/4(にぶい橙)	1～2mmの白色粒子、赤色 粒子含む。	III区2層
26	土師器 甕	17.0 (5.8) 24.6	内外 胴～底部ヘラナデ→口縁部横ナデ 胴部縦位ヘラナデ→口縁部横ナデ	口縁部ほぼ完形 5YR7/4(にぶい橙)	1mmの白色粒子、黒色粒子、 赤色粒子含む。	IV区1層 IV区3層
27	土師器 甕	(17.6) 5.4 25.7	内外 口縁部横ナデ・胴～底部ヘラナデ 口縁部横ナデ→胴・底部ナデ(木葉痕 を消す)	底部完形・口縁部1/2残存 5YR7/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子、赤色 粒子、黒色粒子含む。	IV区1層 IV区2層 IV区3層
28	土師器 甕	21.2 6.5 25.5	内外 口縁部横ナデ→底部胴～縦位ナデ 口縁部横ナデ→底部胴・縦位ケズリ	口縁部・底部完形 内 10YR7/2(にぶい黄橙) N2/0(黒) 外 10YR7/2(にぶい黄橙) N2/0(黒)	4mm以下の白色粒子多く含 む。	IV区3層
29	土師器 甕	21.2 6.1 21.8	内外 口縁部横ナデ→胴～底部ナデ 口縁部横ナデ→胴・底部ケズリ	ほぼ完形 内 10YR8/2(灰白) N3/0(暗灰) 外 10YR7/2(にぶい黄橙) N3/0(暗灰)	1～2mmの白色粒子を多く 含む。	
30	土師器 甕	16.8 — <10.8>	内外 口縁部横ナデ→ミガキ・胴横位ハケナデ 胴部ケズリ・ハケナデ→ミガキ→口縁 部横ナデ	口縁部完形 7.5YR7/3(にぶい橙)	1mmの赤色粒子含む。	II区2層
31	土師器 甕 (多孔)	(17.9) 8.2 7.8	内外 口縁部横ナデ→胴～底部ヘラナデわず かにミガキ→黒色処理 ミガキ→黒色処理	口縁部3/4残存 2.5YR5/1(赤灰)	1mm前後の白色粒子、黒色 粒子含む。 焼成前に穿孔。(15個)	
32	土師器 甕 (一孔)	16.8 4.8 9.3	内外 胴～底部ヘラナデ→口縁部横ナデ→黒 色処理 胴～底部ケズリ・ナデ→口縁部横ナデ	完形 外 5YR7/4(にぶい橙)	1mm前後の赤色粒子、白色 粒子、黒色粒子含む。 焼成前に穿孔。	

番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備考	出土位置
33	砥石	5.5	4.6	2.6	122	凝灰岩	Ⅲ区3層
34	縄物石	8.5	5.5	3.0	200	擦面あり。安山岩。	
35	縄物石	9.2	5.9	2.0	168	擦面あり。安山岩。	
36	縄物石	9.1	6.2	2.0	182	擦面あり。安山岩。	
37	縄物石	9.3	4.9	1.8	148	擦面あり。安山岩。	
38	縄物石	9.3	5.1	2.0	132	擦面あり。安山岩。	
39	縄物石	8.9	5.0	3.0	170	擦面あり。安山岩。	
40	縄物石	9.4	5.2	3.2	176	安山岩。	
41	縄物石	9.3	5.3	2.2	144	擦面あり。安山岩。	
42	縄物石	9.3	4.8	3.2	206	擦面あり。安山岩。	
43	縄物石	9.7	5.4	2.5	174	擦面あり。安山岩。	
44	縄物石	9.1	5.9	3.2	212	安山岩。	
45	縄物石	10.2	5.4	3.8	248	安山岩。	
46	縄物石	10.8	4.8	3.1	234	擦面あり。安山岩。	
47	縄物石	10.0	5.9	4.6	314	擦面あり。安山岩。	
48	縄物石	10.3	5.7	5.0	388	安山岩。	
49	縄物石	10.1	6.6	3.3	290	花崗岩。擦面あり。	
50	縄物石	10.2	5.8	2.3	174	擦面あり。砂岩	
51	縄物石	10.3	5.7	2.6	200	擦面あり。安山岩。	

8) H8号住居址 (第21・22図、第8表、図版6・14)

Dあ3グリットにあり、南北452cm、東西484cmの東西に長い方形を呈し、壁残高は50cmを測る。カマドは北壁中央にあり、主軸方位はN-28°-Wを指す。カマドは粘土で構築され、両袖と煙道が残っていた。カマド焚口の内幅44cmを測る。支柱穴はP1～P4の4本である。短径56～70cm深さ60～72cmの円形または楕円形の大きい堀方に、短径で34～54cmの楕円形ないし円形のピット掘っている。P2とP3に柱痕がみられ、径24cmを測る。カマドの東脇にはP7・P8の径44cm深さ8cm、径28cm深さ12cmの円形小ピットがみられた。また南壁下に径28cm深さ18cmと径18cm深さ12cmを測る円形の出入り口ピットがあった。床面はロームと黒褐色土ブロックで貼床し、周辺部は深く掘り下げ、中央部に高く地山を残す堀方であった。

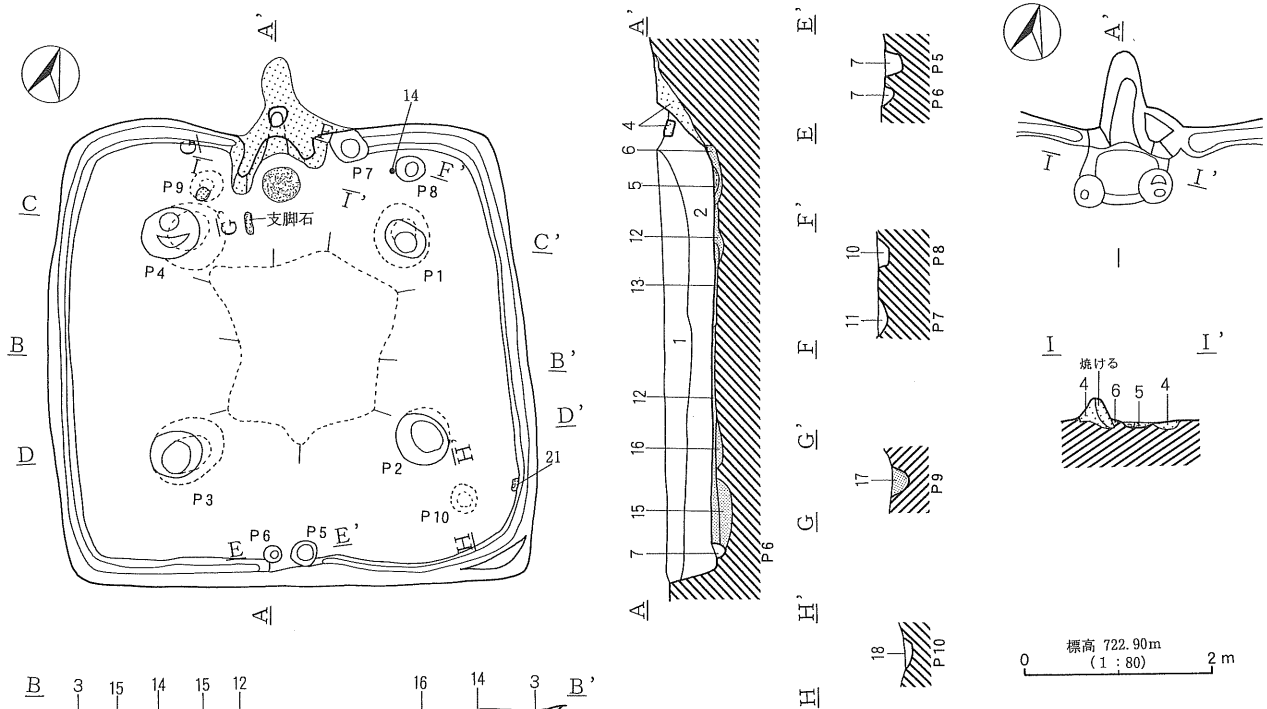
出土遺物には須恵器蓋(1)・甕(6)・甕(16)・杯(17)、土師器鉢(2)、把手付鉢(3)、甕(4・5・10・11・13～15)、丸胴甕(7・8・9・12)、縄文土器(18)、鉄製品(19)、スリ石(20・21)の2点がある。

1の須恵器蓋はかえりがあり、天井部は回転ヘラケズリされる。6の甕は器肉が薄く、口縁端部は帯状をなし、胴部タタキ目後口縁部が横ナデされる。内面はナデ調整である。16は甕の底部であろうかナデ調整される。17は杯底部で、底部回転ヘラケズリ後刻書される。「郷」か文字は判読できない。土師器は杯がなく、2の鉢は内面ミガキ黒色処理される素口縁である。3は舌状の把手が付く。内面口縁部と外面の一部がミガキ調整される。甕は古墳時代の厚手の長胴甕(11・13・15)と武蔵甕(4・10・14)の両者がある。丸胴甕は7・8は同個体であるが接合点はない。磨耗が著しく、外面にミガキの痕跡が残り、内面胴部はナデ調整される。9の丸胴甕口縁部は内外面ミガキ調整される。本住居址の遺物はいずれも破片で、完形品はない。

古墳時代後期の土器群であろうと推測される。

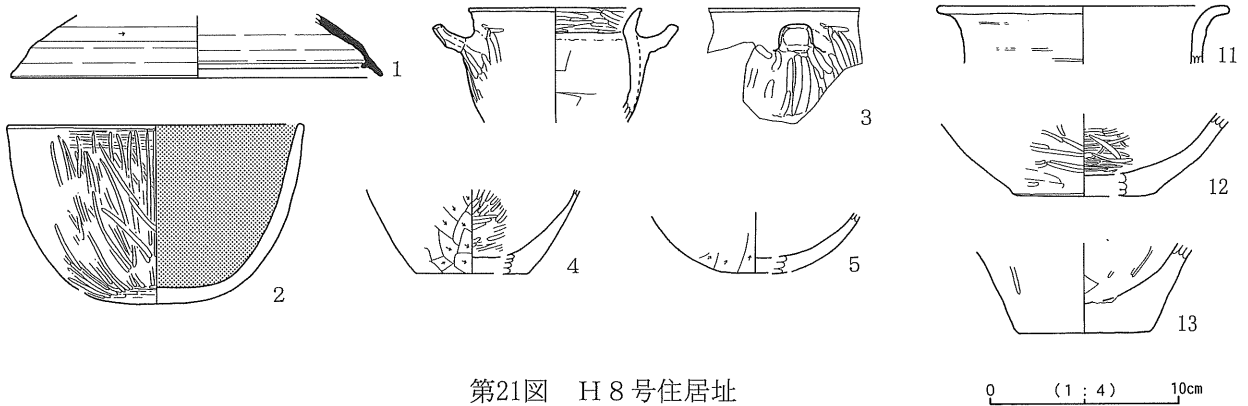
第8表 H8号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	須恵器蓋	(19.7) — <3.3>	内外 ロクロナデ ロクロナデ→天井部回転ヘラケズリ	口縁部1/8残存 内 N5/0(灰) 外 N6/0(灰)	2mm以下の白色粒子多量に含む。 外面自然釉付着。	Ⅱ区1層 Ⅱ区2層
2	土師器鉢	(15.8) — 9.5	内外 ミガキ→黒色処理 ミガキ	口縁部1/4残存 10YR8/3(浅黄橙)	3mm以下の赤色粒子、1mm以下の白色粒子含む。	Ⅳ区2層
3	土師器鉢(把手付)	(9.2) — <6.1>	内外 口縁部横位ミガキ・胴部横位ヘラナデ 口縁部横ナデ・胴部ナデ→一部ミガキ	口縁部1/3残存 7.5YR7/6	1mm以下の赤色粒子、黒色粒子を含む。	Ⅱ区I層

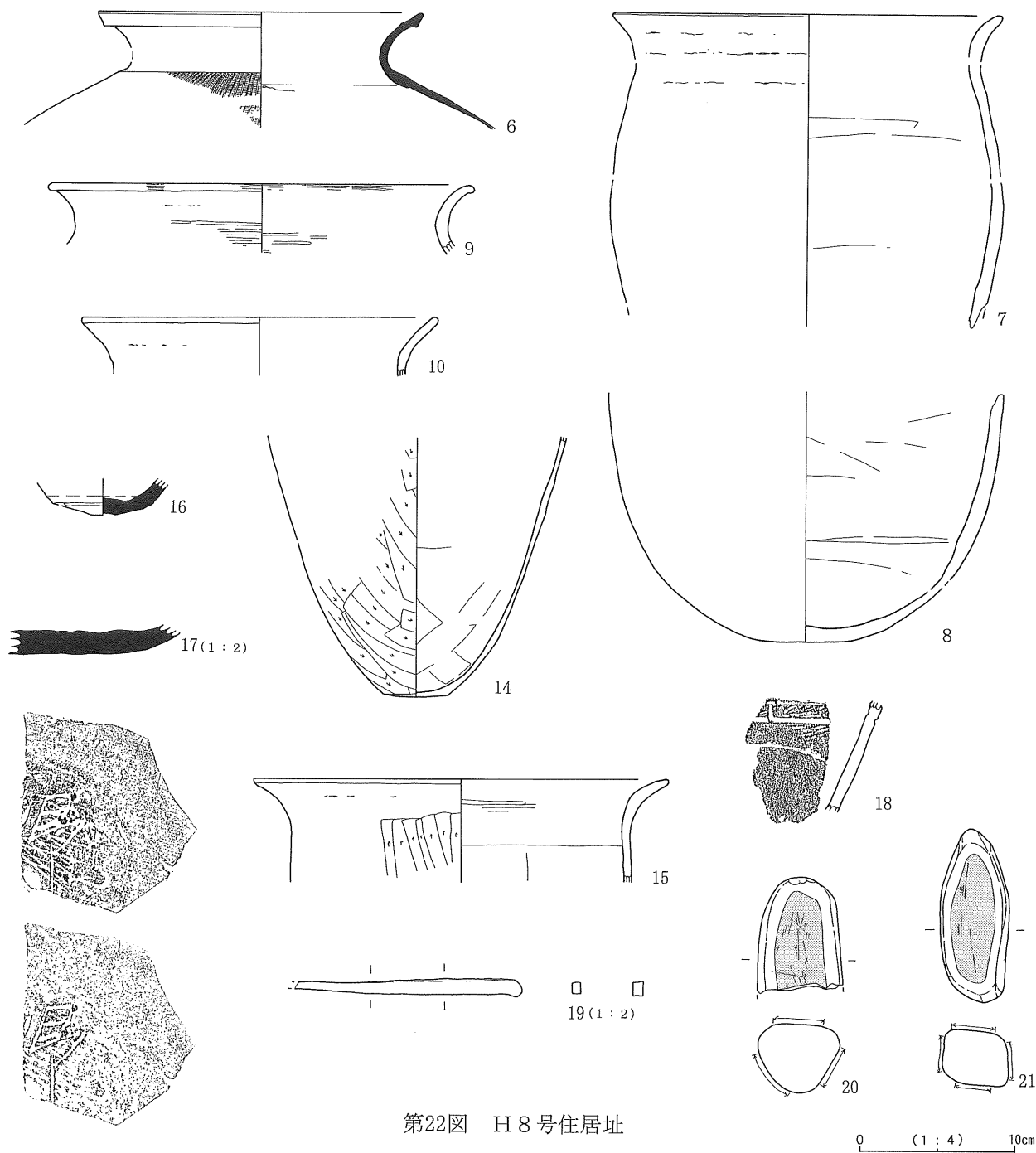


H 8 土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR2/3) ~ 3cmバミス、ローム粒子を含む。
2. 黒褐色土層 (10YR3/2) ~ 3cmバミスを1層より多く含む、ローム粒子を多く含む。
カマド付近は、10YR3/1粘土ブロック、焼土粒子を含む。
3. 褐色土層 (10YR4/4) 10YR5/4のローム粒子を多く含む。(周溝)
4. 黒褐色土層 (10YR2/3) 10YR3/1粘土ブロックを含む。(カマド構築土)
5. 焼土
6. カマド堀方
7. 黒褐色土層 (10YR2/3) ~ 1cmバミス、ローム粒子を含む。
8. 褐色土層 (10YR4/4) ローム粒子を多く含む。(柱痕)
9. にぶい黄褐色土層 (10YR5/4) ローム主体。~ 5cmバミスを多く含む。(ピット)
10. 黒褐色土層 (10YR3/2) ローム、バミスを含む。
11. 暗褐色土層 (7.5YR3/3) ローム粒子を多く含む。
12. 暗褐色土層 (10YR3/4) バミス、ロームブロック、黒褐色土ブロック含む。(貼床)
13. 暗褐色土層 (10YR3/4) 粘土ブロックを含む。(貼床)
14. 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム粒子、バミスを含む。(堀方埋土)
15. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) ローム、バミスを多く含む。(堀方埋土)
16. にぶい黄褐色土層 (10YR6/4) ローム主体。(堀方埋土)
17. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 粘土ブロック、ロームブロックを含む。(P 9)
18. 褐色土層 (10YR4/4) ローム粒子、バミスを含む。(P 10)
19. にぶい黄褐色土層 (10YR5/4) ローム主体。(旧ピット堀方)



第21図 H 8 号住居址



第22図 H 8 号住居址

0 (1 : 4) 10cm

4	土師器 甕	(6.0) <4.5>	内外 ミガキ ケズリ	底部1/4残存 内 2.5YR6/4(にぶい橙) 外 5YR7/4(にぶい橙)	1mm以下の赤色粒子、白色 粒子を少量含む。	Ⅱ区2層
5	土師器 甕	(3.8) <3.2>	内外 ナデ ケズリ	底部1/2残存 内 10YR5/3(にぶい褐) 外 7.5YR7/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子、赤色 粒子、黒色粒子含む。	Ⅰ区2層
6	須恵器 甕	(20.8) <7.3>	内外 胴部ナデ→口縁部横ナデ 胴部タタキ目→口縁部横ナデ	口縁部1/4残存 7.5Y5/1(灰)	1mm以下の白色粒子、黒色 粒子少量含む。	Ⅳ区2層
7	土師器 甕	(25.1) <19.9>	内外 胴部横位ヘラナデ ミガキ(単位判別できない)	口縁部3/8残存 10YR7/3(にぶい黄橙)	1mmの赤色粒子、白色粒子 含む。 外面および内面口縁部磨減。 8と同一個体か?	Ⅰ区トレ Ⅰ区2層 Ⅳ区1層 Ⅳ区2層 カマド、検出

8	土師器 甕	— <15.8>	内外 横位ヘラナデ ミガキ(単位判別できない)	底部1/2残存 10YR7/3(にぶい黄橙)	1mmの赤色粒子、白色粒子 含む。 外面磨滅。7と同一個体か？	I区トレ IV区1層 IV区2層	
9	土師器 甕	(27.2) — <4.4>	内外 ミガキ ミガキ	口縁部1/8残存 7.5YR8/4(浅黄橙)	1mm以下の白色粒子、赤色 粒子少量含む 内面剥離。	II区2層 IV区1層	
10	土師器 甕	(22.8) — <3.8>	内外 横ナデ 横ナデ	口縁部1/4残存 7.5YR7/4(にぶい橙)	1mmの赤色粒子含む。	I区1層	
11	土師器 甕	(15.6) — <3.1>	内外 横ナデ 横ナデ→一部ミガキ	口縁部1/8残存 10YR7/3(にぶい黄橙)	1mm以下の白色粒子含む。	II区1層 IV区1層	
12	土師器 甕	— (7.7) <4.4>	内外 ミガキ ミガキ	底部1/6残存 内 7.5YR7/4(にぶい橙) 外 5YR7/6(橙)	緻密。	II区1層	
13	土師器 甕	— (7.0) <4.7>	内外 ナデとミガキ ミガキ	底部1/4残存 内 10YR4/1(褐灰) 外 10YR8/3(浅黄橙)	白色粒子、赤色粒子、黒色 粒子含む。小石含む。 外面剥離著しい。	II区1層	
14	土師器 甕	— 4.1 <16.5>	内外 ヘラナデ ヘラケズリ	底部完形 5YR7/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子少量含 む。	I区堀方	
15	土師器 甕	(26.6) — <6.6>	内外 口縁部横ナデ→ミガキ・胴部ヘラナデ 口縁部横ナデ→胴部縦位ケズリ	口縁部1/10残存 10YR7/3(にぶい黄橙)	1mm以下の赤色粒子、白色 粒子少量含む。	III区トレ	
16	須恵器 甕	— (6.6) <2.4>	内外 ロクロナデ→外面一部ナデ ロクロナデ→外面一部ナデ	底部3/4残存 N6/0(灰)	1mmの白色粒子、黒色粒子 含む。	I区1層	
17	須恵器 杯	— (8.6) <1.0>	内外 ロクロナデ ロクロナデ・底部回転ヘラケズリ→キ ザミ目→刻書		「郷」か。	I区1層	
18	縄文土器 深鉢					III区1層	
番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備考	出土位置
19	鉄製品	<7.3>	0.5	0.3	40		II区2層
20	擦石	<7.4>	<5.5>	4.4	268	赤色顔料付着。敲打痕あり。安山岩。	I区1層
21	擦石	11.0	4.4	3.6	334	安山岩。	

2、掘立柱建物址

1) F1号掘立柱建物址(第23図、図版7)

Aこ4グリットにあり、4間×3間の東西棟で側柱式である。東西640cm、南北512cmを測る長方形を呈す。長軸方位はN-63°-Eを指す。南列は柱穴が1個多い。柱間は桁行きの狭いところで104・120cm、広いところで140~172cmと不規則である。梁間柱間は160cm~192cmを測る。柱穴はほぼ円形を呈し、24~44cm、深さ11~37.5cmを測る。明確な柱痕は認められなかった。

出土遺物はP3から武蔵甕口縁部片が1点出土する。

2) F2号掘立柱建物址(第24図、図版1)

Cあ3グリットにあり、H1・F5と重複する。新旧は不明。不規則な柱穴の配列である。2間×2間かと推測されるがピット群と捉えた方がよいと思う。

3) F3号掘立柱建物址(第25図、図版7)

Aく6グリットにあり、古墳時代後期の住居址H2・M3に切られる。4間×2間の東西棟で側柱式である。東西728cm、南北440cmの長方形である。長軸方位N-67°-Eを指す。桁行き柱間160cm~216cm、梁行き柱間200cm~240cmを測る。柱穴は楕円形ないし円形を呈し、長径48~100cm、深さ42~79cmを測る。

出土遺物は、P1から土師器杯の内面ミガキ黒色処理片1点、P9からは土師器丸胴甕胴部片1点、P3から器種不明1点、これらは古墳時代後期の破片である。P6からは縄文の浅鉢片1点がある。

4) F4号掘立柱建物址(第24図、図版7)

Aこ10グリットにあり、攪乱により、南西のピットが壊されていた。1間×2間の側柱式で、東西360cm、南北352cmの方形を呈する。長軸方位はN-75°-Eを指す。桁行き360cm、梁行き柱間は168cm~184cmを測る。柱穴は円形で、

径56cm～68cm、深さ48～57cmを測る。径14～24cmの柱痕がみられた。

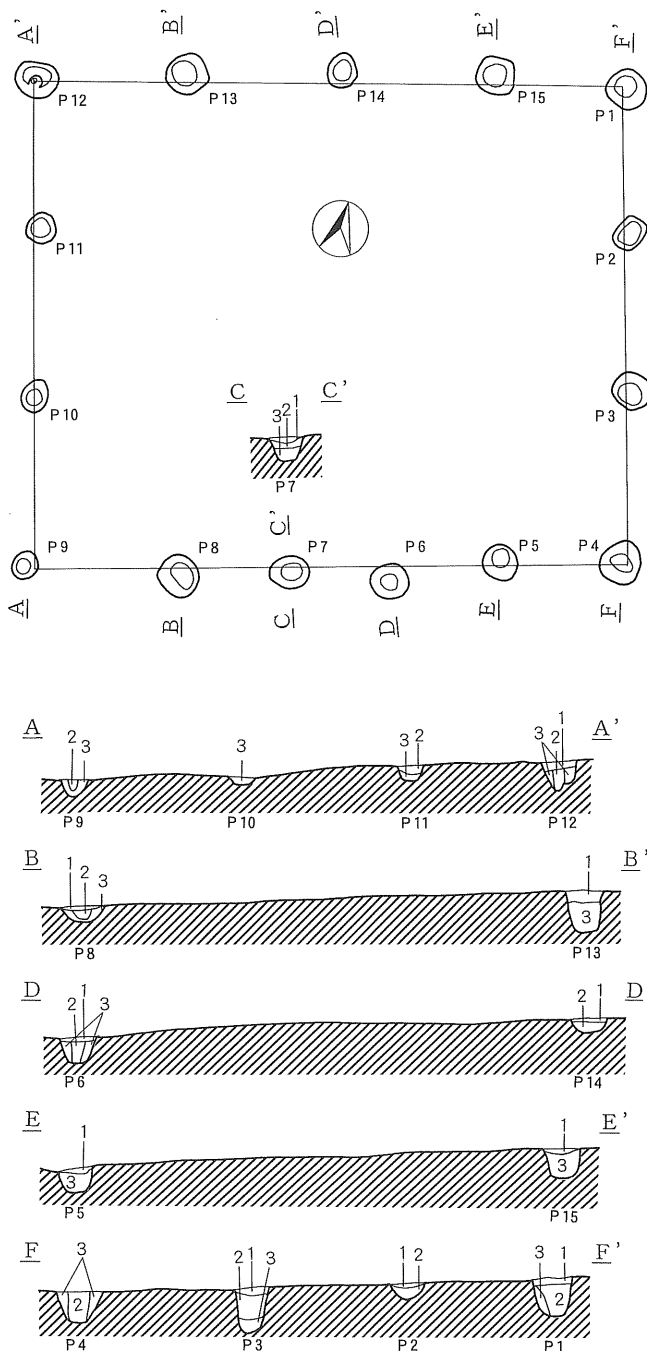
出土遺物はない。

5) F6号掘立柱建物址 (第23図、図版7・14)

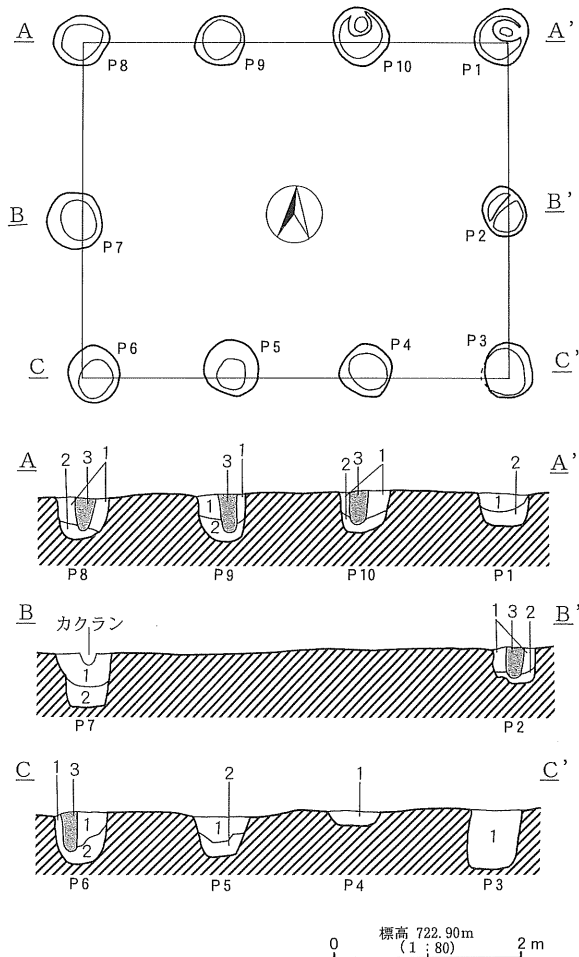
Bけ5グリットにあり、3間×2間の東西棟である。東西460cm南北360cmの長方形で長軸方位はN-80°-Eを指す。桁行き柱間は140cmと160cm、梁行き柱間は180cmである。柱穴は円形を呈し、径44～72cm深さ40～90cmを測る。柱痕は径20cmを測る。

出土遺物は、P7から縄文の浅鉢片、P9から外面にタタキ目のある須恵器甕胴部片が出土している。

F 1

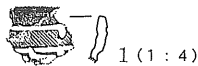


F 6



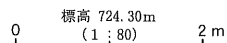
F 6 土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/4ロームを少し含む。
2. にぶい黄橙色土層 (10YR7/4) ローム2次堆積。10YR3/2土を少し含む。
3. 黒褐色土層 (10YR3/2) 柱痕。



F 1 土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 1mmバミス、ローム粒子をわずかに含む。
2. 黒褐色土層 (10YR2/2) 1層より黒色強。
3. 黒褐色土層 (10YR2/3) 1cmバミスを含む。



第23図 F1・F6号掘立柱建物址

6) F7号掘立柱建物址 (第24図、図版7)

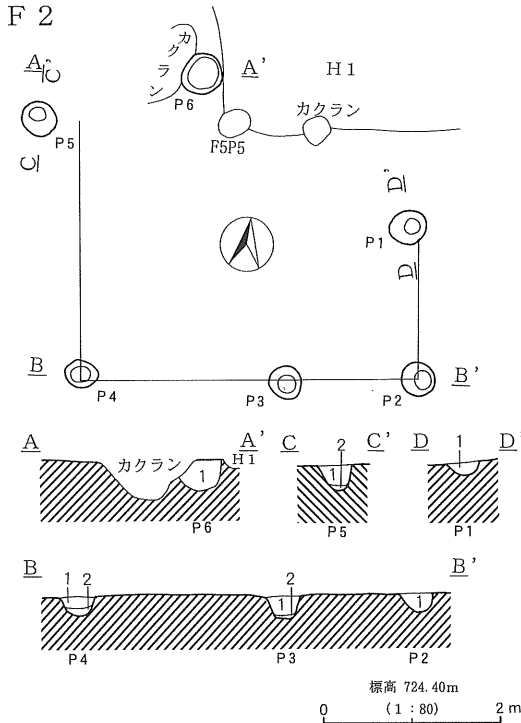
Dえ2グリットにあり、西側は調査区域外である。掘立柱建物址の東端を調査した。規模は不明、一×2間の梁行きは440cmを測る。軸方位はN-38°-Wを指す。柱穴は円形を呈し、径48~64cm深さ27~29cmを測る。

出土遺物はない。

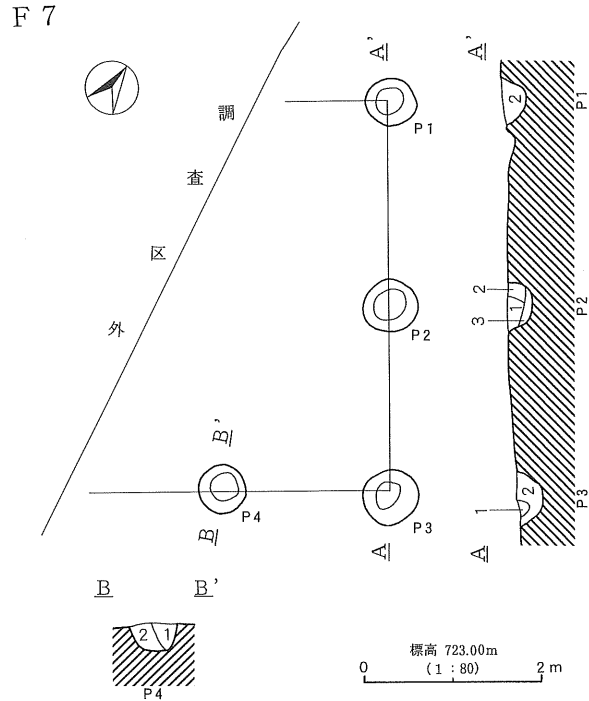
7) F8号掘立柱建物址 (第25図、図版7)

Bけ1グリットにあり、奈良末・平安初頭の竪穴住居址H6に切られている。3間×2間の南北棟で長軸方位はN-25°-Wを指す。桁行き柱間140~180cm梁行き柱間246cmを測る。柱穴は円形基調で、径44~60cm、深さ13~43cmを測る。

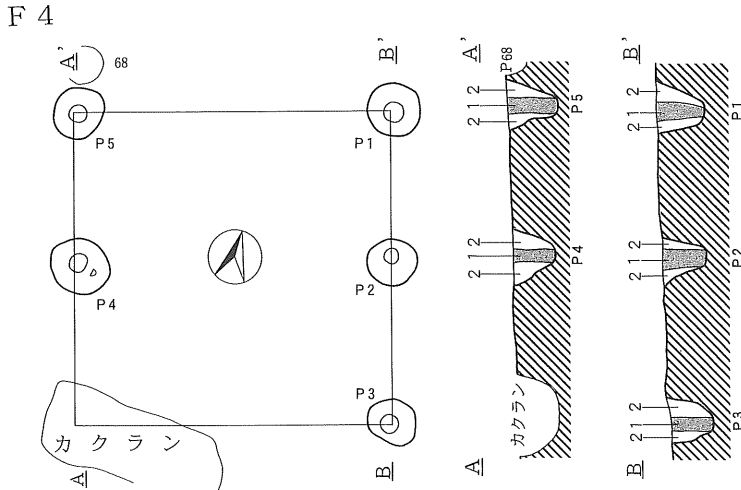
出土遺物はない。



- F2 土層説明
1. 黒褐色土層 (10YR2/3) バミスが少量混入。
 2. 黒褐色土層 (10YR3/2) 黄色ローム粒子が混入。

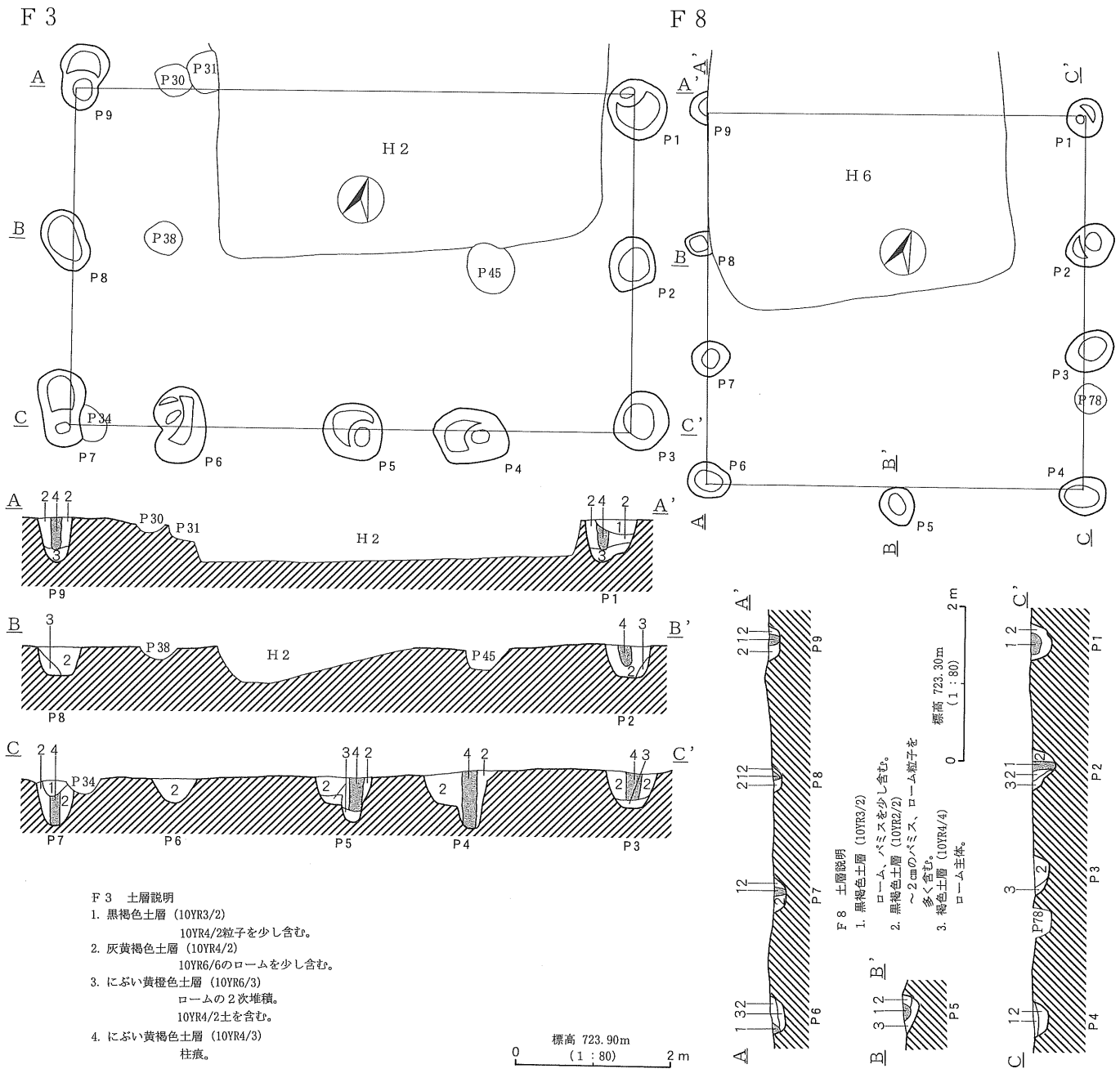


- F7 土層説明
1. 黒褐色土層 (10YR2/2) ~1cmのバミス、ローム粒子をわずかに含む。
 2. 黒褐色土層 (10YR2/2) ~2cmのバミスを多く含み、ローム粒子を含む。
 3. 褐色土層 (10YR4/6) ローム主体。



- F4 土層説明
1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 柱痕。1cmバミス、ローム粒子を含む。
 2. 黒褐色土層 (10YR2/3) ~2cmバミス、ローム粒子を多く含む。

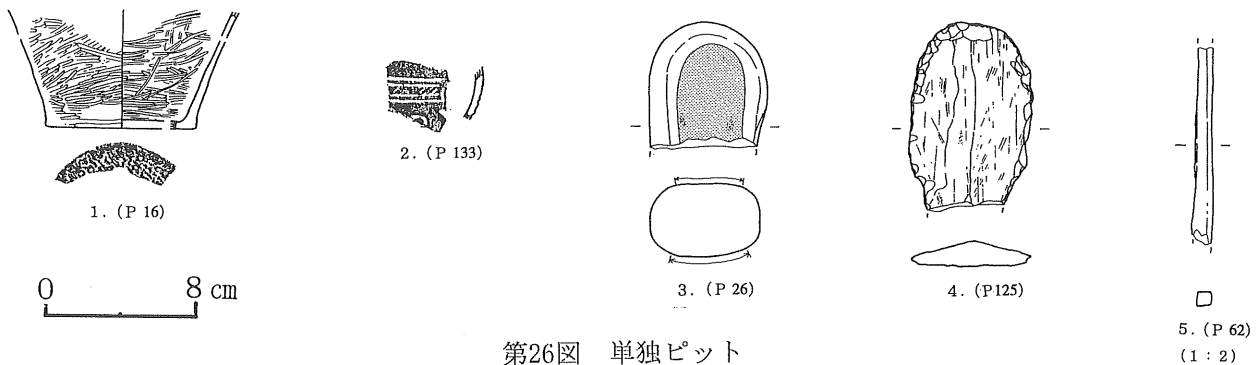
第24図 F2・F4・F7号掘立柱建物址



第25図 F3・F8号掘立柱建物址

3、単独ピット (第26図、第9表、図版14)

調査区から160個の単独ピットが検出された。住居址の側に単独ピットが密集してみられた。



第26図 単独ピット

2) M2号溝址 (第27図、図版8)

M1に切れ、その北に東西方向に伸びている。検出グリットはCあ1からCお1グリットである。幅56~92cm 深さ10~15cmの浅い溝である。西に傾斜している。

出土遺物は8点の土器破片である。須恵器杯、甕底部、土師器杯、武蔵甕胴部といずれも小片である。土器片は古墳後期から奈良時代のもものと推測される。

3) M3号溝址 (第27図、図版8)

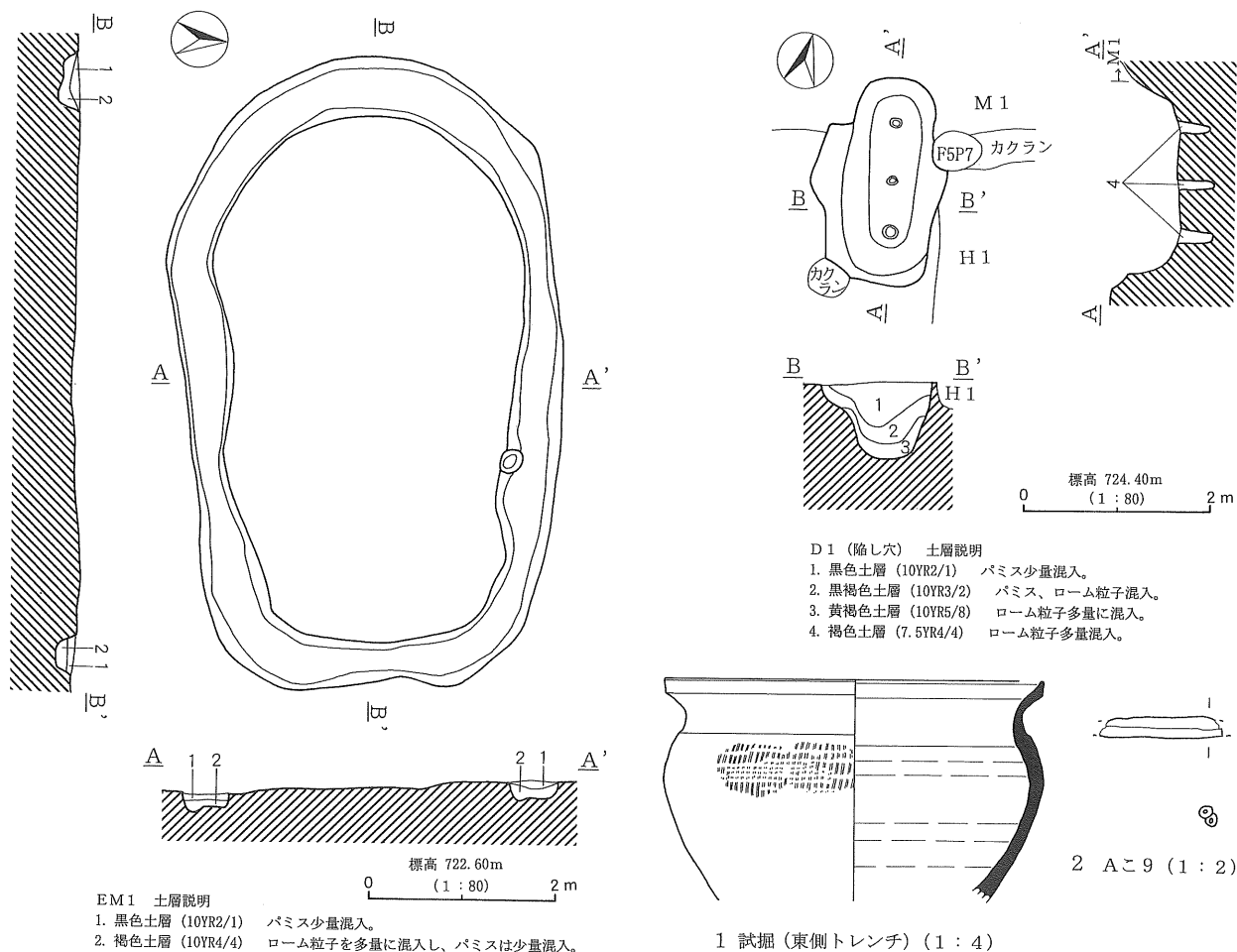
Aく6からCあ7グリットにあり、東西方向に伸びる溝である。古墳時代後期のH2に切られる。幅44~72cm 深さ9~20cmを測る。

遺物は出土していない。

5、円形周溝

1) EM1号円形周溝 (第28図、図版8)

調査区南端のDあ6グリットにあり、南北400cm、東西668cmの東西に長い楕円形に溝が巡っていた。溝幅は28~68cm、深さ16~27cmを測る。周溝の内部には遺構は認められなかった。



第28図 EM1号円形周溝・D1号土坑・試掘・グリット

出土遺物は土器破片のみで、12点ある。須恵器杯は底部回転ヘラ切り離した後ナデ調整される。須恵器甕胴部片は外面タタキ内面ナデ調整、須恵器甕口縁部、土師器長胴甕胴部片、丸胴甕、武蔵甕胴部片がある。土器片の該期は古墳から奈良時代である。

6、陥穴

1) D1号土坑(第28図)

調査区北のCい2グリッドで検出された。北側をM1に切られている。長径220cm、短径116cmの楕円形を呈する。深さ74cmを測り、底面からは杭痕が3個検出された。

出土遺物はない。

第9表 単独ピット出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整			残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	縄文土器 深鉢	— (7.8) <6.3>	内 外	ミガキ ミガキ		底部1/3残存 内 10YR6/3(にぶい黄橙) 外 7.5YR5/4(にぶい褐)	緻密。 底部に網代痕あり。	P16
2	縄文土器 深鉢							P133
番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備 考		出土位置
3	擦石	6.7	6.3	3.9	268			P26
4	打斧	10.0	6.6	1.3	120	安山岩		P125
5	鉄製品	<5.2>	0.4	0.3	40			P62

第10表 溝址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整			残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	須恵器 杯	— (9.2) <2.7>	内 外	ロクロナデ ロクロナデ→底部切り離し→高台貼付		底部1/6残存 5Y6/1(灰)	1mm以下の白色粒子少量含む。	M1
2	須恵器 甕	— (16.8) <2.6>	内 外	ヘラナデ 胴下半・回転ヘラケズリ		底部1/4残存 7.5Y6/1(灰)	1mm以下の白色粒子、2mm以下の黒色粒子含む。	M1
番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備 考		出土位置
3	擦石	4.2	5.0	1.8	20	軽石製		M1

第11表 試掘・グリッド出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整			残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	須恵器 甕	(20.4) — <11.8>	内 外	胴部ロクロナデ→口縁部横ナデ 胴部タタキ目→横ナデ・口縁部横ナデ		口縁部1/4残存 10Y6/1(灰)	1mm以下の白色粒子含む。	試掘東側トレンチ P1
番号	種類	長さ	巾	厚さ	g	備 考		出土位置
	鉄製品	<3.3>	0.6	0.4	1			A-こ-9

第V章 総括

周防畑遺跡群入高山遺跡では竪穴住居址8棟、掘立柱建物址8棟、溝址3本、円形周溝1本、陥穴1基を検出した。

1、竪穴住居址

第IV章で述べたように、竪穴住居址は古墳時代後期～平安時代初頭までの変遷がみられた。

竪穴住居址の土器を時期別にまとめたものが第29・30図である。

I期(古墳時代後期7C代) H2・H3・H7

H2・H3の土器は土師器杯と丸胴甕が共通する器種であるが、長胴甕はH3になく、鉢はH2にないというように出土遺物に片寄りがある。しかし土師器杯の形態は同じであることからほぼ同時期と見なした。H2の飾り太刀の鞘尾金の編年が7C中葉以降という年代とすれば、本住居址の土器群も近い時期であることは土器の特徴などから明らかである。しかし、須恵器模倣杯が多出し、杯底部がヘラケズリで全体に内湾し、口縁部だけ横ナデする器形の杯がないことから7C前半に置きたい所である。

次にH7号住居址は、須恵器模倣杯の外側の稜の屈曲がなくなり、ヘラケズリと横ナデの調整の異なりからできる稜のみのものがみられ、新しい様相がある。28・29長胴甕は鉢形を呈し、他の時期に類例がなく、この期の特徴とす

ることができる。

Ⅱ期（古墳時代後期末） H8

H8は破片資料が多く、使用していた土器の確定は困難である。武蔵甕は存在する。かえりのある須恵器蓋はTK46~TK48窯型式と類似し、7C中頃から7C末頃までの年代があげられている。

Ⅲ期（奈良時代前半） H4・H5

H4・5は須恵器杯は回転ヘラケズリ、畿内系暗文の土師器杯、甕は口縁部形態「く」の字の武蔵甕で構成される。

Ⅳ期（奈良時代末~平安初頭） H6

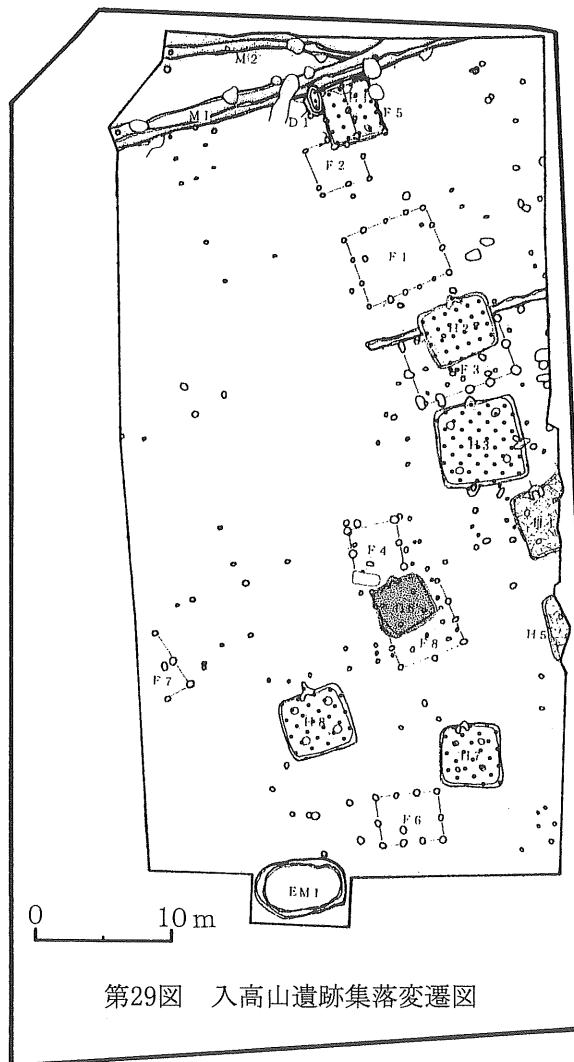
H6号住居址は底部回転糸切り離しの須恵器杯と武蔵甕で構成される。須恵器蓋は扁平な紐がつき、口縁端部が折れるものである。須恵器杯は火樨がみられ黒色が強い。武蔵甕は口縁部形態に「コ」の字形態がみられるようになる。

2、掘立柱建物址

竪穴住居址と同数の掘立柱建物址が検出された。規模は中型から大型の掘立柱建物址である。F1が梁行き3間であるが他は梁行きは2間である。竪穴住居址と重複のある、H2とF3ではF3が古く、古墳時代後期(7c代)より古い。H6とF8では奈良末~平安初頭のH6より古いことがわかった。しかし、掘立柱建物址と竪穴住居址の関連を直接確かめる資料はなかった。

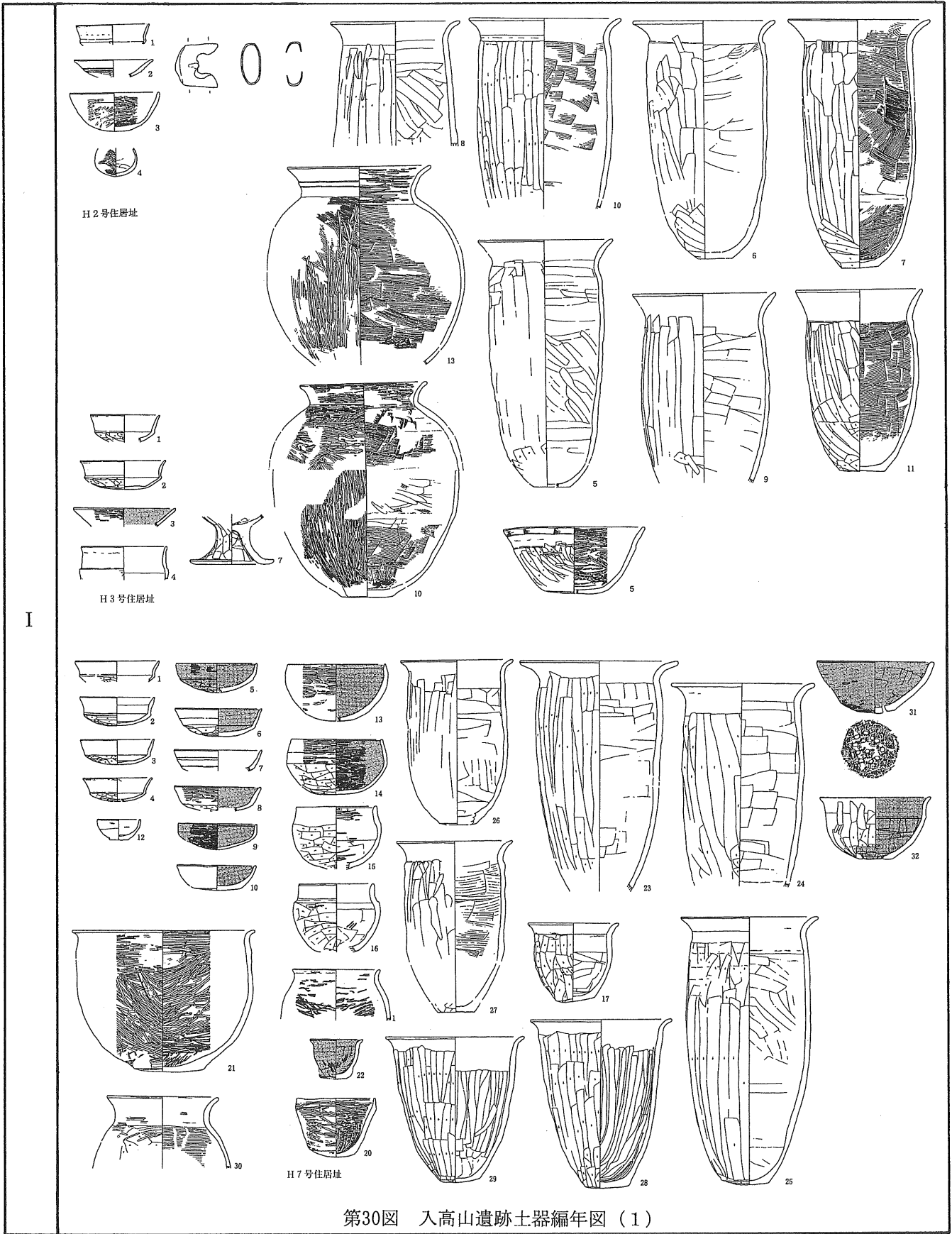
3、近隣遺跡との関連

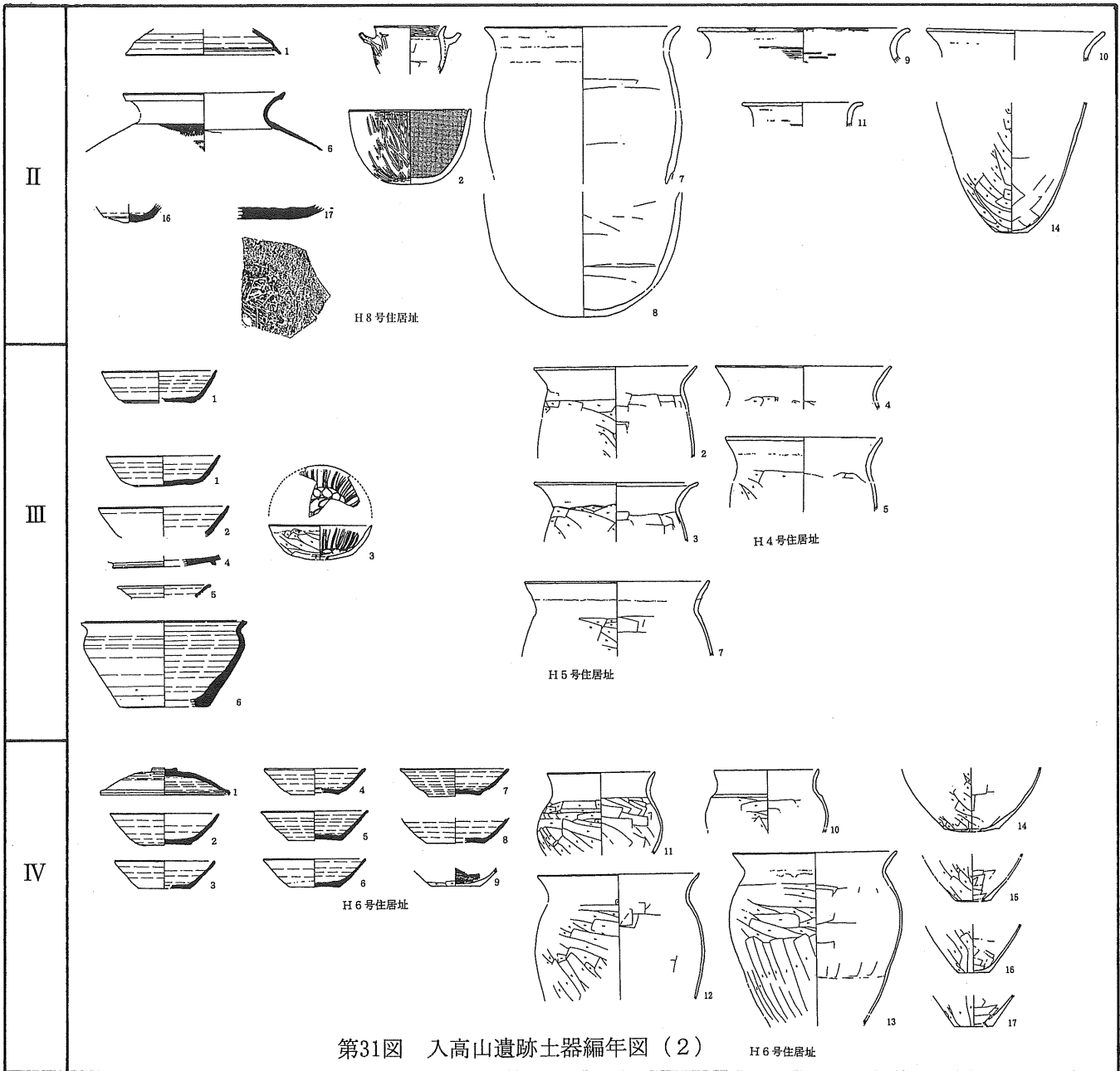
本調査区北西の道路北側で周防畑A遺跡が発掘調査され、やはり古墳から平安時代初頭の竪穴住居址・掘立柱建物址などが調査されているが、本遺跡と同時期の集落である。この台地の縁辺に集落が展開している資料が追加できた。



第29図 入高山遺跡集落変遷図

- 古墳時代
- 奈良時代
- 奈良末~平安時代





第31図 入高山遺跡土器編年図(2) H 6号住居址

引用参考文献

- 1971 田辺昭三『須恵器大成』角川書店
- 1978 (財)大阪文化財センター『陶邑Ⅲ』
- 1980 佐久市教育委員会『周坊畑A』
- 1981 中村浩『和泉陶邑窯の研究』柏書房
- 1984 滝瀬芳之『日本古代文化研究』創刊号「円頭・圭頭・方頭太刀について」
- 1987 御代田町教育委員会『前田遺跡』
- 1991 雄山閣『古墳時代の研究第6巻 土師器と須恵器』
- 1994 小諸市教育委員会『東下原・大下原・竹花・舟窪・大塚原』
長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書『松原遺跡』
- 1999 長野県考古学会弥生部会編『長野県の弥生土器』
- 1999 佐久市教育委員会『西一本柳Ⅲ・Ⅳ』
- 2000 長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書54『更埴条理遺跡・屋代遺跡群一総論編』

第12表 周防畑遺跡群入高山遺跡遺構一覧表

竪穴住居址

住居番号	出土位置	規 南北×東西×深さ(cm)	模 横	形態	カマド・炉	火処位置	重複関係	時代	主軸方位	備考
H1	Cあ2	424×380×8		長方形	—	—	F5・M1に切られる D1を切る		N-24°-W	
H2	Aけ6	400×480×48		長方形	カマド	北壁	M3・F3を切る		N-77°-E	
H3	Aく8	560×580×53		方形	カマド	東壁			N-13°-W	北壁に旧カマドあり。
H4	Aき9	464×400×52		隅丸長方形	カマド	北壁			N-27°-W	東側調査区域外。
H5	Bき1	476×—×57		—	—	—			N-17°-W	〃
H6	Bこ1	348×364×45		方形	カマド	北壁	F8を切る		N-28°-W	
H7	Bく4	428×436×50		方形	カマド	北壁			N-5°-W	
H8	Dあ3	452×484×50		方形	カマド	北壁			N-28°-W	

掘立柱建物址

遺構名	様式	出土位置	桁行×梁間 (間)	桁行×梁間 (m)	桁行柱間 (m)	梁間柱間 (m)	長軸方位	柱穴規模(cm)		備考
								径	深さ	
F1	側柱式	Aこ4	4×3	6.40×5.24	1.04・1.20~1.72	1.6~1.96	N-63°-E	24~44	11~37.5	南列柱穴が1個多い。
F2	側柱式	Cあ3	2×2	3.64×3.40	1.52~2.28	1.68	N-15°-W	36~44	14.5~24	H1・F5に切られる。
F3	側柱式	Aく6	4×2	7.28×4.40	1.6~2.16	2.0~2.4	N-67°-E	48~100	42~79	H2・M3に切られる。
F4	側柱式	Aこ10	1×2	3.60×3.52	1.6~1.8	3.60	N-75°-E	56~68	48~57	カクランに切られる。
F5	総柱式	Cあ2	2×2	4.20×3.70	1.3~1.7	2.0~2.10	N-24°-W	34~54	58~108	H1と重なる。
F6	側柱式	Bけ5	3×2	4.60×3.60	1.40~1.60	1.80	N-80°-E	44~72	40~90	
F7	側柱式	Dえ2	—×2	—×4.40	1.92	2.20~2.80	N-38°-W	48~64	27~29	西側 調査区外。
F8	側柱式	Bけ1	3×2	4.84×4.92	1.60~1.72	2.40~1.72	N-65°-E	44~60	13~41	H6に切られる。

溝址・円形周溝

遺構名	出土位置	幅(cm)	深さ(cm)	備考
M1	Aけ1~Cお3	130~184	26~41	東から西に低い(36cm)
M2	Cあ1~Cお1	56~92	10~15	〃(10cm)
M3	Aく6~Cあ7	44~72	9~20	〃(23cm)
EM1	Dあ6	28~68	16~17	南北400cm×東西668cm(周溝外側の数値)

陥穴

遺構名	検出位置	平面形	長軸長	短軸長	深さ (cm)	長軸方位	備考
D1	Cい2	楕円形	220	116	74	N-14°-W	杭痕は底面より36cm下がる

単独ピット(1)

No.	出土位置	規 模 長径×短径×深さ(cm)	平面形	覆 土 ・ 他	重複関係	出土遺物
P1	Aく2	50×45×26.5	楕円形	黒褐色(10YR3/1)		
P2	Aけ2	70×50×30	楕円形	黒褐色(10YR3/1) 明黄褐色(10YR7/6)ローム少し含む	P28を切る	古墳 土師長胴甕胴部1
P3	Aけ2	48×44×14	円形	黒褐色(10YR2/2) 明黄褐色(10YR7/6)ローム少し含む		
P4	Aけ2	54×38×28	楕円形	にぶい黄褐色(10YR4/3) 明黄褐色(10YR7/6)ローム少し含む	P7を切る	
P5	Aく3	34×32×15	円形	黒褐色(10YR2/2) 明黄褐色(10YR7/6)ローム少し含む		
P6	Aけ4	30×28×22	円形	黒褐色(10YR2/2) 明黄褐色(10YR7/6)ローム少し含む		
P7	Aけ2	64×62×29	円形	にぶい黄褐色(10YR4/3) 明黄褐色(10YR7/6)ローム少し含む	P4に切られる P29を切る	
P8	Aけ4	44×34×23	楕円形	にぶい黄褐色(10YR4/3) 明黄褐色(10YR7/6)ローム少し含む		
P9	Aけ4	60×50×27.5	楕円形	にぶい黄褐色(10YR4/3) 明黄褐色(10YR7/6)ローム少し含む		
P10	Aく4	78×60×64.5	楕円形	黒褐色(10YR2/2) 明黄褐色(10YR7/6)ローム含む	P55を切る	古墳 甕1
P11	Aく5	44×30×21	楕円形	にぶい黄褐色(10YR4/3)		
P12	Aく5	26×24×13.5	円形	黒褐色(10YR3/1) 明黄褐色(10YR7/6)ローム含む		
P13	Aく5	30×24×23	楕円形	黒褐色(10YR3/1) 明黄褐色(10YR7/6)ローム含む		
P14	Aけ5	138×94×60	楕円形	灰黄褐色(10YR5/2) 黒褐色(10YR3/1)含む		
P15	Aく6	52×(50)×10	円形	黒褐色(10YR5/2)		
P16	Aけ5	110×96×54	楕円形	黒褐色(10YR2/2)炭化物 褐色(10YR4/6)ローム少し含む		奈良 須恵杯1 底部 へら削り 縄文 深鉢1
P17	Aく4	50×50×36	円形	灰黄褐色(10YR5/2) 明黄褐色(10YR7/6)ローム含む		
P18	Aく3	74×(72)×75	円形	黒褐色(10YR2/2) 明黄褐色(10YR7/6)ローム含む		
P19	Aく3	56×48×74	楕円形	黒褐色(10YR2/2) 明黄褐色(10YR7/6)ローム含む		
P20	Aこ4	80×74×25.5	円形	にぶい黄褐色(10YR5/3) 浅黄橙色(10YR8/3)ローム多く含む		古墳 長胴カメ1 須恵杯1
P21	Cあ4	38×30×22	楕円形	にぶい黄褐色(10YR5/3)		
P22	Aく6	82×(50)×56	楕円形	黒褐色(10YR3/2) 明黄褐色(10YR7/6)ローム含む		古墳 丸胴カメ1 武蔵甕2
P23	Aく6	84×60×80	不整楕円形	黒褐色(10YR3/2)		古墳 長胴カメ2
P24	Aく6	48×48×25	円形	黒褐色(10YR2/2)		古墳 丸胴甕1
P25	Aく7	42×36×19	楕円形	黒褐色(10YR2/2)		
P26	Aく7	116×100×44	長方形	にぶい黄褐色(10YR5/3)	P60を切る	古墳 土師杯 内黒2 須恵甕1 スリ石
P27	Aく7	114×52×32	不整楕円形	にぶい黄褐色(10YR5/3)	P61を切る	
P28	Aけ2	66×(52)×30	楕円形	浅黄橙色(10YR8/4)・にぶい黄褐色(10YR5/3)・黒褐色(10YR2/3)土混在	P2に切られる	
P29	Aけ2	28×16×14	円形	黒褐色(10YR3/1)	P4・P7に切られる	
P30	Aこ7	44×40×14.5	円形	灰黄褐色(10YR4/2)		
P31	Aこ7	58×54×28	円形	灰黄褐色(10YR4/2) 明黄褐色(10YR7/6)ローム含む	H2を切る	
P32	Aく8	48×40×24	楕円形	黒褐色(10YR2/2)		
P33	Aく8	68×60×22.5	楕円形	黒褐色(10YR3/2) 明黄褐色(10YR7/6)ローム含む		
P34	Aこ8	50×38×20	楕円形	にぶい黄褐色(10YR5/3)		
P35	Aき8	50×(48)×19.5	円形	灰黄褐色(10YR4/2)		奈良 須恵杯1 底部 回転へら削り
P36	Aき9	50×50×38	円形	灰黄褐色(10YR4/2)		
P37	Aけ9	84×70×34.5	楕円形	にぶい黄褐色(10YR5/3)	H3を切る P73を切る	
P38	Aこ7	48×42×35	楕円形	黒褐色(10YR2/2)		
P39	Aこ7	72×58×24	不整楕円形	にぶい黄褐色(10YR5/3)		

単独ピット(2)

No.	出土位置	規 長径×短径×深さ(cm)	模 平面形	覆土・他	重複関係	出土遺物
P40	Aく9	48×40×29	橢円形	黒褐色(10YR3/2)	P118を切る	
P41	Aけ7	66×40×25	橢円形	黒褐色(10YR3/2)		
P42	Aく7	38×36×18	円形	黒褐色(10YR3/2)		
P43	Aけ7	32×28×22	橢円形	黒褐色(10YR3/2)	P62を切る	
P44	Aけ7	44×38×21	橢円形	黒褐色(10YR3/2)	P62を切る	
P45	Aけ7	70×60×36	不整橢円形	黒褐色(10YR3/2)		
P46	Aけ7	44×34×18.5	橢円形	黒褐色(10YR3/2)		
P47	Aけ7	36×34×25	円形	にぶい黄褐色(10YR4/3)		古墳 長胴甕1
P48	Aこ8	64×56×41	橢円形	にぶい黄褐色(10YR5/3)		
P49	Aこ8	36×36×23	円形	黒褐色(10YR3/2)		
P50	Aこ9	32×30×32	円形	黒褐色(10YR3/2)		
P51	Aこ8	42×38×21	円形	黒褐色(10YR3/2)		
P52	Aこ5	30×24×18	橢円形	黒褐色(10YR3/2)		
P53	Cあ5	44×42×80	円形	灰黄褐色(10YR4/2)		
P54	Cあ6	44×40×23.5	円形	黒褐色(10YR3/2) 明黄褐色(10YR7/6)ローム含む		
P55	Aく4	112×58×74.5	橢円形	にぶい黄褐色(10YR5/3)・黒褐色(10YR3/2)	P10に切られる	
P56	Cう5	48×42×36.5	橢円形	灰黄褐色(10YR4/2)		
P57	Cえ5	48×42×31.0	橢円形	黒褐色(10YR3/2)		
P58	Aこ9	52×36×22.5	橢円形	黒褐色(10YR2/2)		
P59	Cう6	48×42×22.5	橢円形	灰黄褐色(10YR4/2)		
P60	Aく7	72×60×58	橢円形	黒褐色(10YR2/2)	P26に切られる	
P61	Aく7	(70)×58×36	橢円形	黒褐色(10YR2/2)	P27に切られる	
P62	Aけ7	68×60×30	橢円形	灰黄褐色(10YR4/2)	P43、P44に切られる	須恵甕 1 鉄製品 1
P63	Aこ6	62×54×29	橢円形	にぶい黄褐色(10YR5/3)		須恵瓶口縁1 古墳 土師杯1
P64	Aけ6	68×60×29	橢円形	にぶい黄褐色(10YR5/3)		
P65	Aけ6	40×34×20	橢円形	にぶい黄褐色(10YR5/3)		
P66	Aこ8	52×44×24	不整橢円形	にぶい黄褐色(10YR5/3)		
P67	Cあ10	60×42×28	橢円形	黒褐色(10YR3/1)		
P68	Cあ10	44×42×26	円形	黒褐色(10YR3/1)		
P69	Cあ10	50×42×27	橢円形	にぶい黄褐色(10YR5/3)		
P70	Bけ1	34×32×35	円形	黒褐色(10YR3/2)		古墳 土師器杯1
P71	Bこ1	42×36×25	橢円形	黒褐色(10YR3/2)		
P72	Aこ10	56×52×49	円形	黒褐色(10YR3/2)		
P73	Aけ9	(104)×70×23.5	不整橢円形	灰黄褐色(10YR4/2)	P37に切られる	須恵甕胴部1 古墳土師杯内黒1 甕1
P74	Aこ10	38×36×19	円形	黒褐色(10YR3/2)		
P75	Aこ10	46×36×26	橢円形	黒褐色(10YR3/2)		
P76	Aこ10	60×46×39	橢円形	黒褐色(10YR3/2)	F4に切られる	土師器 武蔵甕1 古墳 丸胴甕1
P77	Cあ10	(34)×28×29	橢円形	にぶい黄褐色(10YR5/3)	F4に切られる	
P78	Bけ2	40×36×24	円形	にぶい黄褐色(10YR5/3)		古墳 土師器 丸胴カメ
P79	Cえ3	24×14×18	橢円形	灰黄褐色(10YR4/2)		

単独ピット(3)

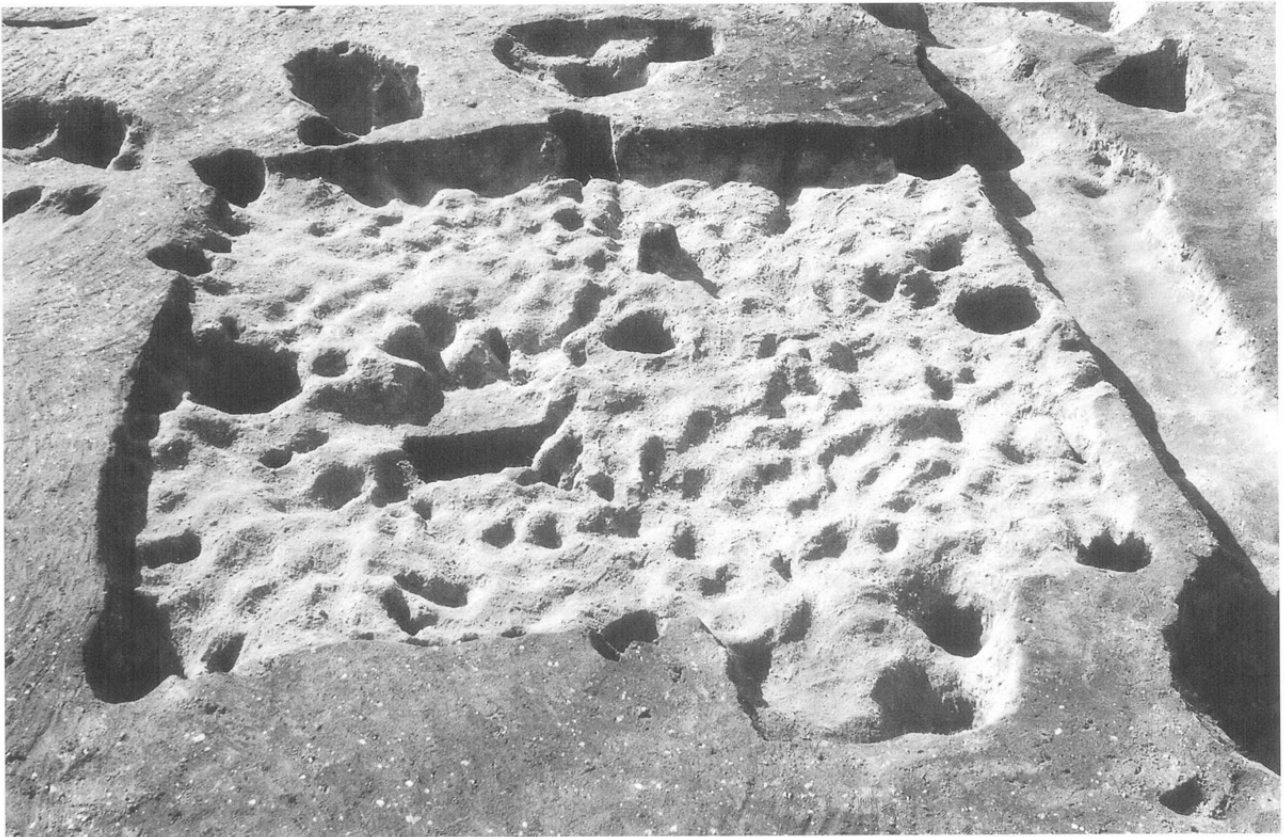
No.	出土位置	規 模 長径×短径×深さ(cm)	平面形	覆 土 ・ 他	重複関係	出土遺物
P80	Cえ3	34×32×10	円形	灰黄褐色(10YR4/2)		
P81	Cえ4	30×28×12.5	円形	灰黄褐色(10YR4/2)		
P82	Cえ4	46×36×25.5	楕円形	灰黄褐色(10YR4/2)		
P83	Cえ4	28×22×11	楕円形	にぶい黄褐色(10YR5/3)		
P84	Cえ4	32×30×16	円形	灰黄褐色(10YR4/2)		
P85	Cお3	24×20×9.5	楕円形	にぶい黄褐色(10YR5/3)		
P86	Cえ3	54×50×63.5	円形			
P87	Cお2	68×44×58	楕円形	にぶい黄褐色(10YR5/3)		
P88	Cお2	48×44×31	円形	にぶい黄褐色(10YR5/3)		
P89	Cあ1	(70)×40×29	楕円形	黒褐色(10YR3/2)		
P90	Cい4	50×46×27	不整円形	黒褐色(10YR2/2)		古墳 土師丸胴甕1
P91	Bけ1	58×50×38	楕円形	黒褐色(10YR3/2)		
P92	Bけ1	42×42×31.5	円形	にぶい黄褐色(10YR5/3)		
P93	Bけ1	30×22×17	楕円形	にぶい黄褐色(10YR5/3)		
P94	Bけ2	42×20×39	楕円形	にぶい黄褐色(10YR5/3)		
P95	Bけ2	58×52×36	楕円形	にぶい黄褐色(10YR5/3)		
P96	Bけ2	52×42×33.5	楕円形	にぶい黄褐色(10YR5/3)		
P97	Aく10	63×52×34	楕円形	にぶい黄褐色(10YR4/3)		
P98	Aく10	62×52×32	楕円形	にぶい黄褐色(10YR4/3)		
P99	Aけ10	58×54×32	円形	にぶい黄褐色(10YR4/3)		
P100	Aく10	54×48×35	楕円形	にぶい黄褐色(10YR5/3)		
P101	Bき5	32×28×18.5	楕円形	黒褐色(10YR3/2)		
P102	Bき5	26×24×14.5	円形	黒褐色(10YR3/2)		
P103	Bき5	26×22×17	楕円形	黒褐色(10YR3/2)		
P104	Bき5	28×28×17	円形	黒褐色(10YR3/2)		
P105	Bき6	28×26×11	円形	黒褐色(10YR3/2)		
P106	Bく6	24×18×10	楕円形	黒褐色(10YR3/2)		
P107	Aけ10	56×50×17.5	楕円形	黒褐色(10YR3/2)		
P108	Aけ10	42×30×23	楕円形	にぶい黄褐色(10YR5/3)		
P109	Aけ10	36×34×16	円形	にぶい黄褐色(10YR5/3)		
P110	Bく1	70×48×41	楕円形	にぶい黄褐色(10YR5/3)		須恵器 器種不明2 土師 武蔵甕2
P111	Aく9	40×36×21	円形	黒褐色(10YR2/2)		奈良? 須恵杯1
P112	Dあ1	64×54×33	不整楕円形	黒褐色(10YR2/2)		
P113	Aく10	30×28×12.5	円形	にぶい黄褐色(10YR5/3)		
P114	Bこ1	34×32×28.5	円形	灰黄褐色(10YR4/2)		
P115	Bこ2	52×46×32.5	楕円形	にぶい黄褐色(10YR6/4)		
P116	Cあ3	74×66×59	楕円形			
P117	Aこ10	30×26×20	楕円形	黒褐色(10YR3/2)		
P118	Aく9	111×36×25	楕円形	黒褐色(10YR3/2)	P40に切られる	
P119	Dあ1	38×36×17	円形	黒褐色(10YR3/2)		
P120	Bけ3	50×44×19.5	楕円形	黒褐色(10YR3/2)		

単独ピット(4)

No.	出土位置	規 模 長径×短径×深さ(cm)	平面形	覆 土 ・ 他	重複関係	出土遺物
P121	Bこ2	38×32×42	橢円形	黒褐色(10YR3/2)		
P122	Bこ2	44×36×18	橢円形	黒褐色(10YR3/2)		
P123	Bこ2	40×36×40.1	円形	黒褐色(10YR3/2)		
P124	Dあ2	38×36×19	円形	黒褐色(10YR3/2)		
P125	Dあ3	40×38×28	円形	黒褐色(10YR3/2)		古墳 土師器甕2 打製石斧
P126	Bこ4	40×32×27.5	橢円形	にぶい黄褐色(10YR5/3)		
P127	Dあ5	60×54×25	円形	黒褐色(10YR2/2)		
P128	Dあ5	70×60×32.5	橢円形	黒褐色(10YR2/2)	P160を切る	
P129	Dい5	50×40×24	橢円形	灰黄褐色(10YR4/2)		
P130	Dい5	50×48×21.5	円形	黒褐色(10YR3/2)		
P131	Dい4	64×38×27	橢円形	にぶい黄褐色(10YR5/3)		
P132	Dい3	56×34×26	橢円形	黒褐色(10YR3/2)		
P133	Dあ6	72×64×28	橢円形	黒褐色(10YR3/2)		縄文2
P134	Dあ6	64×54×22	橢円形	黒褐色(10YR3/2)		
P135	Dあ1	52×34×37	不整橢円形	黒褐色(10YR3/2)		
P136	Bこ2	38×34×29.5	円形	にぶい黄褐色(10YR5/3)		古墳 土師長胴カメ1
P137	Bき3	60×54×33	円形	黒褐色(10YR3/2)		
P138	Bけ3	48×40×28.5	橢円形	にぶい黄褐色(10YR5/3)		古墳 土師器杯1
P139	Bこ6	82×70×47.5	橢円形	黒褐色(10YR3/2)		土師器 武蔵甕3 縄文1
P140	Bき3	58×50×50.5	橢円形	黒褐色(10YR3/2)		古墳 土師器杯2
P141	Dう3	38×34×21	橢円形	にぶい黄褐色(10YR5/4)	P150を切る	
P142	Dう2	42×36×42	橢円形	黒褐色(10YR3/2)		
P143	Dえ2	60×56×88	円形	にぶい黄褐色(10YR5/3)		
P144	Dう2	46×42×26	円形	黒褐色(10YR3/2)		
P145	Dう1	62×52×50	橢円形	灰黄褐色(10YR4/2)		
P146	Dう1	50×40×33	橢円形	灰黄褐色(10YR4/2)		
P147	Dい1	50×48×28	円形	黒褐色(10YR3/2)		
P148	Dい3	28×24×15	橢円形	黒褐色(10YR3/2)		
P149	Dい3	22×22×13.5	円形	黒褐色(10YR3/2)		
P150	Dう3	60×50×28	橢円形	灰黄褐色(10YR4/2)	P141に切られる	
P151	Dえ3	90×76×19	橢円形	黒褐色(10YR3/2)		
P152	Dえ2	44×38×25	橢円形	黒褐色(10YR3/2)		
P153	Cう10	70×56×40	橢円形	にぶい黄褐色(10YR5/3)		
P154	Cお9	68×(50)×35	橢円形	黒褐色(10YR3/2)		
P155	Cお9	36×34×23	円形	にぶい黄褐色(10YR5/3)		
P156	Cえ8	66×44×36	橢円形	黒褐色(10YR3/2)		
P157	Cえ8	80×54×39	橢円形	黒褐色(10YR3/2)		
P158	Bこ1	(50)×48×31.5	円形	黒褐色(10YR3/2)	H6に切られる	
P159	Cう8	50×(40)×24	橢円形	黒褐色(10YR3/2)		
P160	Dあ5	(50)×50×31	円形	黒褐色(10YR3/2)	P128に切られる	



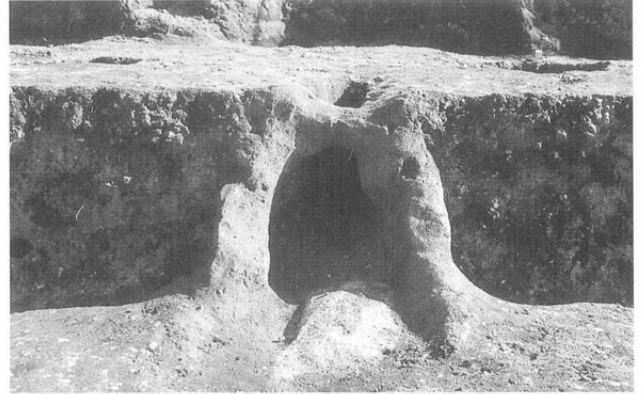
H1号住居址 完掘(東より)



H1号住居址 堀方(東より)



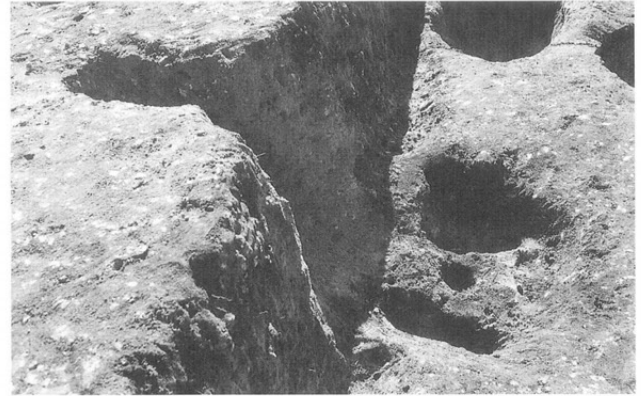
H3号住居址 完掘(南より)



H3号住居址 カマド(新)(西より)



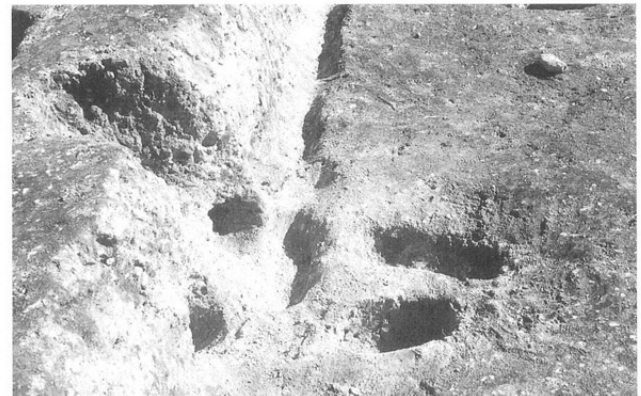
H3号住居址 遺物出土状況(南より)



H3号住居址 カマド堀方(北より)



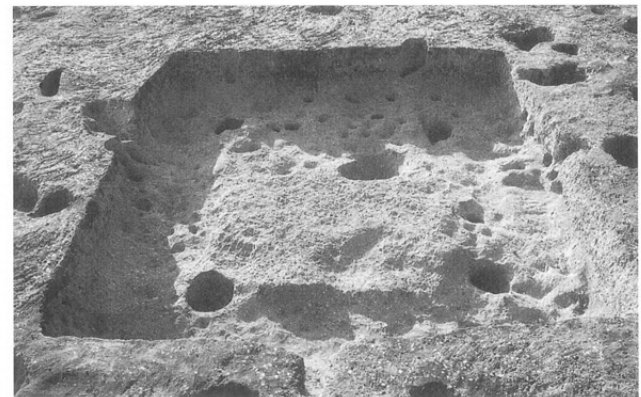
H3号住居址 遺物出土状況(南より)



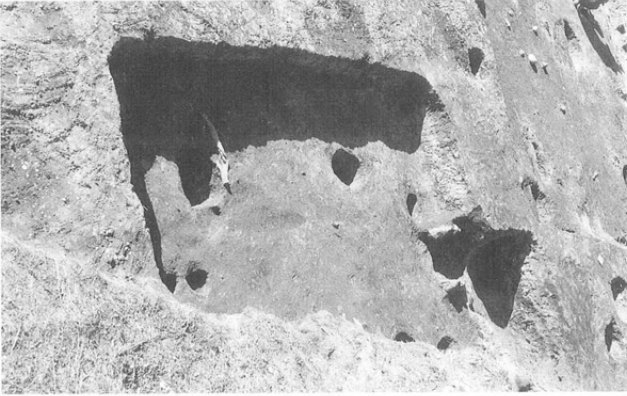
H3号住居址 カマド(旧)(東より)



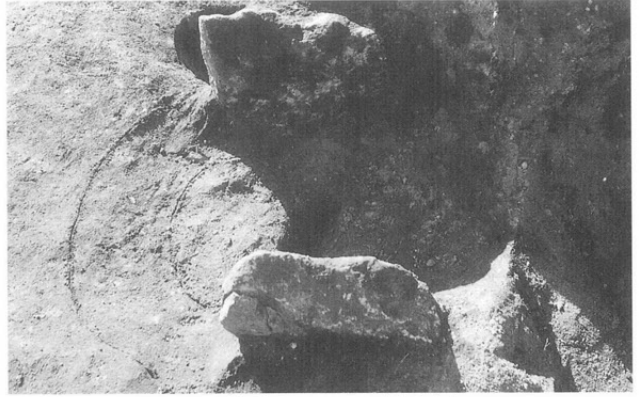
H3号住居址 カマド(旧)(南より)



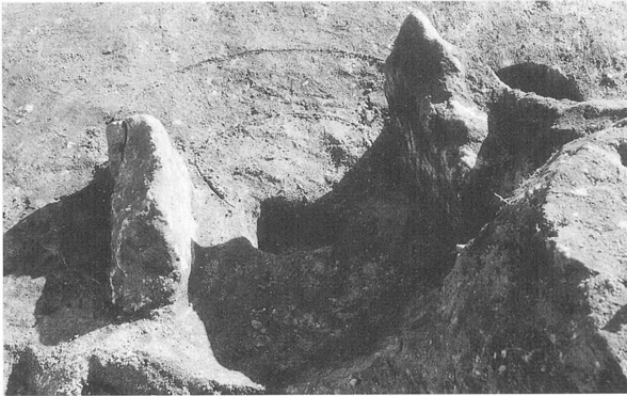
H3号住居址 堀方(東より)



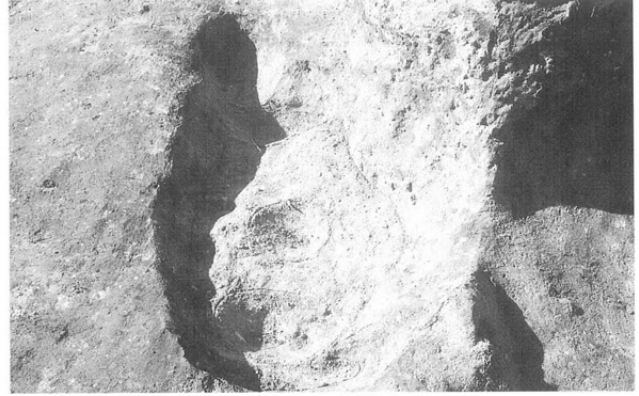
H4号住居址 完掘(南より)



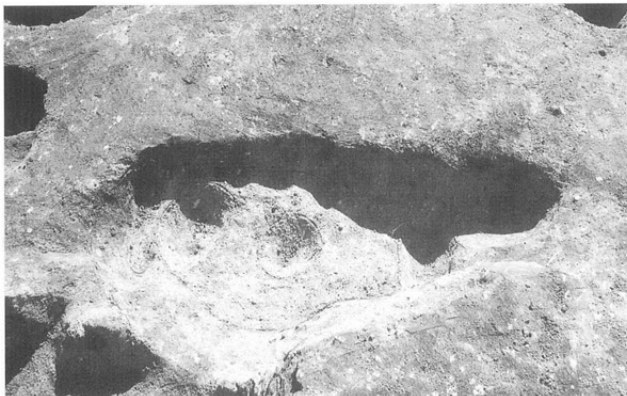
H4号住居址 カマド(東より)



H4号住居址 カマド(北より)



H4号住居址 カマド堀方(北より)



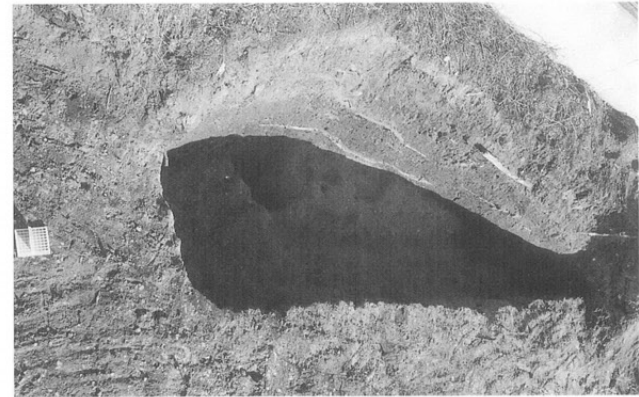
H4号住居址 カマド堀方(東より)



H4号住居址 堀方(南より)



H5号住居址 完掘(東より)



H5号住居址 堀方(北より)



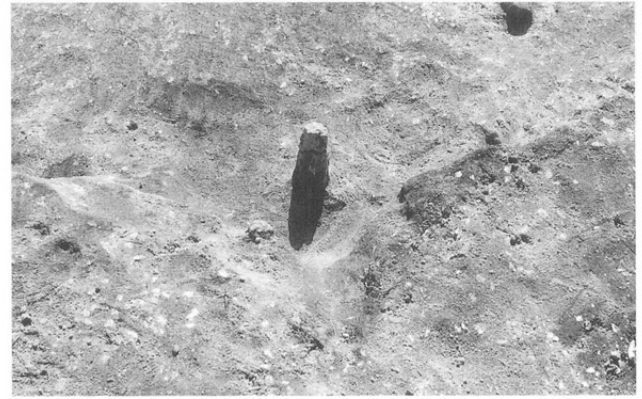
H6号住居址 完掘(南西より)



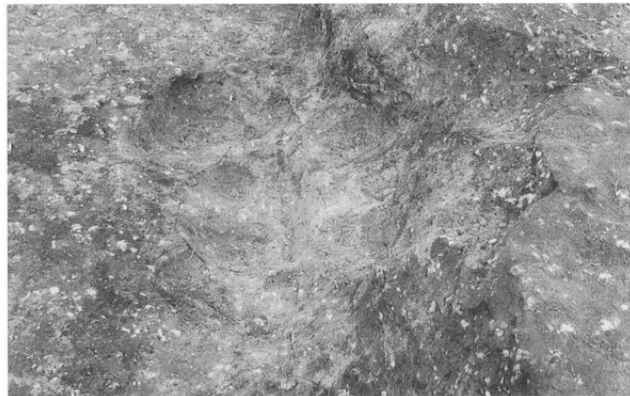
H6号住居址 完掘(南西より)



H6号住居址 カマド(東より)



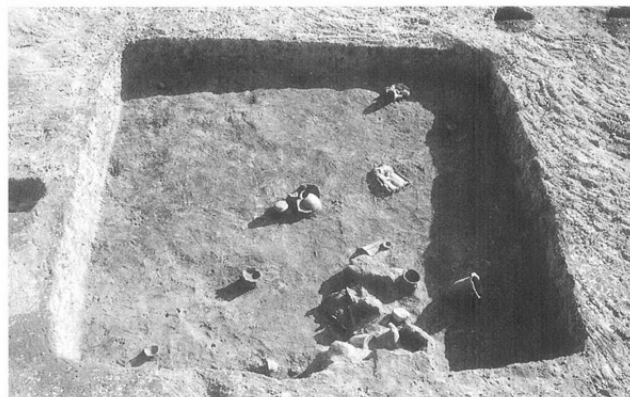
H6号住居址 カマド(西より)



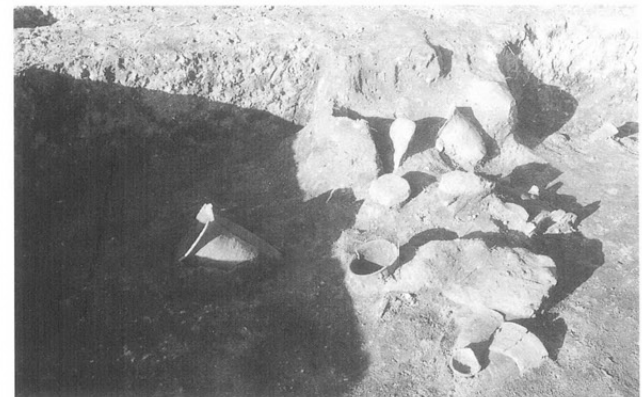
H6号住居址 カマド堀方(東より)



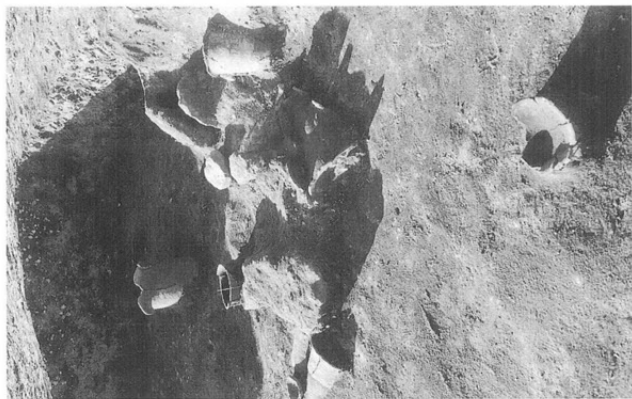
H6号住居址 堀方(南西より)



H7号住居址 遺物出土状況(北より)



H7号住居址 遺物出土状況(南より)



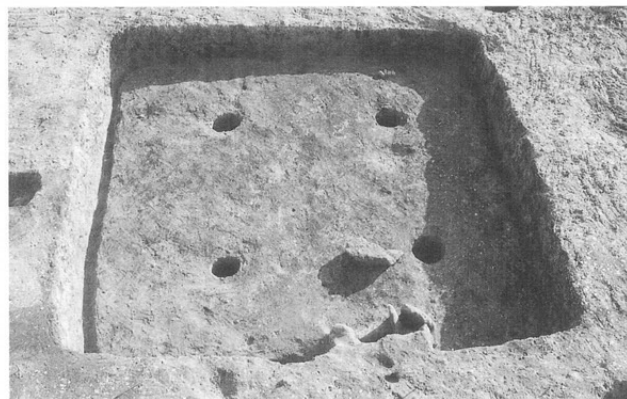
H7号住居址 遺物出土状況(東より)



H7号住居址 遺物出土状況(南より)



H7号住居址 編物石(南より)



H7号住居址 完掘(北より)



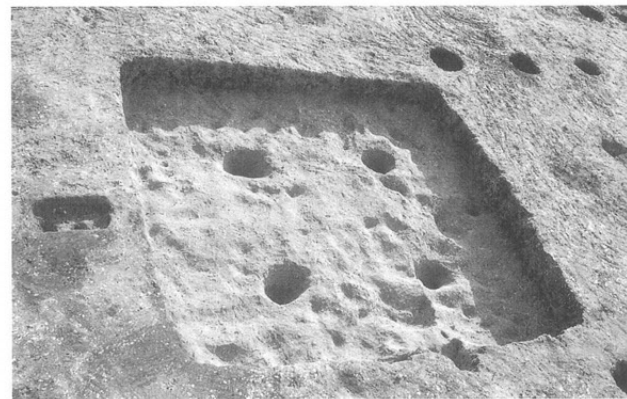
H7号住居址 カマド(東より)



H7号住居址 カマド(南より)



H7号住居址 カマド堀方(西より)



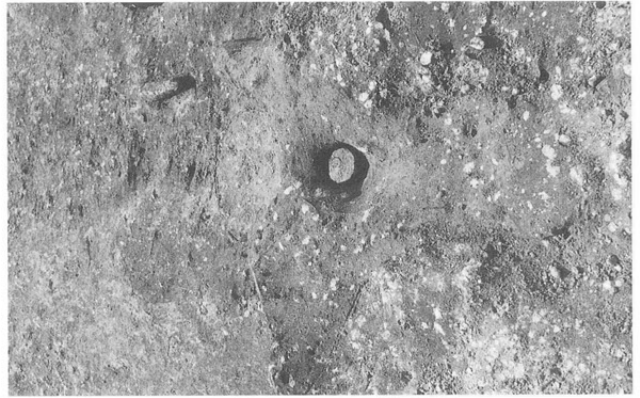
H7号住居址 堀方(北より)



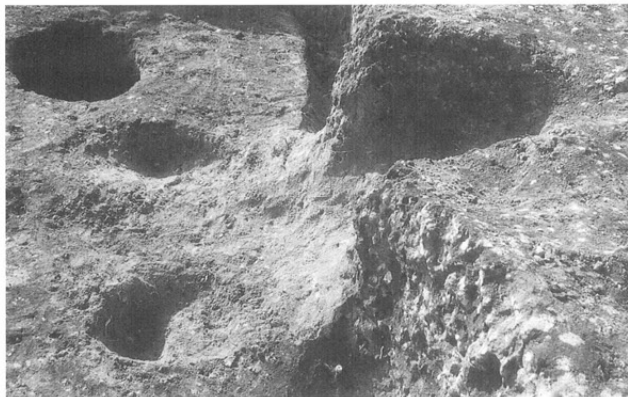
H8号住居址 完掘(東より)



H8号住居址 カマド(東より)



H8号住居址 カマド(北より)



H8号住居址 カマド堀方(東より)



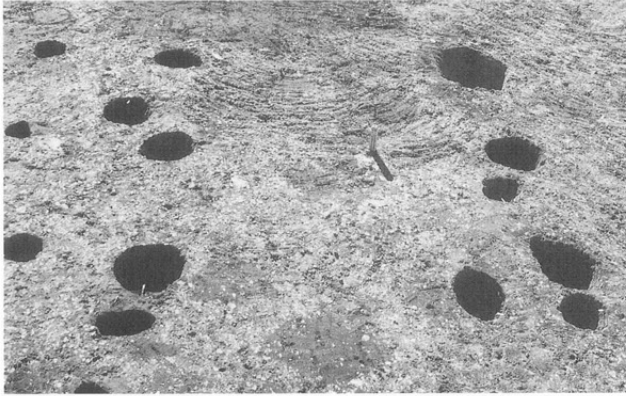
H8号住居址 堀方(南より)



F1号掘立柱建物址 完堀(北東より)



F3号掘立柱建物址 完堀(西より)



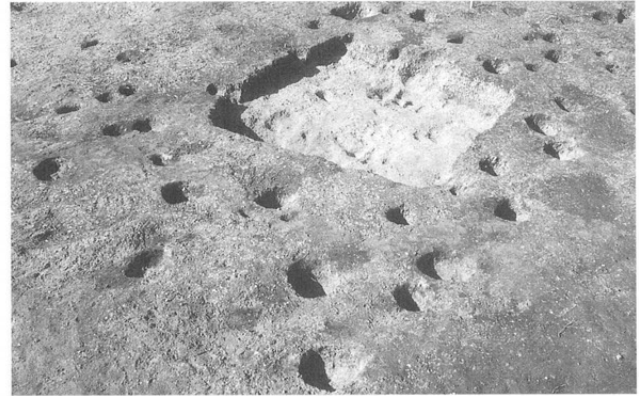
F4号掘立柱建物址 完堀(北より)



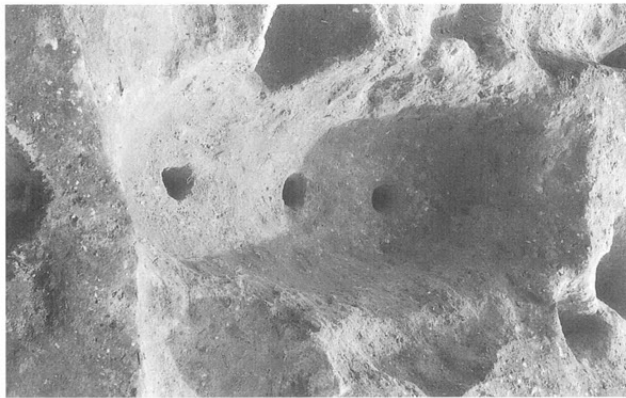
F6号掘立柱建物址 完堀(北東より)



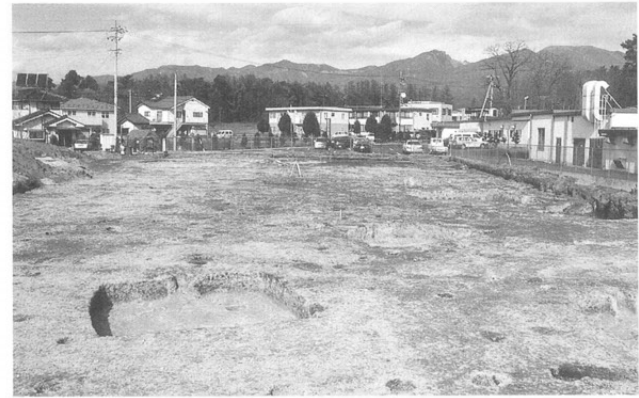
F7号掘立柱建物址 完堀(西より)



F8号掘立柱建物址 完堀(南西より)



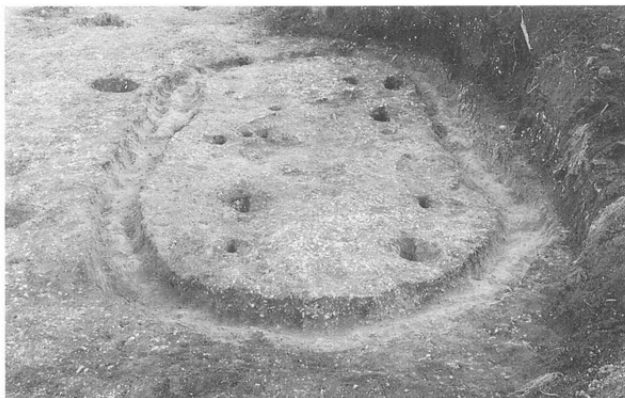
D1号土坑 完堀(北より)



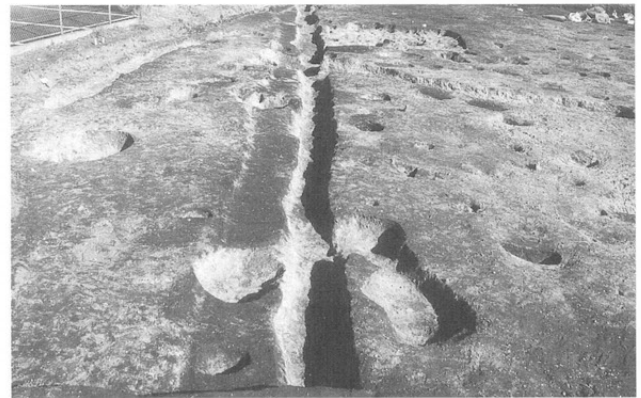
遺跡近景(南より)



EM1号円形周溝 完掘(北より)



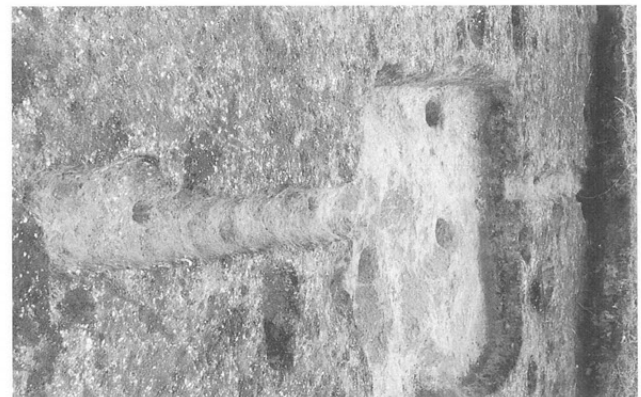
EM1号円形周溝 完掘(南西より)



M1号溝址 完掘(西より)



M2号溝址 完掘(西より)



M3号溝址 完掘(西より)



H 2 号住居址



11



15



13



16



18



17

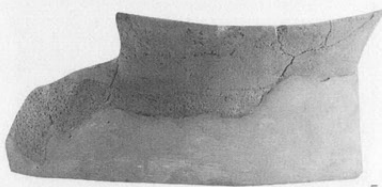
H2号住居址



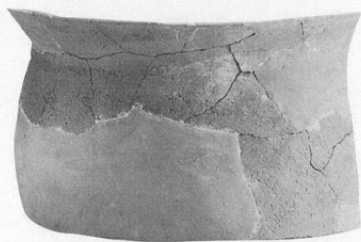
1



3



5



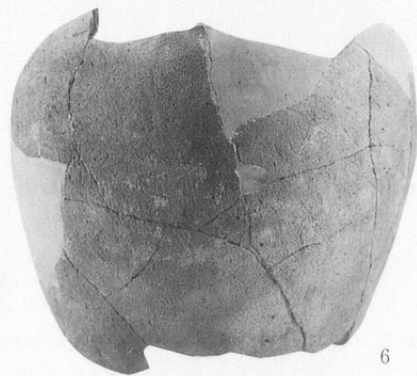
2



4

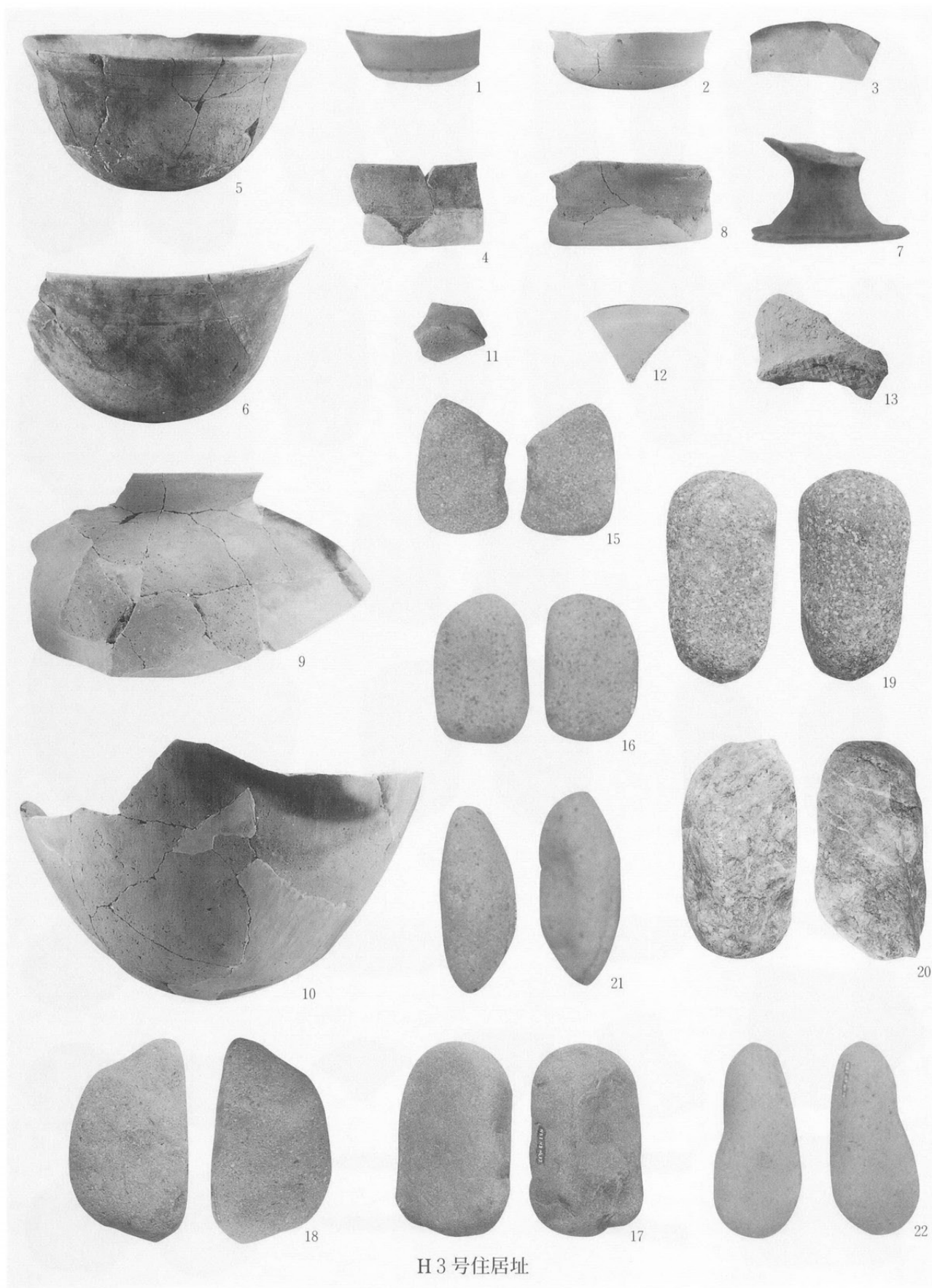


7

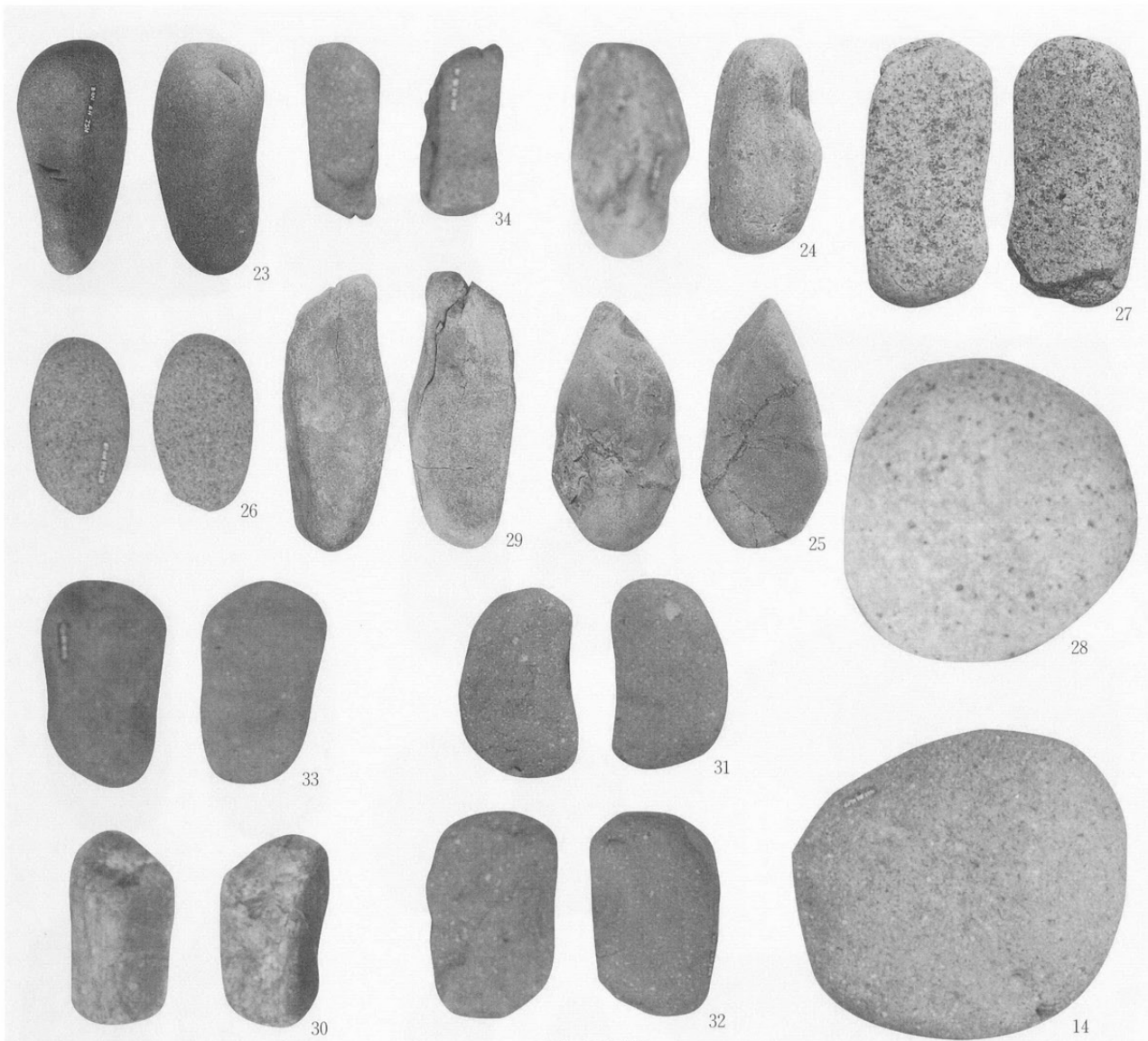


6

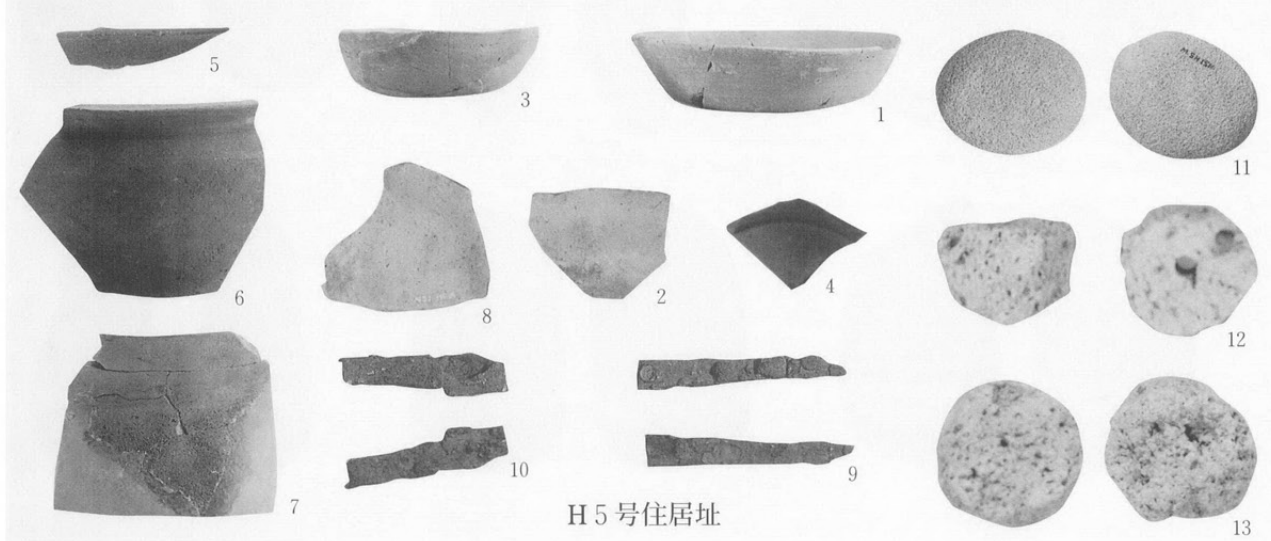
H4号住居址



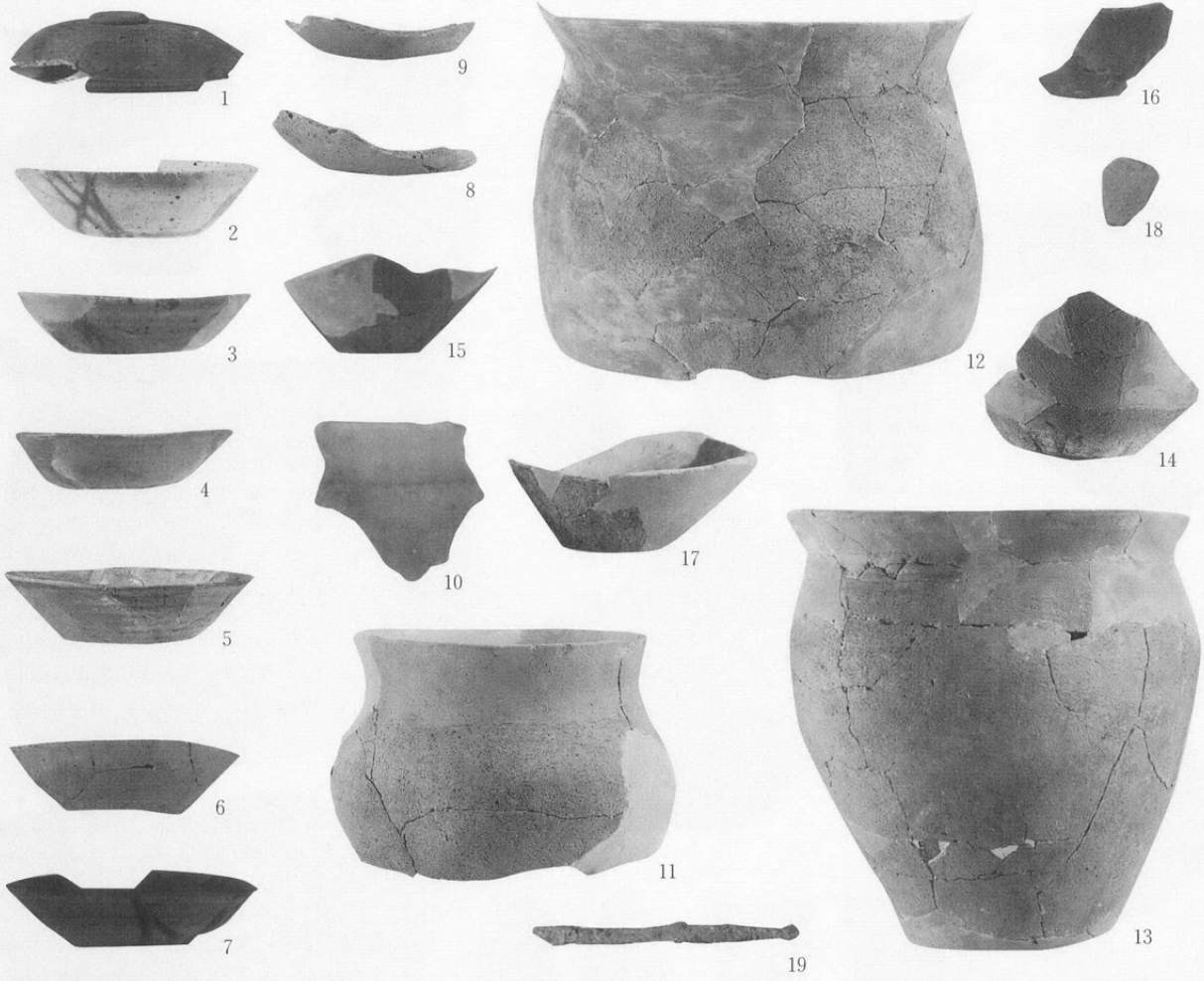
H 3 号住居址



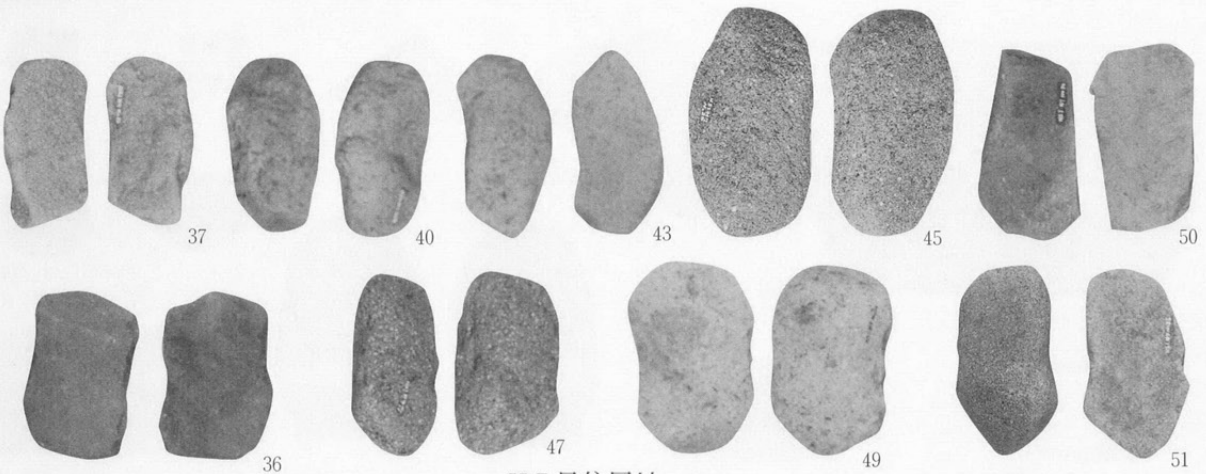
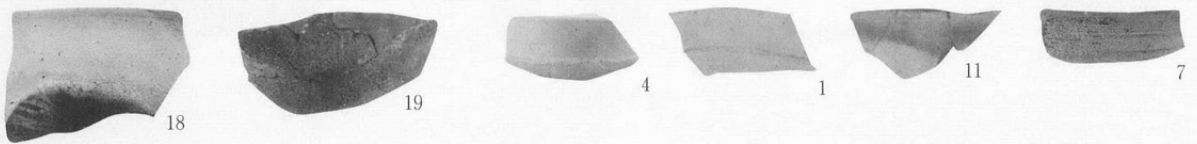
H3 号住居址



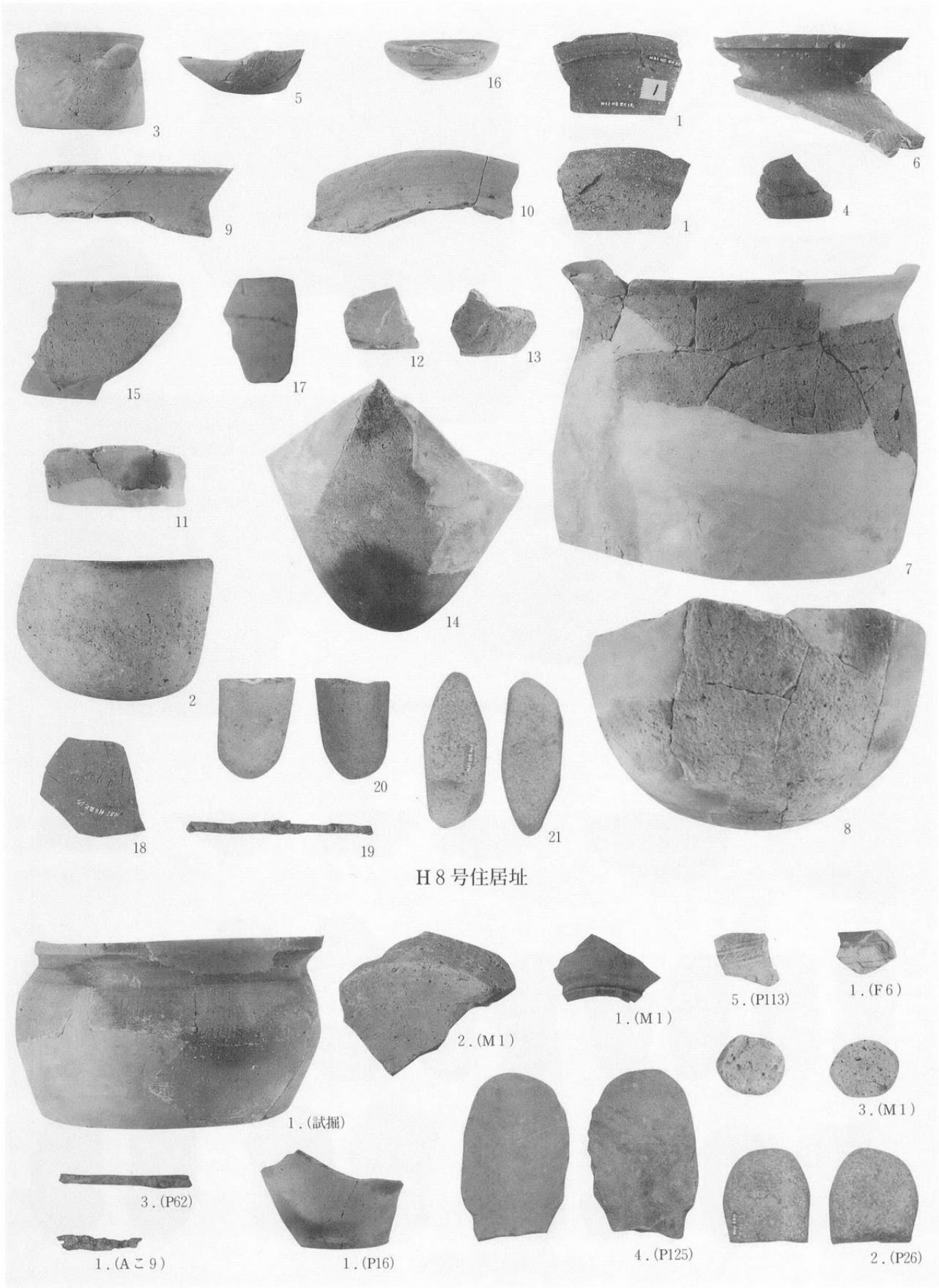
H5 号住居址



H 6 号住居址



H 7 号住居址



H8号住居址

佐久市埋蔵文化財調査報告書

- 第1集 『金井城跡』
第2集 『市内遺跡発掘調査報告書1990』
第3集 『石附窯址群Ⅲ』
第4集 『大ふけ』
第5集 『立科F遺跡』
第6集 『上曾根遺跡』
第7集 『三貫畑遺跡』
第8集 『瀧の下遺跡』
第9集 『国道141号線関係遺跡』
第10集 『聖原遺跡Ⅱ』
第11集 『赤座垣外遺跡』
第12集 『若宮遺跡Ⅱ』
第13集 『上高山遺跡Ⅱ』
第14集 『栗毛坂遺跡』
第15集 『野馬久保遺跡』
第16集 『石並城跡』
第17集 『市内遺跡発掘調査報告書1991』(1月～3月)
第18集 『西曾根遺跡』
第19集 『上芝宮遺跡』
第20集 『下聖端遺跡Ⅲ』
第21集 『金井城跡Ⅲ』
第22集 『市内遺跡発掘調査報告書1991』
第23集 『南上中原・南下中原遺跡』
第24集 『上聖端遺跡』
第25集 『上久保田向Ⅳ』
第26集 『藤塚古墳群・藤塚Ⅱ』
第27集 『上久保田向Ⅲ』
第28集 『曾根新城Ⅴ』
第29集 『筒村遺跡B 山法師遺跡B』
第30集 『市内遺跡発掘調査報告書1992』
第31集 『山法師遺跡A 筒村遺跡A』
第32集 『東ノ割』
第33集 『聖原遺跡Ⅶ 下曾根遺跡Ⅰ』
第34集 『西一本柳遺跡Ⅰ』
第35集 『市内遺跡発掘調査報告書1993』
第36集 『蛇塚B遺跡Ⅲ』
第37集 『西一本柳遺跡Ⅱ 中西ノ久保遺跡Ⅰ』
第38集 『南下中原遺跡Ⅱ』
第39集 『中屋敷遺跡』
第40集 『寺畑遺跡』
第41集 『曾根新城遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ
上久保田向遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ
西曾根遺跡Ⅱ・Ⅲ』
第42集 『寄山』
第43集 『権現平遺跡・池端遺跡』
第44集 『寺添遺跡』
第45集 『市内遺跡発掘調査報告書1994』
第46集 『濁り遺跡』
第47集 『上芝宮遺跡Ⅴ』
第48集 『池端城跡』
第49集 『根々井芝宮遺跡』
第50集 『藤塚遺跡Ⅲ』
第51集 『寺中遺跡 中屋敷遺跡Ⅱ』
第52集 『坪の内遺跡』
第53集 『円正坊遺跡Ⅱ』
第54集 『市内遺跡発掘調査報告書1995』
第55集 『番屋前遺跡Ⅰ・Ⅱ』
第56集 『聖原遺跡Ⅹ』
第57集 『高師町遺跡Ⅱ』
第58集 『下穴虫遺跡Ⅰ』
第59集 『市内遺跡発掘調査報告書1996』
第60集 『曾根城遺跡Ⅱ』
第61集 『割地遺跡』
第62集 『野馬久保遺跡Ⅱ』
第63集 『西大久保遺跡Ⅲ』
第64集 『梨の木遺跡Ⅳ』
第65集 『中宿遺跡』
第66集 『中西ノ久保遺跡Ⅱ 仲田遺跡 寺畑遺跡Ⅱ』
第67集 『供養塚遺跡』
第68集 『前藤部遺跡』
第69集 『高山遺跡Ⅰ・Ⅱ』
第70集 『観音堂遺跡』
第71集 『市内遺跡発掘調査報告書1997』
第72集 『市道遺跡Ⅱ』
第73集 『西一本柳Ⅲ・Ⅳ』
第74集 『五里田遺跡』
第75集 『八風山・五斗代』
第76集 『南近津』
第77集 『番屋前遺跡』
第78集 『蛇塚遺跡・蛇塚古墳』
第79集 『四ツ塚遺跡Ⅰ』
第80集 『四ツ塚遺跡Ⅱ』
第81集 『葉師寺遺跡』
第82集 『市内遺跡発掘調査報告書1998』
第83集 『下聖端遺跡Ⅳ』
第84集 『榛名平遺跡』
第85集 『柳堂遺跡』
第86集 『市内遺跡発掘調査報告書1999』
第87集 『宮添遺跡』
第88集 『下曾根遺跡』
第89集 『川原端遺跡』
第90集 『梨の木遺跡』
第91集 『西一本柳遺跡Ⅴ・Ⅵ・中長塚・松の木遺跡』
第92集 『辻の前遺跡Ⅱ・中仲田遺跡Ⅱ』

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第93集

周防畑遺跡群 入高山遺跡

一長野県佐久市長土呂入高山遺跡発掘調査報告書一

2001年3月

編集・発行 佐久市教育委員会

〒385-8501 長野県佐久市大字中込3056

文化財課

〒385-0006 長野県佐久市大字志賀5953
TEL 0267-68-7321

印刷所 株式会社 佐久印刷所
